

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 深江 誠子

講義内容・テーマ

現在日本の若者の性感染症は68万人にも達している。性感染症の1つであるエイズも厚生労働省の発表では15000人の患者がいるし、とりわけエイズは若者に急速に広まっている。しかし、日本の小・中・高等学校での性教育は、まだまだ不十分なので、性教育をしっかりやりたい。また、中高年の男性たちの自殺は3万4千人以上に及び、若者の精神もどんどん壊れてきている。親たちから自立できないパラサイトシングルも1000万人の出現している。その諸悪の根源は、日本の家族だと私は考えている。また今後日本は能力社会になっていき弱肉強食の時代の到来である。そんな時代でも、男女を問わず、いい女、いい男になっていきたいし、その方向を見定めて行きたい。また戦争の仕組みと現状も見たい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

私は自分の考えをはっきり言うつもりだ。でもその意見に学生さんは従う必要はない。私の意見への反発は多めに結構。その反発も考える力を育てるからだ。とにかく、生きていく情熱を持ってもらえたら、と思っている。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
その他	100 %	ビデオの感想

\* 日常点評価

受講生が多い場合はビデオをかなりみてもらうので、ビデオの感想を採点し、出席として、1日7点が満点で採点する。

講義スケジュール

内 容	キーワード
ジェンダーとは何か	
性教育	
エイズと映画「私を抱いてそしてキスして」	
”	
日本の男性の買春	
セクシャルハラスメント	
「従軍慰安婦」の問題点	
「従軍慰安婦」の現代的課題	
日本の婚姻史	
生活の中の環境問題	
夫・恋人からのDV	
戦争は何故起こるのか、そしてその現状。	
病院出産のこわさ	
ラマーズ法出産	
子育て・これからの男女のあり方	

テキスト

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
女と男の経済学	深江誠子 / 社会評論社 / 4-7845-0149-5

『家族ってなんだろう』深江 誠子 明石書店 生協で購入。

参考書

『女と男の経済学』深江 誠子著 社会評論社

『わたしの性ってなんだろう』深江 誠子著 松香堂 入手方法は講義の時に。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

<http://www.galstow.ne.jp/4/school/fukae>

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
担当教員 徐 勝

### 講義内容・テーマ

21世紀を迎えて、人権、環境、平和、ジェンダーなどが新しい世紀のキーワードとして登場してきている。これらの課題のすべてが、「人間が人間らしく生きることのできる世界」の創造を目指しているが、人権はその中心を成すものであり、21世紀は「人権の世紀」であると言われてきた。しかし、9・11以後、アメリカが「対テロ戦争」の旗印をかかげ、世界は「戦争の世紀」を迎えており、不安におびえている。アメリカの一国覇権のもとで、国際政治・国際法が満足に機能しない状況を迎えており、イラク戦争で明らかになったように、人権が広範にじゅうりんされている。

今日、人権ほど広く用いられている言葉は少ないが、明確に説明できる人は少ない。本講義では、「国家の強大な権力」からの自由と言う人権の基本的な概念をふまえて、人権の歴史や、いくつかのトピックを取り上げて、日本とアジアの関係を視野におきながら、分かりやすく理解することを目指す。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会問題に関心を持ち、毎日、新聞を読むこと。「なぜ？」という疑問を常に抱いて、自らに問いかけ、重要なキーワードを正確に理解することに心がけていただきたい。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	50 %	
レポート	50 %	中間に2～3回のレポートを課す。

期末試験と中間レポートを課す。それぞれ50%として総合する。講義における積極的な発言は歓迎する。

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
世界人権憲章(世界人権宣言、国際人権規約)を読む。	世界人権宣言、人権の国際化
第2次世界大戦と世界人権宣言の成立	第2次世界大戦、ジェノサイド、国連、国連憲章
人権とはなにか	人権、人権の普遍性、天賦人権、自然権
市民社会の形成と人権の成立	市民社会、フランス人権宣言、アメリカ独立、抵抗権
自由権的人権	社会契約説、公権力からの自由
人権論の展開(社会権)	原生的蓄積、労働人権、社会主義
発展権的人権	発展権、第三世界、民族自決権
アメリカの人権外交	人権外交、国益と人権
アジア的人権論	人権の特殊性、文化相対主義、集団的人権
国家安全保障論(非常事態論)と人権	国家安全保障、人間の安全保障
人権と戦争	戦争論、正戦論、イラク戦争
人道介入の論理と実際	人道介入、ICC条約(国際刑事裁判所条約)
戦後補償(日本とアジア)	強制連行、南京虐殺、日本軍「慰安婦」、
まとめ	
定期試験	

### テキスト

テキストは特に無い。配布するプリントにしたがって講義を進める。

### 参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
人権宣言集	高木八尺他 / 岩波文庫 /
国際人権条約・宣言集	田畑茂次郎他 / 東信堂 /
世界人権宣言50周年	立命館土曜講座シリーズ4 / /
テキストブック国際人権法	阿部浩己・今井直 / 日本評論社 /
国際法から世界を見る	松井芳郎 / 東信堂 /

世界人権宣言やフランス人権宣言のような古典的な人権文書を読んで、吟味していただきたい。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

国連オンライン <http://www.unic.or.jp/>

外務省HP人権 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jinken.html>

#### その他

主題にそって講義を行うが、可能な限りビデオや映像を用い理解の助けとする。受講者の積極的意見表明と質問、討論の時間を設けたい。「他人の自由が始まるまでが自分の自由」です。他受講者の迷惑にならないように、受講秩序を守ること。原則として欠席は認めない。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 門屋 秀一

### 講義内容・テーマ

「どのようにすれば人間は善く生きることができるのか」という倫理学の根本問題に対しては、その根底にある概念「善」の哲学的考察が不可欠である。倫理学には現代的なテーマを含む応用倫理学もあるけれども、本講義ではむしろ「善」の考察のために、いわゆる伝統的古典的な倫理学を取り上げ、この価値概念が他のさまざまな価値概念とそれぞれいかなる関係を持っているかを考察する。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

出席率50%以上を期末試験受験の最低条件とする。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	50 %	
その他	50 %	出席点として

希望者のみ小レポート提出により追加点。提出締め切りは最終講義日。

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義	
序論 倫理学と哲学	
同上	
第1章 アイデアと人生	
同上	
同上	
第2章 幸福と学問	
同上	
同上	
第3章 善意志と道徳法則	
同上	
同上	
第4章 道徳性と人倫性	
同上	
同上	

テキスト	書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
	エチカとは何か	有福孝岳 / ナカニシヤ出版 /

参考書	書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
	行為の哲学	有福孝岳 / 情況出版 /
	形而上学の克服	W.シュヴァイトラー / 晃洋書房 /
	カント第三批判と反省的主観性	門屋秀一 / 京大学術出版会 /

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 高木 敏美

講義内容・テーマ

講義内容・テーマ / Course Description, Focus and Goal

Course description 形式論理学は演繹についての科学であり、論証が妥当か否かを判定する体系的な手段を与えることを目標とする。ここでは所謂Fol(第1階の論理)の基本的枠組を紹介する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講生に関わる情報 / Special Requirements of Students

Introduction できるだけ、当日の事項に関する解答を提出してもらおう。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	60 %	
日常点 (小テスト)	40 %	各講義の最後に小問題の回答提出

\* 定期試験として実施

評価方法・基準 / Grading Criteria and Method of Evaluation 評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ず御確認下さい。

\* 筆記試験・定期試験として実施 \* 日常点: 加味する。各回での解答提出及び学期末のテストによる

本学の評価基準

評価 基準

A+ 初期の学習目標をほぼ完全に達成するか、または傑出した水準に達している。100点法では90点以上に対応。

A 問題はあがるが、所期の学習目標を十分に達している。80～89点に対応。

B 誤りや不十分な点があるが、所期の学習目標を相当に達成している。70～79点に対応

C 所期の学習目標に最低限は満たしている。60～69点に対応

F 単位を与えるためにはさらに勉強が必要である。60点未満に対応。

講義スケジュール

内 容 キーワード

総括的導入講義

日常言語での論証

日常言語での論証

真理関数的論理・・・命題論理

真理関数的論理・・・命題論理

日本語と論理

日本語と論理

公理系・・・その導入

公理系・・・その健全性、完全性及び決定可能性

一般性・・・述語論理

一般性・・・述語論理

関係

同一性

計算不可能性及び決定不可能性

計算不可能性及び決定不可能性

テキスト

プリント使用

参考書

随時紹介

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ



授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 3~8  
 担当教員 北島 義信

### 講義内容・テーマ

テーマ:現代社会における宗教(キリスト教、イスラーム、浄土真宗)の位置と役割

南アフリカでは、キリスト教は支配者階級にとって、アパルトヘイトの合理化の役割を果たしたが、逆にアフリカ人民衆は、キリスト教を反アパルトヘイトの運動の思想的よりどころとして捉えた。また、イランにおいては、イスラーム復興主義は人権無視・一部特権階級擁護の政権を打ち倒すよりどころともなった。アメリカのイラク攻撃には、「キリスト教原理主義」の思想的影響も大きいという指摘もある。本講義では、宗教と社会の関係を解き明かす状況化(Contextualization)理論によって、現代世界の客観的総合的理解の形成をはかる。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義は、教科書を使用せず、配布するレジメによって行う。受講に際しては、哲学、異文化論、歴史学、国際関係論に関わる諸科目が役立つことも多いので履修しておくことが望ましい。

政策科学部生は配当回生: 2回生以上

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	70 %	2問中2問とも筆答する。
日常点(小テスト)	20 %	中間的に2回の小テストを課し、各部分の理解を問う。
その他	10 %	授業内容に対する質問、感想、反論を各講義終了時に提出。

論述による定期試験を最重視する。特に必要な論点がいっしょに押さえられているかを重視する。基本的概念を用いた論理展開がなされているか否かが評価の重要な基準となる。

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
・状況化(Contextualization)理論とは何か ・アフリカにおけるキリスト教と植民地支配	Contextualization キリスト教の両義性
70年代の南アフリカにおける解放闘争とキリスト教	黒人意識運動
80~90年代の南アフリカにおける解放闘争とキリスト教	ノンレイシャリズム 状況神学
イスラーム世界における宗教と解放闘争の結合1(イスラームの特徴とオリエンタリズム)	タウヒード オリエンタリズム
イスラーム世界における宗教と解放闘争の結合2(アリー・シャリーアティーの思想の特徴)	イスラーム復興
イスラーム世界における宗教と解放闘争の結合3(イスラーム政治運動とルイスのイスラーム観)	「文明の衝突」
イスラーム世界における宗教と解放闘争の結合4(アメリカのイラク攻撃とイスラーム共同体)	ウンマ・イスラミーヤ
・第一回小テスト(30分) 鎌倉仏教の社会的特徴	顕密体制
親鸞の宗教思想の革新性	現生正定聚
浄土真宗と一向一揆、蓮如の思想と社会	一向一揆、平生業成
浄土真宗と都市共同体の形成、「仏法領」	惣村と寺内町
浄土真宗と戦争責任	真俗二諦
「靖国」と国家神道、反原発運動と宗教	懺悔
第二回小テスト(30分)と全体のまとめ	状況化

### テキスト

特に使用しない。

### 参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
親鸞復興	北島義信 / 同時代社 / 4-88683-526-0
イスラームの心	黒田壽郎 / 中公新書 /
解放の宗教へ	菱木政晴 / 緑風出版 /
イスラーム誤認	板垣雄三 / 岩波書店 / 4-00-022131-0

### 授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

第1回授業の前に、総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。



授業開講期間	後期	単位数	2	配当回生	時間割等参照
担当教員	高橋 裕子				

**講義内容・テーマ**

ジェンダー概念について解説をした後、私たち自身の日常的なジェンダー感覚とはいかなるものなのかを様々な角度から取り上げる。私たち自身が社会的・文化的な「思い込み」の産物＝ジェンダーから隔絶した時空に生きることができないからこそ、それらが相互行為場面でのどのように作用するのかを検証することもまた必要なのではないだろうか。

**受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目**

社会「科学」に基づいたジェンダー理解を得るためには、講義に継続的に出席する、積極的に自習するといった学習態度が不可欠である。受講生の地道な努力に多に期待したいところである。

**評価方法・基準**

評価方法	割合	詳細
定期試験	50 %	
レポート	50 %	

レポート課題未提出の学生は、定期試験の受験資格を自動的に失うことになりますので、注意してください。

**講義スケジュール**

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
生物学的性・セクシュアリティ・ジェンダー	
生物学的性・セクシュアリティ・ジェンダー	
母親へのまなざし	
母親へのまなざし	
ビデオ：生殖医療の現場で・・・	
ジェンダー・アイデンティティの実践	
ジェンダー・アイデンティティの実践	
「ブレンダと呼ばれた少年」の場合(ジョンズ・ホプキンス病院の事例)	
自己決定権はどこまで認められるのか？for or againstの先にあるもの・・・	
ジェンダー、その決め付けのポリティックス	
ジェンダー、その決め付けのポリティックス	
ジェンダー・フリーの射程	
「私らしさ」が抱える問題	
まとめ	

**テキスト**

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
女らしさの社会学	高橋裕子 / 学文社 / 4-7620-1164-9

講義の初めに適宜レジュメを配布するかとと思いますが、後日にレジュメを再配布することはありません。なお遅刻した学生は講義後にレジュメを受け取るようにしてください。

**参考書**

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
ブレンダと呼ばれた少年	ジョン・コラピント / 無名舎 / ISBN4-89585-987-1
性同一性障害	吉永みち子 / 集英社新書 / ISBN4-08-720020-5
OLたちのレジスタンス	小笠原祐子 / 中公新書 / ISBN4-12-101401-4
改訂版21世紀のジェンダー論	池内靖子 / 昇洋書房 / ISBN4-7710-1565-1

レポート課題については講義内で説明しますが、体裁・提出期限・提出先・提出方法が守られていないものに関しては全て未提出扱い(0点)にします。(また課題説明を聞いていなかったという理由は、疾病など診断書のある場合を除いて原則的には例外を認めません。)

講義を妨げるような私語を繰り返す学生には退室を求め、そのような場合には総合評価点から5点引きします。

携帯電話の使用はメールも含め禁止とし、と同様の扱いをします。

**授業の方法(大学院科目のみ)**

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 向井 俊彦

#### 講義内容・テーマ

テーマ 青年と思想形成－未来の日本社会は、現在の青年が支えることになる。しかし現在、青年の成長が困難になっていると思われる。同時に、大人社会はそのことへの十分な配慮ができていないと思われる。近代文学で描かれた青年像を主な素材に、青年のアイデンティティの形成の中での思想の問題を考えてみたい。新青年時代、新教養時代は展望しうるであろうか。ヨーロッパの青年政策についても学びたい。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

小説を一冊以上読むことを宿題とします。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	0 %	合否は定期試験のみによって。
レポート	0 %	合格者についてのみ平常点を加味。
日常点 (小テスト)	0 %	毎回簡単なコミュニケーションペーパーあり。

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
教養、哲学とは何か。なぜ特に青年か。	
エリクソンの「人間の八つの発達段階」について	青年とアイデンティティ
溝口慎一「現代大学生論」について	時代と大学生の変化
宮本みち子「若者が 社会的弱者 に転落する」	シティズンシップ
テキスト「第一章 青春の原点」－『三四郎』と つづき 『感情教育』を中心に	
テキスト「第二章 自殺する青年」－『若きウェル つづき テルの悩み』、『悪霊』、『死霊』、 つづき 『こころ』、『死に至る病』、『ノル つづき ウェイの森』を中心に	
テキスト「第三章 殺人を犯す青年」－『赤と黒』、 つづき 『罪と罰』、『異邦人』、『ツアラトウストラ』、 つづき 『金閣寺』を中心に	
テキスト「第四章 芸術に救われる青年」『終章』	

#### テキスト

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
青春という亡霊－近代文学の中の 青年	古屋健三 / NHKブックス / / /

#### 参考書

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
若者が 社会的弱者 に転落する	宮本みち子 / 洋泉社 /

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 大石 敏広

### 講義内容・テーマ

70年代以降の自然科学の急速な発展とその応用にもなつて、我々を取り巻く医療や環境に関して深刻な倫理的問題が生じてきた。本講義では、具体的な問題を取り上げながら、倫理の存在意義、科学技術と倫理のかかわりについて考えていく。なお、本講義は、問題の一般的な解説を与えるものではない。具体的問題として医療の問題に焦点を絞り、ある程度深く問題に踏み込んでいくことによって、問題の重要性とその解決への展望について各自が自ら考える切っ掛けとなるような講義にしたい。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

できるだけ前提となる知識を必要としないような分かり易い講義を心がけるつもりである。受講生諸君が積極的に講義に参加できるように、時々講義中にミニ・レポートを書いてもらったり、討論をするつもりである。教科書を使用せず、レジュメと板書を中心に講義を進めていくので、しっかりとメモをとって、折に触れて見直すことが必要である。なお、講義は、具体的な事例を取り上げながら、論理的な展開で進んでいくので、しっかりと出席することが必要である。講義を休むと、論理のつながりが分かりにくくなる恐れがあるので注意してほしい。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	試験では、講義内容を把握した上で、各自の意見を書いてもらう。ミニ・レポートでは、講義内容について自由に意見を書いてもらう。成績評価は、試験が90%、ミニ・レポートが10%である。

\*最終講義日に試験を行う。時々講義中にミニ・レポートを書いてもらう。ミニ・レポートも成績に考慮する。

### 講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義	
胎児・胚の医療的利用は許されるのか?	ES細胞、クローン技術
人工妊娠中絶擁護論(トムソンの議論)のジレンマ	女性の自己決定権、胎児の生存権
人工妊娠中絶擁護論(パーソン論)のジレンマ	自己意識と生存権のつながり、
パーソン論批判「可能性議論」	胎児が大人になる可能性
人工妊娠中絶反対論のジレンマ	許される中絶
安楽死の分類と安楽死擁護論のジレンマ	生命の質
安楽死反対論のジレンマ	人命の神聖性、認められる安楽死
安楽死、殺人、自殺 これまでの講義のまとめ	「滑り坂理論」、自殺権の容認
「道徳とは何か?」「なぜ人を殺してはいけないのか?」	殺人禁止の根拠、社会の維持
カントの道徳論とその問題点	道徳規則は絶対的である
功利主義的道徳論	最大多数の最大幸福
功利主義的道徳論の問題点	功利性原理の証明
「道徳とは何か?」への答え 講義全体の結論	幸福な社会の維持、反道徳論者
試験	

### テキスト

特になし。必要な資料は講義中に配布する。

### 参考書

講義中に適宜指示する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

同上

### その他

疑問点がある場合は遠慮せずに質問すること。たんに知識を受け取るといった受け身の態度ではなく、自分ならこう考えるという積極的な態度で講義を受けることが大切である。また、自分の意見を的確に文章化することを心がけること。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照

担当教員 久津内 一雄、仲井 邦佳、BEATE MUELLER、文 楚雄、巖 敬俊

### 講義内容・テーマ

言語習得(学習)に関わる基本的な課題と論点を整理した上で、異文化理解と多文化共生の観点から、産業社会学部で開設される初修外国語学習の動機付けをも踏まえて、言語と文化をテーマにして、講義を行う。この講義ではドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、朝鮮語の五つの言語とそれらの言語を話す国の文化について、それぞれリレー方式で講義する。外国語、特に初修外国語を学習する意義や目的、または、国際化の観点から、異文化理解、多言語・多文化共生、平和と民族共存などについての教養を深めて欲しい。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	

\* 定期試験として実施

\* 筆記試験による評価。配点は、講義内容(各論 = 各国語)の基礎知識の確認が六割、講義内容(総論 = 第一回目講義)と関連した論述が四割。

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
総論	
フランス語	
フランス語	
中国語	
中国語	
中国語	
スペイン	
スペイン	
スペイン	
ドイツ語	
ドイツ語	
ドイツ語	
朝鮮語	
朝鮮語	
朝鮮語	

### テキスト

講義時レジュメ配布。

### 参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
『言語学とは何か』	田中克彦 / 岩波書店 / 4-00-430303-6
『ことばと国家』	田中克彦 / 岩波書店 / 4-00-420175-6
『教養としての言語学』	鈴木孝夫 / 岩波書店 / 4-00-430460-1
『日本語は国際語になりうるか』	鈴木孝夫 / 講談社 / 4-06-159188-6
『多文化主義社会の到来』	関根政美 / 朝日新聞社 / 4-02-259750-X

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 山下 高行

### 講義内容・テーマ

本講義では、現代社会の中でスポーツが位置している状況を、いくつかの問題群を通して理解し、その有り様を考察すると共に、形成期に構造化された近代文化としての性格を再考することにより、今後どのような方向を目指すべきかを考えていくこととしたい。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

本講義が主に低回生を対象としていることを考慮し、これまで持っていた「スポーツ」の「概念砕き」を行えるよう、さまざまなトピックを交えながら講義を進めることとしたい。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	
日常点 (小テスト)	20 %	

定期試験のほか、理解度を測るため授業期間中数回のレポートを課す。

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
講義の目的と流れ	
現代スポーツの問題群(1)－ 高度競技カススポーツの問題	
(1)－ 商業化とナショナリズム	
(1)－ ドーピングの問題	
(2)－ 日本社会の変化とスポーツ	
(2)－ 産業化するスポーツ	
(3)－ グローバル化するスポーツの	
枠組み	
(3)－ 連鎖するスポーツ商品	
(3)－ スポーツ移民	
近代スポーツの形成	階級とスポーツ
	宗教とスポーツ
	近代の原理とスポーツ
スポーツをめぐる議論	ノルベルト・エリアス『文明化とス
ポーツ』	
	近代原理とスポーツ
	『ホモ・ルーデンス』の提起するもの

### テキスト

特に用いない。

### 参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
スポーツと文明化	エリアス、ダニング / 法政大学出版 /
ホモ・ルーデンス	ヨハン・ホイジンガ / 中公文庫 /
近代ヨーロッパの探求 8. スポーツ	有賀郁敏他著 / ミネルヴァ書房 /

その他適宜授業中に指示する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

<http://jsss.jp/> (日本スポーツ社会学会)  
<http://www.spo-sun.gr.jp/html/index/index.html> (日本スポーツ産業学会)

### その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 岩谷 洋史

講義内容・テーマ

文化人類学とは人類の文化・社会の多様性と普遍性に関する総合的学問である。本講義では、文化人類学の基礎を学ぶことを目的とする。重要なのは、文化人類学における文化の捉え方、視点や考え方を身につけることである。講義では、まず文化人類学の考え方や研究方法、研究対象などの事項について解説し、異文化理解のための基礎的な枠組みを提供する。次に、文化人類学の主要な研究テーマの一部を具体的に紹介する。適宜、ビデオ映像などの視聴覚教材を用いる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	60 %	文化人類学の基礎的な問題
日常点(小テスト)	30 %	授業中に何回か小レポートを書いてもらいます。
その他	10 %	出席状況

試験に関しては、文化人類学の基本的な用語が説明できるかどうか、また文化人類学の基本的な考え方をおさえているかどうかを重視します。試験の実施については、詳しくは授業中に説明します。

講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
-------------------------------	--

文化人類学の視点 文化相対主義とはなにか？	
-----------------------	--

文化人類学の流れ	
----------	--

文化人類学の方法: フィールドワーク	
--------------------	--

生業(1): 狩猟採集民の生活	
-----------------	--

生業(2): 牧畜民の生活	
---------------	--

文化人類学の研究対象(その1)	
-----------------	--

文化人類学の研究対象(その2)	
-----------------	--

文化人類学の研究対象(その3)	
-----------------	--

民族誌(エスノグラフィー)とはなにか？	
---------------------	--

民族誌を読む(その1)前半	
---------------	--

民族誌を読む(その1)後半	
---------------	--

民族誌を読む(その2)前半	
---------------	--

民族誌を読む(その2)後半	
---------------	--

まとめ	
-----	--

テキスト

テキストは用いません。毎回、プリントを配布します。

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
文化人類学キーワード	山下晋司, 船曳建夫編 / 有斐閣 / ISBN4641058636

その他、参考書は授業中に適宜紹介します。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

この授業を受けることで、異文化について幅広い関心をもつだけでなく、逆に自文化としての現代社会についてもとらえなおしてほしいです。

授業開講期間 前期 単位数 2 担当回生 時間割等参照  
 担当教員 有賀 郁敬

### 講義内容・テーマ

祝祭からスポーツの歴史を読み解く

本講義では、様々な祝祭(オリンピック、村祭り、運動会など)を題材に、スポーツの歴史を読み解いていく。たとえば長期間にわたり継続されている祝祭は、確かに外見的に変わっていないようにみえるが、しかしそこに込められた意味はしばしば変容していることも少なくない。こうした変容を生み出す要因は多岐にわたるが、国家をはじめとする各種権力がそれに関与していることが多い。祝祭空間は複数の意味が交錯する場であるが、講義では古代から現代までの祝祭のありようを、権力との関係を踏まえながら考察していく。

\*講義ではビデオ、スライドなど視聴覚の資料をできるだけ多く活用する。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	60 %	
日常点(小テスト)	15 %	講義中のミニレポート
その他	25 %	受講生の自学自習の成果

定期試験 60%

講義中のミニレポート 15%

受講生の自学自習の成果 25%

評価は基本的に定期試験を軸に行う。しかし、講義では数回に1度、講義時間中にミニレポートを書くこと、また、講義で配布された資料、参考文献などを素材に講義外での学習を課しているが、本講義ではこれらの成果も評価に加える。

### 講義スケジュール

内容	キーワード
オリエンテーション:講義のテーマ、目的、講義の進め方、学生参加のありよう、評価について	
古代ギリシア・ローマの祝祭:オリンピック	
古代ギリシア・ローマの祝祭:オリンピック	:スライド
古代ギリシア・ローマの祝祭:オリンピック	:ビデオ、ミニレポート
中世ヨーロッパの祝祭:トーナメント	
中世ヨーロッパの祝祭:ギルド、村の祭り、ミニレポート	
近代ヨーロッパの祝祭:産業博覧会	
近代ヨーロッパの祝祭:近代オリンピック	
近代ヨーロッパの祝祭:近代オリンピック	:ビデオ、ミニレポート
近代日本の祝祭:明治期の行政国家化の諸相	
近代日本の祝祭:運動会、村祭り:ビデオ、ミニレポート	
現代の祝祭:ナチズムとオリンピック:ビデオ	
現代の祝祭:サッカーワールド杯、ミニレポート	
まとめ	

### テキスト

特に使用しない

### 参考書

書名	著者/出版社/ISBNコード
古代オリンピック	桜井万里子 / 岩波新書 / 4-00-430901-8
オリンピック物語	結城和香子 / 中公新書ラクレ / 4-12-150135-7
スポーツの歴史	レイモン・トマ / 白水社 / 4-560-0570-8
博覧会の政治学	吉見俊哉 / 中公新書 / 4-12-101090-6

その他の参考文献は講義のなかでその都度紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)



参考になるWWWページ

その他

\* 講義シラバスを変更することがあるが、その場合は学生に周知し了解をとる。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 今村 光章

#### 講義内容・テーマ

本講義においては、教育と教育学の語義、教育と教育学の歴史、教育の目的論及び現代教育が抱える諸問題について考えたい。その際、とりわけ教育(授業中)におけるコミュニケーションの問題について検討してみたい。そこで、授業中にも、数回だがグループ・ワーク・トレーニング方式での学習を行う。これまで受けてきた教育について教育哲学の立場から他者とともに考え直すのが本講義の目的である。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

授業中の私語についてはきわめて厳しく対処する。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	10 %	自主レポート
日常点(小テスト)	30 %	出席・感想文の点数
その他	60 %	最終講義日試験

\*最終講義日試験を実施する予定

\*日常点評価は、出席点による

\*自主レポート(10%) (詳細は、授業時に説明するが、任意提出のレポートである。主にテキストの感想文。)

#### 講義スケジュール

##### 内 容 キーワード

オリエンテーション 教育におけるコミュニケーションについて

教育とは何か 教育の語義

教育学とは何か 教育学の歴史

「学ぶということ」について学ぶ(GWT)

教育の三角形

教育の目的論(GWT)

国家が定める教育目的論

教師論(GWT)

現在の教育問題

教育とコミュニケーション(1)

教育とコミュニケーション(2)

教育とコミュニケーション(3)

教育とコミュニケーション(4)

未来の教育と環境教育について

最終講義日試験

#### テキスト

毎回、授業で用いるわけではないが、第1回の授業内容と後半4回分程度の授業の理解の助けと、レポート作成のために、できれば今村光章『ディープ・コミュニケーション』(行路社 2003)を生協で購入していただけるとありがたい。あるいは、授業を受講する前に、読んでおくことが望ましい。

#### 参考書

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 金 悠美

**講義内容・テーマ**

美や芸術という、普段もっぱら感性的にとらえ、享受しているものを学問の対象として考察し、論ずるなら、どのような論理的アプローチが可能であろうか？当科目は、主に西洋美術を研究対象とした美学や美術史学の基本的な問題意識と概念、および方法論の解説から始める。そして、芸術/非芸術の区分を超えた視覚文化という広い視野のもとで「美」や「芸術」という概念や「イメージを見る」ということが社会的にどのように機能してきたかを問う今日的なトピックにまで論を進める。単に芸術家や美術作品についての知識を得るのではなく、美や芸術について自分で思索するための足がかりを得ることが当科目の目的である

**受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目**

中間レポートはインターネットと電子メールを使って提出する可能性が高いので、5月末までには個人のメールアドレス(携帯電話は不可)を取得し、インターネットでの情報検索と電子メールにURLをリンクさせて送信する方法を各自で習得しておくこと。

**評価方法・基準**

評価方法	割合	詳細
定期試験	50 %	最終授業日に行う試験。持ち込み不可の記述形式で、講義内容の理解度と論述力を問う。
レポート	50 %	中間期に課するレポート。講義内容の理解度に加え、情報収集力と情報の整理・活用力を問う。

出席は取らないが、それは欠席してもよい、という意味ではなく、受講生は全授業出席であることを前提としている。よって、正当な理由のない欠席・遅刻・途中退出によって授業の進行や課題についていけなくなったとしても、その責任は自分にあることを理解しておくこと。

**講義スケジュール**

内 容	キーワード
総括的導入講義	
様式論(1)時代性	
様式論(2)地域性	
様式論(3)個人様式	
意味論(1)イコノグラフィ	
意味論(2)イコノロジー	
モダニズム論(1)印象主義と表現主義	
中間レポート講評	
モダニズム論(2)抽象芸術とフォーマリズム	
モダニズム論(3)アヴァンギャルドと反芸術	
視覚論(1)視覚装置の発展	
視覚論(2)視線の政治学	
視覚文化論(1)ヌードとボルノグラフィ	
視覚文化論(2)アートとオタク文化	
最終日試験	

**テキスト**

なし

**参考書**

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
美学と現代美術の距離	金悠美 / 東信堂 /
芸術学を学ぶ人のために	太田喬夫編 / 世界思想社 /
ヴィジュアル・カルチャー入門	ジョン・A・ウォーカー / サラ・チャップリン / 晃洋書房 /

その他、授業毎に紹介する。

**授業の方法(大学院科目のみ)****参考になるWWWページ**

授業用ホームページ <http://mypage.odn.ne.jp/home/artichoke>  
連絡事項や配布資料を公開する

その他

当科目は、教養教育改革の趣旨に鑑みて、複数学部で開講される6つの同名授業の間で、一定の共通性をもたせるように配慮して構想された。その結果、「講義内容・テーマ」については同一の文面を掲出するに至ったが、すぐれて感性的な美と芸術の問題を取り扱う授業ですべての教材や進行方法を共通化させることは不可能かつ無意味と判断し、テーマに沿った運用の細部は各担当者の裁量に委ねることとした。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 鈴木 清史

### 講義内容・テーマ

世界にはさまざまな民族が生活しており、かれらは固有の生活様式を有している。文化人類学では、こうした民族の個別研究を積み重ね、比較することによって人間とは何かを考えようとしている。本講義は文化人類学入門であり、この分野の基本的な考え方や概念を事例を用いて紹介する。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	90 %	
日常点 (小テスト)	10 %	

\* 定期試験として実施 成績評価の仕方は受講生数によっても変わります。授業中にも指示をします。

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
導入総括説明	
イントロダクション 文化人類学とは何か	用語の紹介・整理など
文化人類学史概説	理論的展開や学史の概説
人類の起源と進化	
人間と文化(1) 環境適応戦略としての文化の特徴	
人間と文化(2) 言語と人間	
人間と生計(1) 食料入手の活動の検討	狩猟採集
人間と生計(2) 食糧確保の活動	牧畜・農耕
食を巡る現象 生業活動の補足と事例紹介	
世界観 宗教と人間	
社会組織(1) 親族関係	
社会組織(2) 親族を超えて	
文化人類学の方法	
まとめ	

### テキスト

テキストは特に指定しません。

### 参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
増補改訂版 文化人類学入門	祖父江孝男 / 中公新書 /
人類学の歴史	アダム・クーバー / 明石書店 /
装いの人類学	鈴木・山本編 / 人文書院 /
人類学の理論と歴史	アラン・バーナード / 明石書店 /

文献は、参考書のほかにも授業の進行に応じて適宜紹介します。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

評価の仕方については受講生数などに応じて対応するつもりである。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 小石原 美保

### 講義内容・テーマ

本講義ではスポーツを広い意味での身体文化ととらえ、その社会的歴史的存在としての個性を、古代から中世、近代をへて現代に至るまで主としてヨーロッパを中心にスポーツ文化の諸相とその発展の経緯から概観していく。講義を通じて、文化のなかにスポーツが占める位置がどのように変化してきたのか、またスポーツ文化がそれぞれの時代の社会状況を映し出す鏡としての役割をになっていることに目をむけてもらいたい。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義は原則としてシラバスに沿って行うが、講義の状況に応じて変更する場合は受講生への周知と了解をとる。出席カード、コミュニケーションペーパーなどを活用して質問を受け付ける。グループワークをとりいれることも予定。受講生の主体的積極的授業参加を望

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	60 %	授業内容から総合的に出題する。
日常点 (小テスト)	40 %	中間的に2回程度ミニレポートを予定。ほかに出席状況などを加味する。

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
古代の身体運動文化の概観(1)	古代オリンピック
古代の身体運動文化の概観(2)	古代オリンピック
古代の身体観と身体教育	ギムナスティケー、プラトン
古代の身体運動文化をめぐる言説	イーリアス、祝勝歌
中世のスポーツ(1)王侯・聖職者	社交としてのスポーツ、球戯
中世のスポーツ(2)騎士	騎士道、身体修練
中世のスポーツ(3)市民	祝祭空間のスポーツ、射的祭
近代スポーツの誕生(1)「近代」の概念	近代合理主義、フットボールの近代化
近代スポーツの誕生(2)民衆娯楽の近代化	アニマル・スポーツ、合理的娯楽
近代スポーツの発展(1)近代スポーツの思想的基盤	アスレティシズム、パブリックスクール
近代スポーツの発展(2)オリンピックの復興	近代オリンピック、クーベルタン
近代スポーツの発展(3)レジャーの誕生	余暇活動、ヴァカンス、観るスポーツ
スポーツ文化の伝播と受容(1)	文化帝国主義
スポーツ文化の伝播と受容(2)	日本における近代スポーツの受容
定期試験	

### テキスト

テキストとしてとくに指定はしない。講義のなかで参考になる文献はその都度紹介する。教官より毎回レジュメを配布し、それによって講義をすすめるので、欠席した場合はレジュメ欄にとりに行くなど各自で補充しておくこと。

### 参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
スポーツ史講義	稲垣正浩ほか / 大修館書店 /
近代ヨーロッパの探求 スポーツ	有賀郁敏ほか / ミネルヴァ書房 /
レジャーの誕生	アラン・コルバン / 藤原書店 /
スポーツと帝国	アレン・グットマン / 昭和堂 /

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 金井 淳二

#### 講義内容・テーマ

冷戦体制が大きく変化してきている今日、政治・経済のあらゆる面で「市場原理」が強調されるような変化が生じている。そんな中で、スポーツを商品として捉え、その「消費的」価値を高めることにスポーツの社会的意味を見いだそうとする動きがある。その動向に視点をあて、スポーツの本質を探求しながら矛盾点を明らかにし、できあがった「商品」の単純な「消費者」にさせられないように、主体的「創造者」として現代のスポーツにどうかかわっていくかを考えていく。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

スポーツの理解にとっては、各自のプレイ経験から得られるスポーツ実感が重要である。その意味で、「スポーツ方法論」の受講を奨励したい。また、課外活動でのスポーツ経験なども自覚的に関連づけて理解を深めていって欲しい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	

基本的には、定期試験の記述内容で評価する。評価に際しては、基本的な専門用語を理解しているか否かを重視する。

(評価方法) 定期試験 100%

(備考) 可能ならば、適宜授業中に小テスト等を行い、その内容もプラス として加味する。

#### 講義スケジュール

内 容	キーワード
現代におけるスポーツを考える視点	
体育・スポーツの戦後改革	
オリンピック主義スポーツの台頭	
高度成長期の政治・経済と国民スポーツ	
余暇社会論の中のスポーツ展開	
戦後スポーツの基本矛盾	
スポーツはどのように文化になったか	
近代スポーツ成立の基礎条件	
近代スポーツの成立過程	
優勝劣敗主義とフェアプレイ	
近代スポーツの発展要因	
オリンピックとアマチュアリズム	
プロスポーツの現状と未来	
国民のスポーツ権をめざして	
定期試験	

#### テキスト

特別なテキストは使用しないが、芝田徳造他編『(新版)現代・スポーツ・健康』(文理閣)をテキストに準じて利用する。

#### 参考書

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 上田 博

講義内容・テーマ

与謝野寛・晶子の心の遍歴を追う

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

授業で取り扱う文章を、ていねいに読んできてもらいたい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	100 %	詳細は授業で説明する

講義スケジュール内 容キーワード

与謝野寛・晶子とその時代

寛、最後の旅 観音崎燈台にて

晶子の歌集『心の遠景』に近く、遠く

寛の歌群『爐上の雪』

寛の歌群『爐上の雪』

晶子の詩『木下空太郎さんの顔』

晶子の詩『木下空太郎さんの顔』

関東大震災と古典復興

寛と晶子の巴里『死ぬ夢と刺したる夢と』

寛と晶子の巴里『死ぬ夢と刺したる夢と』

晶子の歌論『歌の作りやう』

寛の歌集『相聞』の内景

晶子の歌集『みだれ髪』抒情の源流

寛の詩歌集『東西南北』の可能性

寛、心の遍歴

テキスト書 名著者 / 出版社 / ISBNコード

与謝野寛・晶子 心の遠景

上田 博 / 嵯峨野書院 /

担当者が取り扱う

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他



授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 小川 丈治

講義内容・テーマ

古語辞典には「影像」だけで「映像」の文字はありません。「映像」という造語は1896年(明治29年)日本に映画技術が紹介されて以降に登場しました。今では写真、映画、テレビ、アニメ、CG等「他の物の表面に映った物の形・姿」を表す言葉として使われています。映像の知識とこれを駆使する能力を伝授します。なお、講義内容は前期・後期、各クラス共基本は同じですが、受講生の反応をみて多少修正する事もあります。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

将来広告や放送業界を目指す人は是非。出席は不定期に数回とりレポート点上積み。教室での雑談はお断り。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	70 %	
日常点(小テスト)	30 %	

\*試験に代わるレポートとして実施

レポートは、授業等で得た「映像」についての知識と諸君のこれまでの体験を元にして、君独自の「考え」を構築して書いてください。表現が下手でも君の頭脳のぬくもりが感じられるものを評価します。本やインターネットの引き写しは絶対カン。

講義スケジュール

内容	キーワード
(序) 講師の自画像(VIDEO)	初めに、講師と映像との関わりをビデオ・ドキュメントで見てもらったうえ4講までは主に「映像の歴史」を講じます。
「映像の時代」の意味	第1講では「映像の時代」の意味を、第2講から4講までは、人間がこれまで神話や空想世界や現実世界を壁や画布や紙やスクリーンに「移す・写す・映す」ことに魅力を感じ、精力を費やしてきた歴史を振り返ります。
歴史 絵画から写真へ	5講～9講では「映像の表現特性」について講じます。映像と言語表現の類似点と相違点を考えた上、映像表現の特質を究め、更に具体的に映像表現の基礎作法を説明します。
歴史 動く映像の発明	10～13講では「映像表現の陥穿と利点」について講じます。
歴史 初期の映画	これまでの映像がどのように悪用されてきたか、それは何故か、どのようにすれば悪用が防げるかを考えます。
映像認知の仕組み	
脳の中の映像と言語	
映像と言語の比較	
映像表現法1(撮影)	
映像表現法2(編集)	
ナチスと映画	
嘘つき映像の歴史	
米国政治とTV	
映像との付き合い方	
補遺(疑問に答える)	

テキスト

プリントを配付。関連ビデオ教材を沢山上映します。

参考書

興味がわきそうな書物を初回に紹介。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
担当教員 三本 卓也

### 講義内容・テーマ

本講義では、現代社会において法がどのような役割を果たしているのかを論じる。現代社会における重要な側面の1つとして、科学技術の驚異的な発展を指摘できる。科学技術によって、われわれは物質的な豊かさを享受できる反面、公害・環境問題・生命倫理問題などさまざまな難問を抱え込むことにもなっている。そしてこれらの難問を解決するために、法への期待がますます高まっている。しかしながら、既存の法を機械的に適用するだけでは、常に妥当な結果が得られるとは限らない。そこで、市民の期待に応えるために、弁護士・裁判官・学者などの法専門家は、個々の事件において、法の単なる機械的適用を超えて(しかし同時に、あくまでも法の枠内で)、さまざまな「法解釈」を提示するのである。

現代社会における法の役割を考えると、法のもつこのような動的・創造的な側面を見逃すわけにはいかない。本講義では、科学技術と法の関係が問題となった代表的な事例として、主に環境訴訟を取り上げる。そして、具体的な事例における各当事者の主張とそれに対する裁判官の判断から、法解釈がどのような役割を果たしているかを検討する。取り扱う法律の分野としては、主に不法行為法と行政法が中心となる。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

法学・法哲学の初学者をはじめ、科学技術問題・環境問題・公害問題など、前述した講義内容に関心を持つ者を広く対象とする。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	

成績評価は定期試験の成績のみによる。ただし講義中に扱う論点は多岐にわたり、また配布するレジュメの分量も多いため、継続的に出席しないかぎり単位取得は不可能と思う。

### 講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義：授業の位置づけ、基本方針、注意事項	
法とは、法的思考とは：本講義に必要な法学の基礎知識	
不法行為法(1)：民法709条の概要	
不法行為法(2)：四大公害訴訟(前半)	
不法行為法(3)：四大公害訴訟(後半)	
不法行為法(4)：交通事故	
不法行為法(5)：現代型訴訟(前半)	
不法行為法(6)：現代型訴訟(後半)	
環境保護と行政訴訟(1)：処分性	
環境保護と行政訴訟(2)：原告適格(前半)	
環境保護と行政訴訟(3)：原告適格(後半)	
環境保護と行政訴訟(4)：住民訴訟	
環境刑法：環境アセスメント	
今後の課題：最近の事例を中心に	
まとめと補足	

### テキスト

テキストは特に使用しない。レジュメと資料を随時配布する。

### 参考書

書名	著者／出版社／ISBNコード
ブリッジブック法哲学	長谷川晃・角田猛之編／信山社／
法哲学	平野仁彦ほか／有斐閣／

六法全書を携帯することが望ましい。法哲学に関する入門書として、上の2冊を薦める。その他、各論点ごとの参考文献は授業中に随時述べるとともに、毎回のレジュメにも詳しく記載する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ



授業開講期間	前期	単位数	2	配当回生	時間割等参照
担当教員	小松 史朗				

### 講義内容・テーマ

本講では、現代企業の経営システム・経営法則の基本について、経営学・経済学をベースにして概説する。コーポレート・ガバナンス、経営戦略論、経営組織論、人事労務管理論、財務管理論などと講義内容は広範に及ぶが、講師は、レジュメや資料を充実させつつ、現代企業における事例を豊富に紹介することによって受講者の理解が進むよう努める。受講者には、講義を通して企業経営についての基礎知識を習得するばかりでなく、労働者、消費者、その他外部利害関係者としての現代企業経営に対する独自の「観点」を養うことを期待する。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講条件は特に設けない。講師は、初学者にも理解できるように講義することを心がける。ただし、講義中の私語、携帯電話の使用、飲食等、他の受講者の迷惑となる行為を取る者に対しては、厳しい態度で臨む。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	90 %	基本的には、定期試験の点数で評価する。
その他	10 %	出席状況などによっては、最終評価に若干の調整を行う。

\* 定期試験として実施

主に定期テストの結果によって評価する。定期テストでは、あらかじめ指定した課題に基づいて論述で解答して頂く。持ち込みは一切不可とする。

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義	
経済の仕組み	3つの経済主体(政府、企業、家計)、市場の失敗と国家及び地方自治体の役割、国家財政問題、民営化
企業経営に関する基礎知識	企業の諸形態(合名会社、合資会社、有限会社、株式会社)、株式会社の制度と組織、株式市場の仕組み、財務諸表の読み方(貸借対照表、損益計算書、有価証券報告書)
企業経営に関する基礎知識	企業の諸形態(合名会社、合資会社、有限会社、株式会社)、株式会社の制度と組織、株式市場の仕組み、財務諸表の読み方(貸借対照表、損益計算書、有価証券報告書)
コーポレート・ガバナンス	企業統治の諸形態(資本関係、融資関係、取引関係による支配)
コーポレート・ガバナンス	日本的コーポレート・ガバナンスの生成・特質(企業集団・企業系列、株式持合、メインバンク・システム、長期的取引関係、企業特殊的投資・関係特殊的技能)
コーポレート・ガバナンス	アメリカのコーポレート・ガバナンス(経営者支配から株主支配への変容過程、指名・報酬・監査委員会、短期収益主義、産業の空洞化、短期雇用慣行、WASP支配)
コーポレート・ガバナンス	日本的コーポレート・ガバナンスの変容と今後(グローバル化、会社法改正、委員会等設置会社、企業集中、外部取締役、アメリカ的ガバナンス化の含意)
企業の社会的責任	企業不祥事、日本のガバナンスの問題点、株主代表訴訟、PL法、SRI、コンプライアンス、アカウンタビリティ、ステイク・ホルダーズ・ガバナンス
経営組織	ライン・スタッフ制、職能別組織と事業部制組織、チャンドラー理論、SBU、マトリックス組織、プロジェクト・チーム、分社化
経営戦略	経営戦略と経営理念・経営計画、経営資源と経営戦略
経営戦略	アンゾフの経営戦略論(製品・市場範囲の決定、成長ベクトル、競争上の利点、シナジー効果)、ポーターの競争戦略論
日本の雇用慣行・人事労務管理	日本の雇用慣行の特質・目的・前提(終身雇用、年功序列、企業別労働組合をベースとして)、企業特殊の能力の内部養成と囲い込み、協調的労使関係、年功賃金、硬直的な外部労働市場、様々な賃金体系と目的
日本の雇用慣行・人事労務管理	明治期以降の技術革新と労働市場(日本の雇用慣行の萌芽)、労使紛争の時代と協調的労使関係の成立(日本的な「働き方」の解明)、アメリカ的労務管理(短期労働慣行、デマークーション、対抗的労使関係)
日本の雇用慣行・人事労務管理	日本の雇用慣行の変容(グローバル化、成長の限界、外部労働市場の流動化、非典型雇用化、能力主義・成果主義、長期雇用慣行と企業競争力、教育訓練の労働者自己責任化の含意、フリーター問題、ハーシュマン理論)

テキスト

テキストは特に指定しない。講義では、毎回、テーマごとにレジュメ、資料及び参考文献リストを配付する。

参考書

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
入門の入門 経営のしくみ(最新版)	青木三十一 / 日本実業出版社 / 4-534-02915-2
ベーシック経営学Q&A(新版)	総合基礎経営学編集委員会編 / ミネルヴァ書房 / 4-623-03794-0
新版 現代の経営 : その歴史的考察	橋本輝彦 / 文理閣 / 4-915659-89-5
アメリカの経済	春田素夫・鈴木直次 / 岩波書店 / 4-00-026013-8
新・日本の経営	ジェームズ・C・アベグレン著、山岡洋一訳 / 日本経済新聞社 / 4-532-31188-8

その他、講義時にテーマごとの参考文献リストを配布する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

<http://www5f.biglobe.ne.jp/~juka2/> (宮坂純一「日本的経営への招待」)

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 中谷 猛

### 講義内容・テーマ

主に現代日本の政治の制度的側面や歴史的側面について理解を深めてもらうことに学習目標があるが、広く政治現象を認識するための基礎的な知識も同時にたくわえていくように講義内容に工夫をこらしたい。  
 とくにポピュリズムとナショナリズムとの関係について考察し、またメディア政治の危険性についても問題提起したい。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

現代日本と世界情勢を分析した国際分野の諸科目が受講に役立つ。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	95 %	現代日本政治の特徴についての把握
レポート	5 %	任意提出で受講生への学習意欲を引き出すこと

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
日本の政治の見方	利害と価値・多面的見方
日本の近代化の光と影	市民革命・近代化
日本政治の構造と特徴	立憲主義の空洞化
日本国憲法と安保体制	第9条・改憲・米軍基地
利権政治の功罪と官僚支配	政党の役割・官僚支配
選挙制度の比較	デモクラシー・投票・一党優位体制
転換期日本の政治とグローバリゼーション	改革・制度疲労
9・11以後 「戦争」概念の変容	イラク戦争・「テロ」戦争
グローバリゼーションの問題	グローバル化・市場・競争
消費社会と人間の豊かさ	意識の変容・保守化
ナショナリズムとアジアの視点	日本のネオリベラリズム
ナショナリズムの台頭とポピュリズム	ナショナリズム、ポピュリズム
日本政治とアジア	中国・排外主義
市民とデモクラシーの活性化	市民・多様な民主主義
メディア政治の危険と民主主義 市民による民主主義とまとめ	メディア政治・情報操作

### テキスト

レジュメと資料を配布するので、テキストそのものは使用しないが、講義の中でいろいろな参考文献を紹介し、それについてレポートの提出を予定している。

### 参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
市民社会と市場のはざま	中谷猛他 / 晃洋書房 /
日本の政治をどうみるか	ジェラルド・L・カーティス、木村訳 / NHKライブラリー /
戦後政治史 新版	石川真澄 / 岩波新書 /

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

講義形式で授業はおこなうので、ノートをとるよう心がけてほしい。  
 各種新聞の論説、統計資料など見ておくと、受講に役立つ。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 松川 周二

### 講義内容・テーマ

テーマ - 日本経済の諸問題を学ぶ。

日本経済は、戦後1950年から60年代にかけて、高度成長を実現し、国民の生活水準も向上し、先進国の仲間入りをした。しかし、70年代に入ると、日本経済は2度のオイル・ショックや円の対外価値の変動(繰り返される円高と円安)を経験するものの、それらを克服、経済大国への道を突き進む。そして、80年代後半、日本経済は絶頂期を迎えるが、それはバブルの形成を促し、90年代、バブル崩壊と共に日本は不況とゼロ成長の時代となる。本講義では、90年代以降の日本経済の諸問題を、理論的、現実的、政策論的に概説する。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

新聞・テレビ・雑誌などで、現実の経済の動きに関心をもってほしい。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	

主に定期試験で評価する

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
日本経済をめぐる問題を4つの大きなテーマに分け、それぞれについて、3・4回の講義を行う。	毎回の講義で、2～3のキーワードが示され、その経済的意味を理解する形で、授業を進めていく。
[1]デフレ・不況とマクロ経済	たとえば、
デフレ・不況の経済学的意味を明らかにし、不況対策の効果を検討する。	[1] - デフレ・スパイラル
[2]雇用・生活・家庭と労働	[2] - ワーク・シェアリング
不況下で進行する雇用形態の多様化を生活者の視点から説明する。	[3] - 循環型社会
[3]環境・資源・エネルギー問題	[4] - WTOやFTA
これは21世紀の世界の課題であり、企業や政府の積極的な試みや	など。
われわれの生活スタイルの変革などをとりあげる。	
[4]日本経済の国際化	
日本企業の海外進出やFTA、ODAなどについて説明する。	

### テキスト

毎回、講義に用いるプリントを配布する。

### 参考書

必要に応じて授業で配布する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

質問のある学生、講義終了後、直接私に質問して下さい。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 松村 博行

### 講義内容・テーマ

この講義では、外交史の視点から、戦後から今日に至るまでの日米関係と日中関係を振り返り、そこから現在の日本が直面する問題群の性格を理解し、その解決に向けての方策を考えるための基礎的な知識と視点の獲得を目指す。  
 21世紀を迎えて既に5年を経た今日においても、日本という船は、海図のない国際社会という荒波の中でまだ明確な行き先を決められずに右往左往しているように思われる。私たちこそがこの「日本丸」の漕ぎ手であるという自覚の下、今後どの方向へ触先を向け、どれぐらいの強さでこの船を漕いでゆけばよいのか、この講義を通じて共に考えていきたい。  
 もちろん、主体的な漕ぎ手ではない学生(留学生等)の受講も歓迎する。今日の日本が国際社会においてどのように振舞おうとしているのか、この講義を通じて学んでほしい。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

1. 国際社会において生起する様々な問題群に対し、主体的な関心を持ちながら受講してほしい。
2. 受講に際しては、講義進行の妨げとなる行為(私語・メール交換等)は絶対に謹んでもらいたい。このような行為には厳しく対応するつもりなので、それが受け入れられない学生はもとよりこの講義を受講しないよう薦める。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	期末試験を実施。
日常点(小テスト)	20 %	コメントカードの提出。

コメントカードは、その日の学生諸君の学習の到達点を見るためのものであり、決して出席をとるために回収するのではない。それゆえに、あまりにも中身の無いコメントカードについては加点を行わない。

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義	
イントロダクション:「吉田ドクトリン」の再検討	
高度経済成長と日米安保	
1970年代の2つの「ショック」	
日米「同盟」の時代へ	
日米貿易摩擦	
湾岸戦争と日本の対応	
クリントン政権期の日米貿易摩擦	
ポスト冷戦期の日米同盟	
東アジアの工業化と日本のODA	
ブラザ合意の影響と海外直接投資	
中国の改革開放と日本	
世界の工場から「世界の市場」へ	
戦後最良の日米関係と最悪の日中関係	
まとめ	

### テキスト

### 参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
『戦後日本外交史』	五百旗頭真(編著) / 有斐閣 /

参考文献は授業の都度指示するが、さし当たって日本の戦後外交史を通史的に理解するためには上記の文献が読みやすい。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ





授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 上出 浩

### 講義内容・テーマ

「法」は私たちの生活を規定しながら、その実態を掴むことは難しい。中でも「憲法」は、最も基本的な「法」でありながら、日常生活においてはなかなか実感できない。本講義では、この基本的な「ルール」(憲法)がいかなるもので、どのように機能しているかを知ることが目標となる。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	
日常点 (小テスト)	20 %	

原則、定期試験に講義中の小テストを付加して判定をする。ただし、小テストの回数及び割合は、講義の進度により調整をする。

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示板等で案内します。

#### 法と憲法

憲法の構造、基本原理

国民主権と平和主義

個人の尊厳及び法の下での平等

精神的自由(1)

精神的自由(2)

精神的自由(3)

経済的自由(1)

経済的自由(2)

人身の自由

社会権

立法

行政

司法

### テキスト

特に指定しない。講義中紹介する参考書の中から、各自にあったものを1冊購入することを勧める。

### 参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
いちばんやさしい憲法入門	初宿 正典 ほか / 有斐閣アルマ / 4641120870

上記の他、講義中に適宜紹介する。なお、基本的な六法(法令集)が必要になる。指定はしないが、なるべく新しいものを用意すること。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

適宜紹介する。

### その他

授業開講期間	後期	単位数	2	配当回生	時間割等参照
担当教員	松井 章浩				

### 講義内容・テーマ

A国人のXはC国に滞在していた。ある日、見知らぬ男から呼び出しを受けたXは、D国との国境付近に立った。いまだ来ぬ相手に苛つきながら、煙草に火を付けた。ちょうどその時、記憶が途絶えた。Xは胸部を狙撃されたのである。D国側にいた犯人Yが自らの仕事に満足した瞬間であった。

ある日、表通りを歩いていたA国人のXは、前方から車が走ってくるのを認めた。あまり見かけない高級車だった。ちょうどその時、Xは宙に舞った。一瞬居眠り運転してしまったYがXを轢いたのである。YはB国に駐在するC国大使である。

国境を越えた人や物の移動が容易になり、とりわけネット上では国境の意味が希薄になっているなどといわれますが、「法」の視点から見ると、どういう問題をはらんでいるのでしょうか。 の場合、どこの国がYを逮捕し、裁判にかけるのでしょうか。 の場合、Yを裁判にかけられるのでしょうか。こうした問題を考えながら、「法」的な論理を身につけることが本講義の大きな目標です。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この講義では国際社会における「法」を扱うが、ほとんどの受講生が「法」を初めて学習することを前提に講義を行う。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	

受講生の任意で提出するレポートを出題する予定であるが、詳細は受講生と相談して決める。

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義	
イントロダクション	
国境を越える行為にはどこの国の法を適用するのか	国内法の適用範囲
船舶上で犯罪が行われたらどうなるのか	国内法の適用範囲
インターネット上の行為はどうなるのか	国内法の適用範囲
日本の警察官が外国で職権を行使できないか	執行管轄権
逃亡した犯人は誰が逮捕できるのか	犯罪人引渡
海賊の場合はどうなるのか	普遍的管轄権
戦争犯罪やジェノサイドの場合はどうなるのか	普遍的管轄権
管轄権からの「免除」の問題	管轄権の例外
外国国家を裁判にかけられるか	管轄権の例外
外国の元首を裁判にかけられるか	管轄権の例外
外交官を裁判にかけられるか	管轄権の例外
軍隊・軍人を裁判にかけられるか	管轄権の例外
国際刑事裁判所(ICC)とは何か	国際犯罪の処罰
定期試験	講義で扱った全てが試験範囲

### テキスト

テキストは使用しない。

毎回、レジュメと事例紹介のための資料を配付する(講義中にしか配布しない)。

紹介する論文等を図書館で入手し、インターネット上の資料を収集していただくことが望まれる。

### 参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
国際法(有斐閣Sシリ - ズ、第4版)	松井芳郎ほか / 有斐閣 / 4-641-05998-5
講義国際法	小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編 / 有斐閣 / 4-641-04620-4
現代国際法講義(第3版)	杉原高嶺ほか / 有斐閣 / 4-641-04619-0
現代国際法の課題	田畑茂二郎 / 東信堂 / 4-88713-137-2

参考になる文献は他にも多くある。講義の中で紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

国際連合 <http://www.un.org>  
外務省 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/index.html>  
国連HP <http://www.un.org>  
国連 On Line <http://www.unic.or.jp/>  
国際司法裁判所 <http://www.icj-cij.org>

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 玉村 博巳

講義内容・テーマ

この講義は、企業と社会との関係をわかりやすく解説し、理解してもらうことを目的としている。経済学や経営学の基礎を前提にせず、企業に関する基礎的用語についても丁寧に説明したい。しかし現実には、企業が経済的にはもちろん社会的あるいは文化的にも大きな影響力をもっているし、同時にその企業自体が組織を大きく変化させている。また、日本企業の組織や行動は外国の企業とかなり異なる。それらについても当然説明したいと考えている。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	90 %	
日常点 (小テスト)	10 %	

定期試験。ただし、授業時間中の小テストなども評価に加えます(10%程度)。

講義スケジュール

内 容	キーワード
はじめに	
企業の社会責任・貢献	
民営化と規制緩和	
多国籍企業	
外資系企業	
中間まとめ	
企業の形態	
企業集中の形態	
企業経営制度の国際比較	
企業集団	
企業グループ	
金融グループ	
持株会社	
まとめ	

テキスト

レジュメ、資料を配布します。

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
新版 企業論	三戸・池内・勝部 / 有斐閣アルマ、2004年 /
持株会社経営の実際	武藤泰明 / 日経文庫、2003年 /
企業と社会 社会学からのアプローチ	/ ミネルヴァ書房、2000年 /

その他授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

適宜紹介します。

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 中谷 猛

### 講義内容・テーマ

政治学の対象は政党の活動や議会の仕組みという制度の面にのみ注がれるべきではない。制度や活動を支える人間の営みとしての政治の視点が重要な意味をもっている。「市民」や「国民」とは一体だれのことか。政治の主体としての「市民」を手掛かりにして、変動する政治の世界を国際的視点、歴史的視点や比較の視点を交えて考察してみよう。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

西洋やアジアの歴史に関する講義を受講しておくこと、理解に役立つ。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	95 %	複雑な政治現象を分析し、かつ認識するための知識の形成
日常点(小テスト)	5 %	受講生の問題意識を喚起し、講義内容の理解を促進することを狙う。

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
1 政治の世界とその枠組みの特徴	利害・価値・多様性
2 理念的市民像の形成	古典ギリシア・アテナイ
3 西洋文明とイスラム	比較・冷戦構造
3-1 9・11以後の世界とテロ	「悪の枢軸」・「テロ」
3-2 イスラム原理主義の問題	原理主義・ムハンマド
3-3 新しい「帝国」とは	帝国・一極支配
4 国民国家の諸問題	国家・国民
4-1 国民国家の形成	市民革命・市民
4-2 グローバル化と国民国家のゆらぎ	グローバル化・市場経済
4-3 EUと外国人労働者問題	移民・極右台頭
5 大衆社会と市民	マス・ソサエティ, 大量生産
5-1 大衆社会の成立と背景	化学技術の発達・大衆
5-2 大衆政党の時代と組織	政党・組織・大衆民主主義
6 情報化時代と市民	情報化・操作・テレビ
6-1 メディア支配とナショナリズム・ポピュリズム	第4の権力・ポピュリズム
6-2 「知る権利」と情報公開	デモクラシー・憲法の人権規定
7 市民とデモクラシー	デモクラシーの活性化・市民運動
7-1 新しい市民権	シティズンシップ・アイデンティティ
7-2 デモクラシーの再生とNGO・NPO	ボランティア・シビル
8 まとめ	

### テキスト

レジュメと資料を配布する。

### 参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
市民社会と市場のはざま	中谷猛他 / 晃洋書房 /
市民の政治学	篠原一 / 岩波新書 /
デモクラシー	千葉真 / 岩波書店 /

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

知的好奇心の旺盛な受講生の聴講をのぞむ。

授業開講期間	後期	単位数	2	配当回生	時間割等参照
担当教員	杉本 良雄				

講義内容・テーマ

私たちの日常生活が世界経済との繋がりを深めている今日、経済をグローバルな視点から見るのがますます重要となってきた。本講義では、(1) 激動する現代世界経済を理解する上で重要な基礎概念であるグローバリゼーション、国際貿易、WTO、自由貿易協定、多国籍企業、世界人口、資源・エネルギー、地球環境問題、戦争などを体系的に理解する。(2) 世界経済の動向を踏まえて、グローバル時代における日本の進むべき道を市民社会の観点から考える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	基礎的な概念の理解度
レポート	20 %	ビデオの内容の把握力、コメント力

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義	グローバリゼーション、市民社会
国際貿易	国際市場価格、価格破壊
GATTとWTO	ダンピング防止措置、セーフガード
自由貿易協定	FTA、地域協力
多国籍企業(1)	直接投資、世界的集中、戦略的提携
多国籍企業(2)	企業内国際分業、国際移転価格
世界人口	人口爆発、途上国の人口
国際労働力移動	外国人労働者、オフショア戦略
世界の食料問題	南の飢え、北の過剰、アグリビジネス
エネルギー・資源問題	石油、国際石油資本
南北問題	貧困、債務
地球環境問題	地球温暖化、森林破壊、ハイテク汚染
経済の軍事化・戦争	帝国、イラク戦争、単独行動主義
アジア共同体	東アジア経済圏、地域協力
世界市民社会	社会的責任、NGO、人権

テキスト

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
世界経済入門	西川潤 / 岩波書店 /

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
現代世界経済をとらえる Ver. 4	関下稔ほか編 / 東洋経済新報社 /
グローバル時代をどう生きるか	遠州尋美 / 法律文化社 /
グローバル資本主義 - 危機か繁栄か -	ロバート・ギルピン / 東洋経済新報社 /

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

スケジュールに若干の変更も有りうるので、ご容赦願いたい。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 池尾 靖志

### 講義内容・テーマ

「人間の安全保障」という概念は、もともとは、UNDPの『人間開発報告書』1994年版に明記された概念であるが、今日では、「恐怖からの自由」「欠乏からの自由」と環境の保護を意味するものと理解されている。そこでこの講義では、これらの内容を含む「人間の安全保障」という概念を、「平和」という概念と結びつけて考察することとする。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期開講の「戦争の歴史と現在」をあわせて受講することが望ましい。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	
日常点 (小テスト)	20 %	

### 講義スケジュール

内容	キーワード
「平和」とは？	
戦争の違法化と集団安全保障	
軍事力は本当に私たちの安全を守るのか？(1)	
軍事力は本当に私たちの安全を守るのか？(2)	
核兵器のない世界にむけて	
少年兵	
軍事面でのグローバリゼーション	
NGOの可能性(1): オタワ・プロセス	
南北問題とは？	
グローバリズム・アパルトヘイト	
世界経済フォーラムと世界社会フォーラム	
地球環境問題とは？	
地球温暖化防止レジーム(1)	
地球温暖化防止レジーム(2)	
まとめ	
定期試験	

### テキスト

池尾靖志編『第2版 平和学をはじめ』晃洋書房、2004年

### 参考書

- ・佐藤誠・安藤次男編『人間の安全保障: 世界危機への挑戦』東信堂、2004年
- ・人間の安全保障委員会報告書『安全保障の今日的課題』朝日新聞社、2003年
- ・勝俣誠編『グローバル化と人間の安全保障: 行動する市民社会』日本経済評論社、2001年

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

担当者のホームページ <http://www.asahi-net.or.jp/~iz8y-iko/>

### その他



授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 池尾 靖志

講義内容・テーマ

今年で戦後60年を迎える。その間にも世界では戦争や紛争が繰り返されてきたし、近年では、戦争をめぐる言説にも変化が見られるようになってきた。そこでこの講義では、主として20世紀における戦争の歴史を振り返ることによって、21世紀である現在、国際関係はどのような変化を遂げようとしているのか/国際情勢の変化に日本はどのように対応しようとしているのか、どこへ向かおうとしているのかについて、考えてみることにしたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

後期開講の「平和と人間の安全保障」をあわせて受講することが望ましい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	
日常点 (小テスト)	20 %	

講義スケジュール

内 容	キーワード
「戦争」とは？	
15年戦争に至る道	
歴史をめぐる解釈：日本の侵略戦争と原爆投下	
戦後の国際秩序構想	
冷戦の時代(1)：米ソの核軍拡競争	
冷戦の時代(2)：キューバ危機	
冷戦の時代(3)：ベトナム戦争	
冷戦の時代(4)：デタントから新冷戦へ	
冷戦の終焉	
人道的介入	
エスニック紛争のゆくえ	
「軍事上の革命(RMA)」	
テロの脅威	
イラク戦争	
まとめ	

テキスト

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
『第2版 平和学をはじめ』	池尾靖志編 / 晃洋書房 /

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
『戦争を記憶する』	藤原帰一 / 講談社現代新書 /
『国際紛争(原書第4版)』	ジョセフ・ナイ / 有斐閣 /
『冷戦史』	松岡完他編 / 同文館出版 /

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

担当者のホームページ <http://www.asahi-net.or.jp/~iz8y-iko/>

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 磯貝 健一

講義内容・テーマ

「イスラームでは～とされている」という説明は、多くの場合、一部のイスラームにしか通用しない。イスラームを正しく理解するためには、多様なイスラームを多様なまま理解することが必要である。本講義はそのような視点から毎回一つのテーマを取り上げて解説し、イスラームについての正確な知識を身に付けることを目標とする。あわせて、イスラーム世界の時事問題を理解するための基本的な視点についても触れる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

特になし。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	
日常点 (小テスト)	20 %	

\* 定期試験として実施

\* 日常点評価

定期試験を主、日常点を従として評価する予定。

講義スケジュール内 容キーワード

イスラーム世界のプロフィール(1)

イスラーム世界のプロフィール(2)

イスラームは「砂漠の宗教」ではない

ユダヤ教、キリスト教、イスラーム(1)---預言者ムハンマドとユダヤ教、キリスト教

ユダヤ教、キリスト教、イスラーム(2)---セム的一神教の世界

ユダヤ教、キリスト教、イスラーム(3)---イスラームから見たユダヤ教、キリスト教

預言者ムハンマドの生涯(1)

預言者ムハンマドの生涯(2)

聖典『コーラン』の成立

「ハディース」とは何か？

スンナ派とシーア派(1)

スンナ派とシーア派(2)

現代のイスラーム復興現象(1)---イスラーム法とは何か？

現代のイスラーム復興現象(2)---信仰「純化」の伝統

テキスト

講義中に配布するプリントをテキストとする。

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期 単位数 2 担当回生 時間割等参照  
 担当教員 江口 信清

### 講義内容・テーマ

テーマ:地域としてのカリブ海社会の特徴を考える。 エリアスタディは、特定の地域を総合的に研究する試みである。本講義では、カリブ海地域を取り上げる。ここは、ヨーロッパ列強の最初の本格的な海外植民地として開発されていった重要な地域である。この地域を多様な側面から考察することで、地域としての特徴を浮き彫りにすることが目標である。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

できるだけ積極的に、主体的に講義に参加し、自らの研究と結びつける努力をして欲しい。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	記述式の試験である。
日常点(小テスト)	20 %	授業の後半に、特定の課題について小作文を課す。

\* 定期試験として実施 \* 日常点評価 定期試験を実施するが、日常の講義時にも小作文を2回課し、総合的に評価する予定である。

### 講義スケジュール

内容	キーワード
授業の進め方と「地域」概念	地域
カリブ海地域の自然環境とその役割	自然環境、海流、風
ヨーロッパ人はなぜカリブ海地域へ進出を始めたのかータマエとホンネ	国土回復運動(レコンキスタ)、コロンブス、キリスト教
先住民とヨーロッパ人のせめぎあい	アラワク人、カリブ人、「人食い人種」
プランテーションの開発と奴隷制	奴隷制、プランテーション、さとうきび、ラム酒、契約労働者
アフリカ人奴隷の生活世界	アフリカ人、奴隷、呪術、プランテーション、アフリカニズム
ヨーロッパ本国と新世界	世界システム、都市の発達
なぜ、どのように奴隷が解放されたのかー産業革命の進展と購買力拡大	産業革命、購買力の拡大、奴隷解放
労働力を補充する多様な移民の流入と多文化社会の形成	中国人、インド人、ポルトガル人、ユダヤ人、アウトカースト・マイリティ
農民社会の形成	ベザント、草分け、不法占拠、高地適応、低地適応、移民適応
キューバ革命とカリブ海地域	キューバ、革命、不平等
観光開発の進行とカリブ人	観光、開発、エスニック・アイデンティティ、カリブ人
カリブ海地域と不法占拠・スラムの拡大	不法占拠、スラム、貧困
まとめ	
おわりに	

### テキスト

特定のテキストは使用しない。

### 参考書

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
カリブ海地域農民社会の研究	江口信清 / 八千代出版 / 4-8429-0706-1
観光と権力ーカリブ海地域の観光現象ー	江口信清 / 多賀出版 / 4-8115-5011-0
総合的現象としての観光	江口信清編 / 晃洋書房 / 2005年3月出版予定
略奪の海 カリブーもうひとつのラテン・アメリカ史ー	増田義郎 / 岩波書店 / 4-00-430075-4
レゲエ・トレインーディアスポラの響きー	鈴木慎一郎 / 青土社 / 4-7917-5828-5

『『貧困の文化』再考』江口信清編、有斐閣(ISBN4-641-19938-8)も参考図書として挙げる。必要に応じて参考書については講義時に指示する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

できるだけ視聴覚資料も使い、五感を使ってカリブ海地域を理解してもらう予定である。始業ベルの開始と同時に始めるので、遅刻をしないようにつとめて欲しい。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 田中 聡

### 講義内容・テーマ

#### 辺境からみた日本古代史

現在の通説的な日本古代史は、国家形成史の枠組みで語られることが多い。しかし古代の日本列島周辺地域には、毛人(エミシ)・隼人(ハヤト)・流求(リュウキュウ)人などの営む「国家に抗する社会」が数多く存在していた。この講義では、文字を持たず、自ら歴史を語ることもなかったこれらの人々の視点に立ち、日本古代史をとらえ直してみたい。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この講義での主張は、日本古代史の通説とはかなり異なっている。関心のある人は、一般向けの概説書や高等学校の教科書などの関連部分の記述を予め読んでおき、講義内容と比べて欲しい。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	
日常点(小テスト)	20 %	講義中に数回、内容に関わる小レポートを提出してもらう。

### 講義スケジュール

内容	キーワード
はじめに「夷狄」に関する一般的理解	
研究の枠組みと問題点	
研究の枠組みと問題点	
毛人・隼人・流求人の登場	
毛人・隼人・流求人の登場	
毛人・隼人・流求人の登場	
「夷狄」身分の出現	
「夷狄」身分の出現	
「反乱」の虚像と実像	
「反乱」の虚像と実像	
「反乱」の虚像と実像	
民と夷の両立	
民と夷の両立	
民と夷の両立	
おわりに 夷人論の視座	

### テキスト

授業時にプリントを配布。

### 参考書

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
『国家に抗する社会 - 政治人類学研究』	ピエール・クラストル(渡辺公三訳) / 書肆風の薔薇 /
『日本史講座』1(とくに9章)	日本史研究会・歴史学研究会 / 東京大学出版会 /

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 佐藤 専次

講義内容・テーマ

昨年EU参加国が大幅に拡大しヨーロッパの統合が進展している。現在のヨーロッパは、かつてのようにフランス・ドイツ・イギリスといった国民国家が競合する状況を克服し、広域な経済・政治体制のもとに統合されつつある。これを踏まえ、このような統一したヨーロッパがどのように形成されたのか、その中からどのようにして主権国家が誕生していったのかを概観する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	90 %	講義内容に関する論述試験。持ち込み物件は一切なし。試験テーマについては講義中に述べる。
日常点(小テスト)	10 %	月に1回程度、講義に関する感想文を書いてもらう。

講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義	
ローマ帝国と地中海世界の統一	
古代末期の社会と宗教	
ゲルマン人の社会と宗教	
ゲルマン人の移動と部族王国	
イスラームの地中海進出と東ローマ帝国	
カール大帝とフランク王国(1)	
カール大帝とフランク王国(2)	
ノルマン人とイングランド王国の成立	
農村社会の変動	
中世都市の発展	
ローマ教皇とラテン=キリスト教世界の確立	
十字軍とヨーロッパの膨張	
主権国家の形成と宗教改革	
主権国家体制の成立	

テキスト

使用せず。

参考書

授業中に指示する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 田中 聡

### 講義内容・テーマ

「日本史」像はどのようにつられてきたか 日本の歴史について考えるとき、われわれは「日本民族」が古代以来現在に至るまで一貫してたどってきた過程、を当然のように思い浮かべる。だがそうした歴史観は、実は近代以前には存在しなかった。われわれが日頃慣れ親しんでいる「日本史」像は、どのようにつられてきたのだろうか。この問題について古代史を題材に考えてみたい。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

歴史観の問題は、現代社会の民族・国民とアイデンティティの関係をめぐる議論などと密接に関わる。こうした問題に関心を持ち、生産的な議論をする意欲のある人の受講を希望する。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	
日常点 (小テスト)	20 %	講義中に数回、内容に関わる小レポートを提出してもらう。

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
はじめに 歴史観の現在	
近代的時間観念の成立 1880年代	
近代的時間観念の成立	
近代的時間観念の成立	
拡大する日本史の空間 1910年代	
拡大する日本史の空間	
拡大する日本史の空間	
共同体論の導入 1930年代	
共同体論の導入	
共同体論の導入	
民族文化と民主主義 1950年代	
民族文化と民主主義	
社会の階級構成 1970年代	
社会の階級構成	
おわりに 歴史観の自覚	

### テキスト

授業時にプリントを配布。

### 参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
『20世紀日本の歴史学』	永原慶二 / 吉川弘文館 /
『現代日本思想論 歴史意識とイデオロギー』	安丸良夫 / 岩波書店 /

参考文献は多岐にわたるので、他は授業中に適宜紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

日本の近現代と立命館 GA

13272

特殊講義(日本の近現代と立命館) GA

ヴィジョン形成特殊講義(日本の近現代と立命館) GA

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3~8

担当教員 小関 素明、松岡 正美、芦田 文夫、岡尾 恵市、柳ヶ瀬 孝三、山崎 有恒

講義内容・テーマ

日本の近現代と立命館の百年

本学で学ぶ者にとって共通した「身近な場」である大学の歴史を通して、日本近現代史を学び、今日われわれが直面している近代化のひずみ、教育の危機などの問題を、身近な視点から再考する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	
日常点 (小テスト)	20 %	出席点を加味する場合もある

定期試験として実施

講義スケジュール

内 容	キーワード
序論 - 日本の近現代と立命館の100年 - (小関 素明)	
立命館の黎明と発展 (山崎 有恒)	
戦争の影と教育・思想の危機 (松岡 正美)	
戦時体制下の立命館 ~ 日本型軍国主義の進行・転落とわが学園の意外の曲折 ~ (松岡 正美)	
敗戦後の混乱と教育の再建 (松岡 正美)	
「立命館民主主義」の創成 (芦田 文夫)	
高度経済成長と大学の大衆化 ~ マス・プロに抗する「小集団教育」~ (芦田 文夫)	
「大学紛争」と立命館 ~ 「大学改革」か「大学解体」かをめぐる騒動~ (芦田 文夫)	
転換期の高等教育政策 ~ 学園の新しい経験 ~ (柳ヶ瀬 孝三)	
学園創造の新展開 ~ 学びのシステムの歩み ~ (柳ヶ瀬 孝三)	
大学スポーツの歩みと立命館 (岡尾 恵市)	
総長講演 (長田 豊臣)	
世界に飛躍する立命館(仮題) (モンテ・カセム)	
課外活動とスポーツ・学術・学芸 (岡尾 恵市)	

テキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他



授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 吹戸 真実

### 講義内容・テーマ

20世紀を通じて日本は、東アジア・太平洋地域最強のパワーであるアメリカ合衆国と常に向き合ってきたし、今後も重要な隣国であり続けるであろう。ただ他方でアメリカは政治・経済・文化を問わず我々にとり最も存在感の大きな国であるため、好悪の感情につきうごかされた議論がややもすれば見うけられる。だからこそ、ときに立ち止まって、アメリカとは何かについて冷静に振り返る必要があるだろう。本講は、広大な自然空間のもと、多様な人種・民族集団を抱えてきたアメリカが、如何にして統合をはかり今の相貌を示すに至ったかについて、アメリカの置かれた国際環境との連関を常に意識しつつ、さまざまな切り口から歴史的に考察する。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

教科書に目を通したことを前提に授業を進めるので、指定した章を事前に予習しておくこと。資料、レジュメは適宜配布する予定。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	85 %	教科書、および授業中に配布するレジュメ、資料はすべて持ち込み可とする
日常点 (小テスト)	15 %	原則的に出席はとらず期末筆記試験のみで評価するが、平常点 (課題の評価) を加味する 場合がある

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義	
イントロダクション: アメリカ史を学ぶにあたって	
空間から読み解くアメリカ: その多様性と環境保護	
経済の発展: 消費者資本主義のアメリカ	
アメリカ人の「階級」意識: 「機会の国」の現実	
先住アメリカ人の歩み: その苦難の歴史	
アメリカ史のなかの移民: 「白人」の創造	
アフリカ系アメリカ人の歴史: 奴隷制から公民権運動まで	
ラティーノ/ヒスパニック: アイデンティティ形成に向けて	
アジア系アメリカ人の歩み: 差別、偏見との戦い	
ジェンダーで見るアメリカ史: 家族像の変容とフェミニズム	
政治思想の伝統: 福祉国家リベラリズムの成立	
アメリカ政治の歴史の変容: 民主主義と政党制	
「国民」の創造: 国民統合のプロセスと人種・エスニシティ	
アメリカ史における宗教: 「見えざる国教」の伝統	

テキスト	書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
	アメリカの歴史	有賀夏紀・油井大三元(編) / / 4641121621

### 参考書

各回ごとに、適宜指示する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

各回ごとに、適宜指示する。

### その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 増井 寛也

### 講義内容・テーマ

1912年までの中国を英語圏ではImperial China(中華帝国)という。「帝国」には皇帝・官僚による専制支配/多民族国家という二重の含意があるが、この二つの要素は一党独裁の権威主義/漢族の少数民族支配というかたちでなお健在である。現代中国の抱える諸問題を「帝国」の発生に遡って歴史的に概観する。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

テーマの性格上、講義の内容が著しく中国史に偏ることは避けられず、また授業時間数の制約により、あまりに初歩的レベルのままに終始するわけにもいかないので、高校段階で世界史を受講していないものには、それなりの積極性なり、自主的な取り組みが、自己の責任において要請されるものと、あらかじめ承知されたい。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	60%	期末レポート(分量2000字~3000字)を課す
日常点(小テスト)	40%	数回の小レポート(800字程度)を課す

期末レポート提出にあたり、参考文献の提示、ならびにインターネットのサイト名・アドレスの明記なきものは、評価対象外に置く。また、同上进行を参照し、これを丸写しにしたもの、さらに参照した事実自体を明示しないものも、同様に処置するものとする。

### 講義スケジュール

内容	キーワード
講義の目的と進め方等に関する説明	
秦帝国	「封建」と「郡県」
漢帝国	儒学の官学化
魏・晋南北朝～隋唐帝国	門閥貴族
宋王朝	科挙官僚
遼・金・元	征服王朝
明王朝と専制国家の完成	科挙・官僚制・郷紳
清帝国と多民族国家の形成	東北/モンゴル・東トルキスタン・チベット/朝鮮とヴェトナム
清末の「近代化」	洋務・変法・立憲
〃	北洋軍閥/革命派・孫文
中華民国	蒋介石/国民党
中華人民共和国	毛沢東/中国共産党
〃	
まとめ 最終的に理解が不足している点について質疑と討議	
第1回授業の前に、総括的導入講義(オリエンテーション期間中)を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	

### テキスト

テキストは特に指定しない。それに代わるレジュメを配布する。なお、当然のことながら、歴史現象の理解には空間軸と時間軸の複合的認識が不可欠である。高校世界史の副教材(年表・地図・資料集など)で十分であるから、それらを机上に備えて授業に臨んでもらいたい。

### 参考書

書名	著者/出版社/ISBNコード
東アジア史入門	布目潮風・山田信夫 編/法律文化社/
皇帝政治と中国	梅原郁/白帝社/
地域からの世界史 上・下	森正夫・加藤祐三/朝日新聞社/
アジアの歴史	大沢陽典他 編著/法律文化社/

上記以外の文献は、授業中に適宜紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ



授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 巖 敬俊

### 講義内容・テーマ

朝鮮半島を中心に、東アジアの近未来を展望します。過去・現在・未来の歴史軸を縦軸に、そして、安全保障・経済協力・文化交流などのキーワードを横軸にして、東アジアの国際関係を多面的に捉えます。東アジアは、現在どう動いているのか、どこへ向かっているのかを、共に考えるような授業を展開します。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	70 %	意見の対立する二つの新聞コラムを読み、批判してもらいます。
レポート	30 %	期末のレポートです。講義を聴いて、感じたこと、考えたことを書いてもらいます。日常点の代わりと考えてください。

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
講義内容の紹介。なぜ東アジアか。	アジアの勃興、東アジア共同体
なぜ東アジアか(続き)：東アジアに緊張をもたらすもの	米朝対立、歴史問題、拉致問題、日韓協調の必要性
京都の中の朝鮮	京都に残る渡来人の歴史
日本・朝鮮の帝国主義への対応	尊王攘夷、交戦、体制の違い、時間との競争
朝鮮の民族主義	近代朝鮮の民族主義、韓国・北朝鮮の富国強兵民族主義
朝鮮戦争とベトナム戦争	分断国家の統一問題、国際的影響
北朝鮮の憲法原理・経済制度	主体思想の国家、改革開放?
韓国・北朝鮮関係	敵対的共存から協力的共存へ?
朝鮮半島とアメリカ	朝鮮戦争と冷戦、転機、冷戦論理の克服、韓米同盟の再定義
スポットライト1:核問題とは何か	核危機の構図
朝鮮半島と日本	日韓・日朝国交正常化
スポットライト2:拉致問題をどう見るか	
朝鮮半島と中国	
スポットライト3:脱北者問題をどう見るか	

### テキスト

テキストはありません。講義レジュメを毎回、配布します。

### 参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
『アジェンダ：未来への課題』2003年夏号。	アジェンダ・プロジェクト / アジェンダ・プロジェクト /
『アジェンダ：未来への課題』2004年夏号。	アジェンダ・プロジェクト / アジェンダ・プロジェクト /

上記雑誌には講義と関連のある私の文章が載っています。講義を理解する上で参考になると思います。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 和田 武

### 講義内容・テーマ

地球環境問題は人類の生存をも脅かす重大問題であり、社会や人間生活もこの問題と無関係ではありえず、私たちがその認識を深めることの重要性が増している。本講では、オゾン層破壊、温暖化、大気汚染と酸性雨、ダイオキシンや環境ホルモンなどの化学汚染、放射能汚染、森林破壊と生物種の減少、軍事活動による環境破壊など、地球規模の環境問題について講義する。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

とくに予備知識はいらないが、まじめに授業に出席・受講することを望む。随時、授業中に小レポート(質問、意見、感想など)の提出を求めるので、必ず提出すること。また、自主レポートの提出を歓迎する。これは、環境問題に関するテーマを自由に選び、自分で学んだり、調べたりしたことをまとめたもので、6月の最終講義までに提出する。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	
レポート	0 %	優れた自主レポートについては成績評価にプラスする。
日常点(小テスト)	20 %	授業中に課す小レポートを採点・評価

成績評価は、定期試験と小レポートで行うが、自主レポートの優れたものは成績評価に最大+20する。

### 講義スケジュール

内容	キーワード
地球環境の進化と構造	
オゾン層破壊(1)大気圏の構造、オゾン層と紫外線、オゾン層破壊物質、オゾン層破壊のメカニズム	
オゾン層破壊(2)南極オゾンホールと地球のオゾン層破壊の現状、オゾン層破壊の影響	
地球の温暖化(1)人間活動による温暖化とその影響	
地球の温暖化(2)気温と温室効果気体(温暖化のメカニズム)	
地球の温暖化(3)今後の気温上昇とその影響予測、	
地球の温暖化(4)温暖化防止の取り組みの現状・「京都議定書」とその後	
大気汚染、酸性雨と環境の酸性化(1)大気汚染とその影響	
大気汚染、酸性雨と環境の酸性化(2)酸性雨の発生機構、酸性化による生物影響	
化学物質汚染(1)ダイオキシン汚染、生物濃縮と人体汚染	
化学物質汚染(2)環境ホルモンの人間や生物への影響	
放射能汚染(1)放射線と放射能、放射線の人体影響	
放射能汚染(2)原子力利用に伴う放射能汚染、	
森林破壊と生物種の減少、戦争・軍事活動による環境破壊	
まとめ	

### テキスト

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
新・地球環境論	和田 武 / 創元社 / ISBN4-422-40017-7

テキストと配布資料を中心に授業を行う。ときにはビデオ教材も利用する。

### 参考書

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
環境問題を学ぶ人のために	和田 武 / 世界思想社 /
脱フロンへの道	石井 史 / 学陽書房 /
よくわかる地球温暖化問題	気候ネットワーク / 中央法規 /
奪われし未来	シーア・コルボーン他 / 翔泳社 /
核の冬	エーリック他 / 光文社 /

石弘之「環境本100冊」丸善は、環境に関する本の概要を紹介しており、参考書を探すのには便利である。その他、以下の本が参考になる。和田・石井「このままだと20年後の大気はこうなる」カタログハウス、谷山鉄郎「恐るべき酸性雨」合同出版、和田「地球環境問題入門」実教出版、朝日新聞社原発問題取材班「地球被爆」朝日新聞社、宮田秀明「よくわかるダイオキシン汚染」合同出版、北条祥子

「よくわかる環境ホルモン汚染の話」合同出版

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

環境省;<http://www.env.go.jp/>、気候ネットワーク;<http://www.jca.apc.org/kiconet/>、原子力資料情報室;<http://www.pen.co.jp/>

その他

自主的、積極的に学んでほしい。質問は大いに歓迎するが、授業終了時などに直接、質問した方が理解がしやすい。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 深尾 正之

### 講義内容・テーマ

昨年度までは、オカルトや超能力といった世人を惑わす事例を、実演などを交えて否定的に論証することを含む、安齋育郎先生ご担当の名物講義であった。今年度、臨時で、私が担当する。しかし、実演などはできない。前半に、安齋先生の著書に従って、この科目の伝統的内容について議論する。その後は、以下の予定に述べる科学の常識、現代技術について説明する。新聞紙上に現れる様々な事件を積極的に取り上げ、内容を科学的に分析検討する。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

新聞やテレビで、「これ何?」、「なぜ?」と思う心を大切にしてください。その場で、辞書や地図を調べて自分の知識にしていくことは、君の人生を豊かにします。その疑問を、さらに詳しく知りたいと思った時、その話題を授業の教室に積極的に持ち込んでください。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	50 %	
日常点 (小テスト)	50 %	

定期試験では、技術的な詳細内容は問わない。科学的常識、考え方などを問う。毎回の授業では、その日の講義に対する意見・反論、新聞を読んで感じる疑問などを自分の考えを含めて、ミニレポートとして提出してもらおう。

### 講義スケジュール

内容	キーワード
人の不安に付け込む「カルト」	
客観的命題群と主観的命題群	
科学の時代になぜ人々は非科学に走るのか	
人生、どう生きるか	
科学の悪用の反省(ここまでテキストからの話題)	
科学の常識(長さ、原子から宇宙まで)	
科学の常識(エネルギーの形と変換)	
科学の常識(エネルギー資源)	
科学の常識(地球環境)	
科学の常識(温度・熱機関)	
科学の常識(古典力学と量子力学)	
科学の常識(相対性理論)	
現代文明を支える技術 (音と画像の伝送)	
現代文明を支える技術 (マイクロエレクトロニクスと計算機)	
期末試験	

テキスト	書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
	「科学する心」を育てる	安齋育郎 / (株)保健医療研究所 /

全授業の1/3程度を、この科目の伝統的内容について、このテキストで議論します。科学の常識、現代技術などの話題は、適宜、プリントを配布します。日々の新聞をテキストとして、そこから話題を拾います。

### 参考書

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
担当教員 福本 武明

講義内容・テーマ

科学技術は、われわれ人間の暮らしの中からどのようにして生まれ、われわれの暮らしをどのように変えてきたか、そして今後われわれの暮らしをどう変えようとしているのか。このことについて、われわれの日常生活と関連深い具体的な事例を、私の専攻する土木工学 (Civil Engineering) 分野から幾つか取り上げ、ビデオなども使いながら講義する。この講義を通じて、受講者それぞれが人類の未来に思いをはせ、現代人としての責務をしっかりと再認識する契機ともなればと願っている。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

毎回出席するように心掛けて自ら見聞を広め素養を高めるよう努めてほしい。レポートの提出を求めることがある。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	期末試験
日常点 (小テスト)	20 %	レポート点、出席、等

期末試験 (定期試験) 結果に平常点 (レポート、出席、等) を加算して評価する。詳細は、第1回目の授業時に説明する。

講義スケジュール

内容	キーワード
概説 (講義内容、スケジュール、評価法、等)	
地球を測る (地球の大きさ、地図作成など測量の歴史)	
距離・角度・標高を測る (測量の理論と技術、等)	
山を治める (土砂災害への備え、等)	
水を治める (治水事業の今昔、等)	
建造物を据えつける (各種建造物とそれを支える地盤の科学)	
飲み水・灌漑用水を確保する (用水路の話)	
交通路を築く ( ) - 道路の歴史、築造技術	
交通路を築く ( ) - 鉄道、港湾、空港	
橋を架ける (橋のいろいろ、構造力学と橋梁技術)	
トンネルを掘る (掘削技術の説明、等)	
ダムを造る (歴史、構造、施工法、ダムの功罪、等)	
下水を処理する、公害と戦う (処理技術の紹介、公害の歴史と現状、等)	
地盤環境問題と取組む (科学技術者倫理、海外技術援助、等も含む)	
定期試験	

テキスト

プリントを配布する。

参考書

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
土木工学概論教科書	土木工学概論教科書研究会編 / 彰国社 / 4-395-04006-3
地盤の科学	土木学会関西支部編 / 講談社 / 4-06-257088-2

授業の方法 (大学院科目のみ)参考になるWWWページその他



授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 宮下 晋吉

## 講義内容・テーマ

今日科学はよりマクロな宇宙空間へ、よりミクロなクォークへ、また生命の神秘へと発展し続けている。また、技術に応用されて日々の生活をますます便利にしている。その一方で死の病原体プリオンによるといわれるBSE、狂牛病やCJD(クロイツフェルト・ヤコブ病)問題、環境ホルモンや人工化学物質による汚染、ヒトゲノム解読やクローン人間など生命倫理に関わる問題、薬害エイズ、原子力発電所の事故など、科学技術に関わる社会問題がつつぎに起きている。それではわれわれ市民にとって、科学技術とはそもそも何であるのか、科学者・技術者とはいかにあるべきかなどの問題が、今日あらためて問い直されている。そこで本講では、上述のようないくつかの最近の典型的な科学技術問題を取り上げて、科学・技術の社会的ありようを検討する。

## 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

ビデオ教材や教材提示装置を用いてできるだけビジュアルな授業を行う。また毎回講義レジュメ、講義資料(図版、文献)などを教室で配布する。

## 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	80 %	2回実施する。1回目は、講義スケジュールの第1回から4回までの範囲で実施する(30%)、2回目はそれ以外のすべてを範囲とする(50%)。
日常点(小テスト)	20 %	コミュニケーションペーパー、出席など

レポートについては、2-3週間前から配布される。課題を刷り込んだ用紙に筆記し、提出日の授業中教室で提出する。ワープロOK、その場合はA4、40字40行でプリントアウトし、用紙を台紙として使用する。用紙の指定された箇所にホッチキス止め、糊貼り厳禁です。

## 講義スケジュール

内容	キーワード
科学技術と社会;世紀を越えて 豊かさの限界? 人工化学物質の時代	科学技術、20世紀、人工化学物質の時代、化学物質過敏症(CS)
環境ホルモンによる汚染を考える ビデオ「神々の警告 環境ホルモンの恐怖」をみる	環境ホルモン、人の精子数の減少などヒトを含む動物の生殖作用への影響(「生殖異変」)
環境ホルモンについて考える T.コルボーン他「奪われし未来」等を読む	シーア・コルボーン、環境ホルモンの脳への影響、環境ホルモンとレセプター、環境ホルモン問題の歴史
「環境の世紀」の到来 R.カーソン「沈黙の春」などを読む	R.カーソン、農薬による汚染、DDTなど有機塩素化合物等、環境問題の原理的把握
ヒトゲノム解読 「生命の世紀」へ(第1回レポート提出日)	市場経済の生命科学分野への拡大、遺伝子ビジネス、ヒトゲノム、ヒトゲノム解読計画
ドリーからクローン人間へ 「生命の世紀」はどこへ向かうか	クローン羊ドリーの誕生、「クローン人間計画」と規制の動き、生命科学の世紀はどこへ向かうか
脳とプリオン 動物からヒトへ? BSE(狂牛病)CJD(クロイツフェルト・ヤコブ病)	牛井、また会う日まで? プリオン、プリオン病、BSEのイギリスでの拡大と人間への感染、薬害CJD、BSEの日本上陸
薬害エイズをめぐる 薬害エイズと人権、生きること	薬害エイズ、HIV、HIV訴訟、薬害エイズ帝京大ルート安部被告「無罪」判決をめぐる
医学と医学者、医の倫理 ヒポクラテスから薬害エイズまで	ヒポクラテスの誓い、ナチスの断罪とニュルンベルク綱領、戦後日本の薬害史、サリドマイド事件、スモン事件、薬害と官業医の癒着構造、薬害エイズと「悪魔」の系譜
インフォームド・コンセント 頻発する医療事故、あるべき医療の21世紀システムとは?	頻発する医療事故、インフォームド・コンセント、患者の自己決定権、納得できる医療をめざして
チェルノブイリで何が起きたか 原発事故と産業社会	チェルノブイリ原発事故、チェルノブイリ事故の原因をめぐって、チェルノブイリ事故と産業社会
原発被爆、東海村臨界事故 原発事故はなぜくりかえされるのか	動燃東海・もんじゅ・ふげんの事故、東海村臨界事故、原発事故はなぜくりかえされるのか
マンハッタン計画、その1 原爆開発はいかにして始まったか	20世紀と物理学、原爆構想、原爆工学の成立、「マンハッタン計画」の発足、大学で始まった原爆開発
マンハッタン計画その2 原爆製造、投下はどのようになされたか	原爆開発と科学技術の現代史、軍産管理下の原爆の工場生産、科学者たちの抵抗、原爆投下、Physicists have know sin?
まとめと質疑応答など(第2回レポート提出日)	

## テキスト

書名	著者/出版社/ISBNコード
奪われし未来	T.コルボーン他/翔泳社/ISBN4-88135-985-1
沈黙の春	R.カーソン/新潮社/ISBN4-10-207401-5 c0161
狂牛病 人類への警告	中村靖彦/岩波書店/ISBN4-00-430759-7
優生学と人間社会	米本昌平他/講談社/ISBN4-06-149511-9 c0245

必要最小限、とくに授業中取り上げる部分(一部)は、プリントして配布する。

### 参考書

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
医の倫理	クレール・アンプロセリ / 白水社 / ISBN4-560-05738-9 c1212
薬害エイズ「無罪判決」どうしてですか	櫻井よしこ他 / 中央公論社 / ISBN4-12-150031-8
医療事故がとまらない	毎日新聞医療問題取材班 / 集英社 / ISBN4-08-720223-2
原発事故を問う チェルノブイリからもんじゅへ	七沢潔 / 岩波書店 / ISBN4-00-430440-7
原発被爆 東海村とチェルノブイリの教訓	広河隆一 / 岩波書店 / ISBN4-06-210546-2

他は、随時授業中に指示する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

適宜授業中に指示する。

#### その他

連絡などはできるだけ授業の教室で、質問等大歓迎です。その日の授業終了時に、私のところにどンドン来てください。またコミュニケーションペーパーも活用してください。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 宮下 晋吉

## 講義内容・テーマ

今日科学はよりマクロな宇宙空間へ、よりミクロなクォークへ、また生命の神秘へと発展し続けている。また、技術に応用されて日々の生活をますます便利にしている。その一方で死の病原体プリオンによるといわれるBSE、狂牛病やCJD(クロイツフェルト・ヤコブ病)問題、環境ホルモンや人工化学物質による汚染、ヒトゲノム解読やクローン人間など生命倫理に関わる問題、薬害エイズ、原子力発電所の事故など、科学技術に関わる社会問題がつつぎに起きている。それではわれわれ市民にとって科学技術とはそもそも何であるのか、科学者・技術者はいかにあるべきかなどの問題が、今日あらためて問い直されている。そこで本講では、上述のようないくつかの最近の典型的な科学技術問題を取り上げて、科学・技術の社会的ありようを検討する。

## 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

ビデオ教材や教材提示装置を用いてできるだけビジュアルな授業を行う。また毎回講義レジュメ、講義資料(図版、文献)などを教室で配布する。

## 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	80 %	2回実施する。1回目は、講義スケジュールの第1回から4回までの範囲で実施する(30%)、2回目はそれ以外のすべてを範囲とする(50%)。
日常点(小テスト)	20 %	コミュニケーションペーパー、出席など

レポートについては、2-3週間前から配布される。課題を刷り込んだ用紙に筆記し、提出日の授業中教室で提出する。ワープロOK、その場合A4、40字40行でプリントアウトし、用紙を台紙として使用する。用紙の指定された箇所にホッチキス止め、糊貼り厳禁です。

## 講義スケジュール

内容	キーワード
科学技術と社会;世紀を越えて 豊かさの限界? 人工化学物質の時代	科学技術、20世紀、人工化学物質の時代、化学物質過敏症(CS)
環境ホルモンによる汚染を考える ビデオ「神々の警告 環境ホルモンの恐怖」をみる	環境ホルモン、人の精子数の減少などヒトを含む動物の生殖作用への影響(「生殖異変」)
環境ホルモンについて考える T.コルボーン他「奪われし未来」等を読む	シーア・コルボーン、環境ホルモンの脳への影響、環境ホルモンとレセプター、環境ホルモン問題の歴史
「環境の世紀」の到来 R.カーソン「沈黙の春」などを読む	R.カーソン、農薬による汚染、DDTなど有機塩素化合物等、環境問題の原理的把握
ヒトゲノム解読 「生命の世紀」へ(第1回レポート提出日)	市場経済の生命科学分野への拡大、遺伝子ビジネス、ヒトゲノム、ヒトゲノム解読計画
ドリーからクローン人間へ 「生命の世紀」はどこへ向かうか	クローン羊ドリーの誕生、「クローン人間計画」と規制の動き、生命科学の世紀はどこへ向かうか
脳とプリオン 動物からヒトへ? BSE(狂牛病)CJD(クロイツフェルト・ヤコブ病)	牛井、また会う日まで? プリオン、プリオン病、BSEのイギリスでの拡大と人間への感染、薬害CJD、BSEの日本上陸
薬害エイズをめぐる 薬害エイズと人権、生きること	薬害エイズ、HIV、HIV訴訟、薬害エイズ帝京大ルート安部被告「無罪」判決をめぐる
医学と医学者、医の倫理 ヒポクラテスから薬害エイズまで	ヒポクラテスの誓い、ナチスの断罪とニュルンベルク綱領、戦後日本の薬害史、サリドマイド事件、スモン事件、薬害と官業医の癒着構造、薬害エイズと「悪魔」の系譜
インフォームド・コンセント 頻発する医療事故、あるべき医療の21世紀システムとは?	頻発する医療事故、インフォームド・コンセント、患者の自己決定権、納得できる医療をめざして
チェルノブイリで何が起きたか 原発事故と産業社会	チェルノブイリ原発事故、チェルノブイリ事故の原因をめぐって、チェルノブイリ事故と産業社会
原発被爆、東海村臨界事故 原発事故はなぜくりかえされるのか	動燃東海・もんじゅ・ふげんの事故、東海村臨界事故、原発事故はなぜくりかえされるのか
マンハッタン計画、その1 原爆開発はいかにして始まったか	20世紀と物理学、原爆構想、原爆工学の成立、「マンハッタン計画」の発足、大学で始まった原爆開発
マンハッタン計画その2 原爆製造、投下はどのようになされたか	原爆開発と科学技術の現代史、軍産管理下の原爆の工場生産、科学者たちの抵抗、原爆投下、Physicists have know sin?
まとめと質疑応答など(第2回レポート提出日)	

## テキスト

書名	著者/出版社/ISBNコード
奪われし未来	T.コルボーン他/翔泳社/ISBN4-88135-985-1
沈黙の春	R.カーソン/新潮社/ISBN4-10-207401-5 c0161
狂牛病 人類への警告	中村靖彦/岩波書店/ISBN4-00-430759-7
優生学と人間社会	米本昌平他/講談社/ISBN4-06-149511-9 c0245

必要最小限、とくに授業中取り上げる部分(一部)は、プリントして配付する。

### 参考書

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
医の倫理	クレール・アンプロセリ / 白水社 / ISBN4-560-05738-9 c1212
薬害エイズ「無罪判決」どうしてですか	櫻井よしこ他 / 中央公論社 / ISBN4-12-150031-8
医療事故がとまらない	毎日新聞医療問題取材班 / 集英社 / ISBN4-08-720223-2
原発事故を問う チェルノブイリからもんじゅへ	七沢潔 / 岩波書店 / ISBN4-00-430440-7
原発被爆 東海村とチェルノブイリの教訓	広河隆一 / 岩波書店 / ISBN4-06-210546-2

他は、随時授業中に指示する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

適宜授業中に指示する。

#### その他

連絡などはできるだけ授業の教室で、質問等大歓迎です。その日の授業終了後に、私のところにどンドン来てください。またコミュニケーションペーパーも活用してください。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 桂 郁雄

### 講義内容・テーマ

地球変動学 地球表層で生起しているさまざまな変動についてプレートテクトニクスを基礎として理解することを目指す。はじめに地球についての全体像を解説する。その後、プレート同士の相互運動により、プレート境界周辺で集中的にさまざまな変動が起きることを学ぶ。とくに日本列島とその周辺は、世界的に見てもプレート境界で起こる諸現象、すなわち変動がとくに集中しているところである。そこで日本列島の形成と現在生起している変動の特徴についても学ぶ。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

高校地学の知識は要しない。数学・物理・化学等の知識があったほうが多少は有利であるが、必須ではない。授業の理解には毎回の積み上げが大事である。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	論述試験による。学んだ知識を基礎として応用できるかどうかの評価対象である。

### 講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義	
はじめに - 地球システムについて	岩石圏、水圏、大気圏、磁気圏、生物圏
地球と太陽系の誕生と進化	原始太陽系星雲、微惑星、衝突
地球表層環境の進化	海、生命の起源、生物進化、酸化的大気
地球のかたちと重力場	回転楕円体、ジオイド、重力
地震波でわかってきた地球の内部構造	地殻、マントル、中心核
地球の構成物質 - 元素・鉱物・岩石	元素、鉱物、岩石
地震と火山の発生するところ	地震活動、火山活動、大地形、海底地形
プレートの概念と球面を動くプレートの運動	球面プレート、回転
プレート運動の推定 - 岩石・地層に記された昔の地球磁場の記録	岩石磁気、古地磁気、自然残留磁化、地磁気の逆転
岩石・地層の年代測定	相対年代、放射年代
プレート境界に働く力 - 地震の発生メカニズム	応力分布、プレート運動、地震波初動
プレート境界で起こる変動 - とくに火山活動について	火山活動、マグマ、マントルブリューム
日本列島の形成	収束境界、沈み込み、付加体
日本列島のテクトニクス	沈み込み、圧縮場、活断層

### テキスト

重要な参考書  
 西脇二一・他共著「大学教養地球科学(改訂版)」(三和書房, 本体2000円)

### 参考書

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
図説地球科学	杉村新・他編 / 岩波書店 / 4-00-005669-7
地球科学入門 - プレートテクトニクス	河野長 / 岩波書店 / 4-00-005667-0
グローバルテクトニクス	杉村新 / 東京大学出版会 / 4-13-062116-5
プレートテクトニクス	上田誠也 / 岩波書店 / 4-00-005929-7
地球学入門 惑星地球と大気・海洋のシステム	酒井治孝 / 東海大学出版会 / 4-486-01615-7

その他の参考書は授業中に例示する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

講義スケジュールは、テーマの重さや理解度によって進度を調整する。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 上 英俊

講義内容・テーマ

動きのメカニズムに関する基礎知識を理解し、「効率のよい運動の実践」へと発展させる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	
レポート	10 %	
日常点 (小テスト)	5 %	
その他	5 %	

講義スケジュール内 容キーワード

体力とは

神経 筋の構造と機能

筋線維組成

筋肉とエネルギー

筋疲労のメカニズム

疲労回復法

筋力トレーニング

持久力トレーニング

栄養(1)

栄養(2)

体重とパフォーマンス

ウエイトコントロール

運動と健康

まとめ

試験

テキスト参考書書 名

スポーツ生理学

著者 / 出版社 / ISBNコード

森谷敏夫・根本勇 / 朝倉書店 /

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 伊東 宏

講義内容・テーマ

現代のわが国の健康問題を医学的、公衆衛生的、社会的な観点から見つめ、個々人がその中でどのように健康づくりに取り組んだら良いかを、身近な生活の中の諸問題について具体的に考えていく。情報化社会の中で、健康問題に関する情報もテレビ、新聞などのメディアを通じて氾濫している。医学的見地から、確かな科学的データに基づくと考えられる情報にのみポイントを絞って提供し、人生で自己実現を行う上での基本的条件とも言える「健康づくり」の方法論について考えてみたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

\* 定期試験として実施

評価方法はテストによる。テストに加え、オンラインでのディスカッションに積極的に参加した者には、評価を加算する。

講義スケジュール内 容キーワード

第1回 健康とはなにか

第2回 統計データからみるわが国の健康問題について

第3回 生活習慣病1「癌」

第4回 生活習慣病2「心血管病その1」

第5回 生活習慣病3「心血管病その2」

第6回 食事と健康1

第7回 食事と健康2

第8回 たばこと健康1

第9回 たばこと健康2

第10回 お酒と健康

第11回 運動と健康・睡眠と健康

第12回 女子学生の健康

第13回 化学物質と健康

第14回 物理環境と健康

第15回 ストレスと健康

定期試験

テキスト

レジュメを用いる。

参考書

1. 学生と健康 国立大学等保健管理施設協議会編 南江堂 (1996)1,800
2. 厚生指標・臨時増刊「国民衛生の動向」厚生統計協会(毎年8/31発行)2,000

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

<http://www.kenkounippon21.gr.jp/> 「健康日本21」のホームページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 早石 周平

### 講義内容・テーマ

人間のさまざまな特徴が、他の生物や生息環境、自分以外の人間との関わり方の歴史のなかで、どのように獲得されてきたのかという問題に迫るため、生物学に基づくさまざまな方法を学習してもらうことが本講義の目標である。おもに、ヒトに近縁な生物である霊長類の行動や生態、遺伝の研究から得られた知見にもとづき、人類の進化を解明する方法を紹介する。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

生物学の知識は必要ない。ただし、日頃から、あなた自身を含めて、人間を取りまく様々な問題について、「生物としてのヒト」という観点をもって、深く考える態度が欲しい。また成績評価の対象とはしないが、機会があればオプションとしてニホンザルの観察実習を行うので、自由に参加して欲しい。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	60 %	
レポート	20 %	
日常点 (小テスト)	20 %	

定期試験が評価の中心である。試験は論述形式、持込自由で行う。期間中に小テスト、小レポートを数回ほど実施し、評価に加味する。

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義	
哺乳類と霊長類	
サル・類人猿・ヒト	
生物の進化とは何か	
化石と遺伝から探る霊長類の進化	
人類の起源と進化	
動物行動学と社会生物学	
採食行動	
性と繁殖の生物学	
集団生活の生物学	
家族の由来	
社会行動と利他行動	
互酬性と懲罰	
道具使用と文化	
人類の未来	
定期試験	

### テキスト

使用しない。

### 参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
人間性はどこから来たか サル学からのアプローチ	西田利貞 / 京都大学学術出版会 / 4876980799
人間性の起源と進化	西田正規・北村光二・山極寿一編 / 昭和堂 / 481220318X
ニホンザルの自然社会 エコミュージアムとしての屋久島	高畑由起夫・山極寿一編著 / 京都大学学術出版会 / 487698087X
サル学何でも小辞典 ヒトとは何かを知るために	京都大学霊長類研究所編 / 講談社 / 4061329189

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

京都大学理学部人類進化論研究室 <http://jinrui.zool.kyoto-u.ac.jp/>  
 京都大学霊長類研究所 <http://www.pri.kyoto-u.ac.jp/index-j.html>



その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 和田 武

### 講義内容・テーマ

地球環境問題は人類の生存をも脅かす重大問題であり、社会や人間生活もこの問題と無関係ではありえず、私たちがその認識を深めることの重要性が増している。本講では、オゾン層破壊、温暖化、大気汚染と酸性雨、ダイオキシンや環境ホルモンなどの化学汚染、放射能汚染、森林破壊と生物種の減少、軍事活動による環境破壊など、地球規模の環境問題について講義する。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

とくに予備知識は必要ないが、まじめに授業に出席・受講することを望む。随時、授業中に小レポート(質問、意見、感想など)の提出を求めるので、必ず提出すること。また、自主レポートの提出を歓迎する。これは、環境問題に関するテーマを自由に選び、自分で学んだり、調べたりしたことをまとめたもので、6月の最終講義までに提出する。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	
レポート	0 %	優れた自主レポートについては成績評価にプラスする。
日常点(小テスト)	20 %	授業中に課す小レポートを採点・評価

成績評価は、定期試験と小レポートで行うが、自主レポートの優れたものは成績評価に最大+20する。

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
地球環境の進化と構造	
オゾン層破壊(1)大気圏の構造、オゾン層と紫外線、オゾン層破壊物質、オゾン層破壊のメカニズム	
オゾン層破壊(2)南極オゾンホールと地球のオゾン層破壊の現状、オゾン層破壊の影響	
地球の温暖化(1)人間活動による温暖化とその影響	
地球の温暖化(2)気温と温室効果気体(温暖化のメカニズム)	
地球の温暖化(3)今後の気温上昇とその影響予測、	
地球の温暖化(4)温暖化防止の取り組みの現状・「京都議定書」とその後	
大気汚染、酸性雨と環境の酸性化(1)大気汚染とその影響	
大気汚染、酸性雨と環境の酸性化(2)酸性雨の発生機構、酸性化による生物影響	
化学物質汚染(1)ダイオキシン汚染、生物濃縮と人体汚染	
化学物質汚染(2)環境ホルモンの人間や生物への影響	
放射能汚染(1)放射線と放射能、放射線の人体影響	
放射能汚染(2)原子力利用に伴う放射能汚染、	
森林破壊と生物種の減少、戦争・軍事活動による環境破壊	
まとめ	

### テキスト

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
新・地球環境論	和田 武 / 実教出版 / ISBN4-422-40017-7

テキストと配布資料を中心に授業を行う。ときにはビデオ教材も利用する。

### 参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
環境問題を学ぶ人のために	和田 武 / 世界思想社 /
脱フロンへの道	石井 史 / 学陽書房 /
よくわかる地球温暖化問題	気候ネットワーク / 中央法規 /
奪われし未来	シーア・コルボーン他 / 翔泳社 /
核の冬	エーリック他 / 光文社 /

石弘之「環境本100冊」丸善は、環境に関する本の概要を紹介しており、参考書を探すのには便利である。その他、以下の本が参考になる。和田・石井「このままだと20年後の大気はこうなる」カタログハウス、谷山鉄郎「恐るべき酸性雨」合同出版、和田「地球環境問題入門」実教出版、朝日新聞社原発問題取材班「地球被爆」朝日新聞社、宮田秀明「よくわかるダイオキシン汚染」合同出版、北条祥子

「よくわかる環境ホルモン汚染の話」合同出版、

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

環境省;<http://www.env.go.jp/>、気候ネットワーク;<http://www.jca.apc.org/kiconet/>、原子力資料情報室;<http://www.pen.co.jp/>、

その他

自主的、積極的に学んでほしい。質問は大いに歓迎するが、メールよりも授業終了時などに直接、質問した方が理解しやすい。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
担当教員 宮下 晋吉

### 講義内容・テーマ

今日地球規模の環境問題が激化し、近代の大量生産・大量消費・大量廃棄型の産業・技術・社会システムじしんが問い直されている。人類は、周囲の環境を改変・破壊しつつどのようにして生産活動を拡大してきたのだろうか。近代的な産業・技術システムが、いつ、どのようにして生まれ、また技術は科学とどのように関わり合いながら発展してきたのだろうか。さらに科学を組織的に技術に応用しながら巨大な生産力を生み出してきた科学技術の現代的社会的ありよう(専門化した社会)はいつ、どのようにしてできあがってきたのだろうか。本講は、そうした問題を科学技術史的に考察することを目的とする。なお、こうした科学技術史のアプローチは、従来の科学史と技術史の通史のように、いわば科学知識の増加や技術水準、労働生産性の向上一辺倒ではなく、環境問題等との関連も重視しながら、できるかぎり社系の学生諸君の問題意識に応えるように工夫改善を試みたものである。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

毎回講義レジュメ、講義資料(図版、文献)を配布する。ビデオ教材を用いることもある。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	80 %	2回実施する。1回目は、科学と技術の歴史の見方を中心とし(30%)、2回目はイギリスやドイツなどの産業革命や工業化のプロセスとその歴史の意味について理解や考察を求める(50%)。
日常点(小テスト)	20 %	主として道具から機械へなど古代から中世の技術史の歴史のプロセスについての理解を求める。

レポートについては、2-3週間ほど前から配布される。課題をすり込んだ用紙に記述し、提出日に教室で提出する。ワープロOK、その場合はA4、40字40行でプリントアウトし、それを台紙として使用する用紙の指定された箇所にホッチキス止めすること、糊貼り厳禁です。

### 講義スケジュール

内容	キーワード
いま歴史から学ぶこと イースター島の教訓	イースター島の教訓、イースター島と地球、環境史観
『緑の世界史』を読む ポジトネガ、人類の活動と環境	クライブ・ボンテイング、緑の世界史の方法、自然と人間、人類史の99%、最初の大転換
ギルガメッシュ叙事詩 緑の世界史にみる古代文明の崩壊	「四大文明、メソポタミア それは一粒の麦から始まった」、森の神フンババの殺害、ノアの洪水
石器づくりの歴史的進歩 古人類学にみる人間と技術	人類進化史理解の現況、猿人、旧人から新人へ、オールドワイ渓谷の礫器から細石刃技法まで石器発達史の各段階
古代技術と科学 すきから5つの単一機械まで	農業の発明とすき、機械の起源をめぐって、5つの単一機械
『デ・レ・メタリカ』の世界 道具と機械、工場、工場制手工業	道具と機械、工場制手工業(マニユファクチュア)、ヨーロッパ中世の状況、アグリコラ、ヨアヒムシュタール鉱山、「デ・レ・メタリカ」
もののけ姫の世界 近代と非近代、人間と技術	宮崎駿、ジブリと工場制手工業、「もののけ姫」の基本的構図、たたらと日本製鉄技術史における技術革新
現代文明と近代化への反省から 吉川弘之と「環境産業革命」	現代文明への反省(伊藤俊太郎論文)、「日本型近代化」への反省、吉川弘之とインバース・マニユファクチュアリング(逆工場)論
産業革命とイノベーション 紡錘・紡錘車からジェニー機、水力紡績機へ	産業革命のイノベーション、原料の綿花から製品の綿糸まで綿紡績の諸工程、紡績におけるイノベーションとその意味
イノベーションとファクトリー アークライトと機械体系、近代的工場制度の発露	イノベーションとファクトリー、アークライト、アークライトと水力紡績機などの発明、アークライト型工場、機械体系、綿業王国
『技術・科学・歴史』を読む 転回点における西欧技術	産業革命におけるイノベーションのいくつかのポイントについて
『技術・科学・歴史』を読む 技術と科学	産業革命におけるイノベーションと科学の関わり
科学と技術の社会史 カードウェル『科学の社会史』を読む	D.S.L.カードウェル、イギリスにおける科学の組織化の遅れ、応用科学、ドイツの科学の組織化、協会と技術の学制等
専門化した社会	専門化とは、専門職業化と専門分化、カードウェルの専門化した社会論、専門化のあれこれの弊害
まとめ 専門主義を越えて	

### テキスト

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
緑の世界史、上・下	C.ボンテイング / 朝日新聞社 / ISBN4-02-259603-1、および ISBN4-02-259604-X
技術・科学・歴史 展開期における技術の諸原理	D.S.L.カードウェル / 河出書房 /
技術と労働	大沼正則 / 岩波書店 / ISBN4-00-003662-9
科学の社会史 イギリスにおける科学の組織化	D.S.L.カードウェル / 昭和堂 /

必要最小限、とくに授業中に取り上げる部分(一部)は、プリントとして配布する。なお、『科学の社会史』は、書店では今のところ品切れ。

**参考書**

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
ギルガメッシュ叙事詩	月本昭男 / 岩波書店 / ISBN4-00-002752-2
ヒトはいつから人間になったか	R.リーキー / 草思社 / ISBN4-7942-0683-6
風の帰る場所 ナウシカから千尋までの軌跡	宮崎駿 / ロッキング・オン / ISBN4-86052-007-6
産業革命期の企業者像 綿業王アアクライト伝考	小松芳喬 / 早稲田大学出版部 /
岩波講座現代社会学25 環境と生態系の社会学	井上俊他編 / 岩波書店 / ISBN4-00-010715-1

他は、適宜指示する。

**授業の方法(大学院科目のみ)****参考になるWWWページ**

とくになし。

**その他**

連絡などはできるだけ授業の時教室で、質問等大歓迎です。その日の授業終了後に私のところにどんどん来てください。またコミュニケーションペーパーも活用してください。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 松原 洋子

#### 講義内容・テーマ

生命科学 / 技術による「身体」「生体」「ヒト」の編成をめぐる諸問題について、和文、英文の文献を購読し、検討する。生命科学、生物医学、バイオテクノロジー、生体機械工学、セクソロジー、アンチエイジング、ナノテクノロジー、バイオメトリクス認証などのトピックから文献を選ぶ予定。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

特に制限はない。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	85 %	
日常点 (小テスト)	15 %	

成績は主に期末試験、その他日常点 (授業中に提出する小論文等) により判定する。上記の数字は大体の目安。

#### 講義スケジュール

内 容	キーワード
ガイダンス	
生命科学の歴史的背景 (1) : 分子生物学の誕生	
生命科学の歴史的背景 (2) : バイオテクノロジーの展開	
生命科学の制度的基盤 : 研究はどのように遂行されるのか	
生命科学と医学 / 医療の結合 : その特徴と問題点	
被験者と患者の保護 (1) : 「臨床研究」とは	
被験者と患者の保護 (2) : イレッサをめぐる問題	
被験者と患者の保護 (3) : 生体肝移植をめぐる問題	
被験者と患者の保護 (4) : 歴史的背景	
先端医療技術と倫理 (1) : 遺伝医療	
先端医療技術と倫理 (2) : 生殖補助医療	
先端医療技術と倫理 (3) : 人体の医療資源化 移植医療・再生医療	
動物実験の倫理	
授業のまとめ	
閉講	

#### テキスト

文献については授業中に指示する。

#### 参考書

原則として各回の資料は授業当日のみ配布する。教科書は使用しない。適宜参考文献の情報を提供する。

#### 授業の方法 (大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

授業開講期間	後期	単位数	2	配当回生	時間割等参照
担当教員	森阪 匡通				

講義内容・テーマ

「進化」という言葉は街中いたるところで耳にする。しかしその大部分が誤用であることが多い。本講義ではまず「進化」という考え方を正しく理解することを目的とする。

生物の形態や行動は、生存や繁殖のために非常にうまくできている。その仕組みは約150年前にダーウィンが提唱し、今でもその考えは色褪せない。今や進化論は生物の形態や行動の進化のみならず、人間の心、文化、さらには経済やコンピューターシステムにまで応用されている。進化論の正しい理解は、生物のみならずこの世界のあらゆるシステムの一つの体系的な理解につながる。本講義では進化論の概念の基本をわかりやすく紹介し、次に生命誕生から人間の進化までを追い、さらに人間を含めた動物の行動や心、そして言語の進化についての考え方を紹介することにより、進化という考えを、そしてそこから垣間見える自然体系を明らかにしていきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

生物の基礎知識は必要ないが、論理的な思考力と、好奇心は必要。興味ある人の受講を望む。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	40 %	
その他	60 %	出席点

講義スケジュール

内 容	キーワード
オリエンテーション	自然選択
進化とは何か？-現在の誤用	繁殖値
ダーウィンの考えたこと	利他行動
進化論の進化	利己的な遺伝子
遺伝子とは？種とは？	種分化
進化論の実際 かたちの進化 I. 生命誕生	RNA
進化論の実際 かたちの進化 II. 大爆発・大絶滅	DNA
進化論の実際 かたちの進化 III. ヒトへ	カンブリア紀
進化論の実際 かたちの進化？. 海棲哺乳類の進化	ネオテニー
進化論の実際 行動の進化 I. 進化的に安定な戦略	直立二足歩行
進化論の実際 行動の進化 II. 性選択	テレスコーピング
進化論の実際 行動の進化 III. 言語の進化	ゲーム理論
進化論の実際 心の進化	ハンディキャップ理論
進化論のまとめと進化論の行き着く先	刺激等価性
研究紹介	心の理論

テキスト

特に使用しない。

参考書

授業内で随時紹介する

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

授業内で随時紹介する

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 佐藤 路子

### 講義内容・テーマ

地球上には海洋、河川、森林、高山、砂漠など様々な環境が存在し、それぞれに適応した様々な生物が生息している。そして、同じ環境に生息している生物同士であっても、生活を営む方法はそれぞれ違っている。本講義では様々な生物やその営みを紹介し、なぜたくさんの生物が存在しているのか、どうやって様々な生活の営みが作り上げられてきたのか、その多様性はどのように維持されているのか、を主に環境と生物の関係・生物間関係に着目して解説する。また近年注目されている生物多様性の重要性と保全についても議論する。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

一回の講義は前半と後半に分かれています。前半では生物多様性を理解するために必要な概念や理論を具体例を通じて学習します。後半では生物多様性に大きな影響を及ぼす外来種、絶滅に瀕している種、保全運動が行われている種などの中から、毎回1種類の話題の生き物を取り上げて、その特徴や生活ぶりを紹介し、その生物が現在直面している問題について解説します。理解を深めるために「自然と進化」を合わせて受講されることをおすすめします。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	90 %	記述式と穴埋め式を予定
日常点(小テスト)	10 %	小レポートなどを実施することがあります

\* 定期試験として実施 日常点を加味するために小レポートを課すことがあります。

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示などで案内します。	
生物多様性の概念と種の形成	形質、変異、多型
種の多様性と種の形成 その1	種概念、生殖隔離機構、種の表記法
種の多様性と種の形成 その2	進化、自然淘汰
種の多様性と種の形成 その3	性淘汰
種の多様性と種の形成 その4	種分化のしくみ、適応放散
環境と生物の関係・生物間関係 その1	生態系、無機的環境と生物の関わり
環境と生物の関係・生物間関係 その2	食う-食われるの関係、共生、寄生
環境と生物の関係・生物間関係 その3	競争、資源分割、ニッチ
生物多様性の重要性と現状	絶滅のパターン、生物多様性の価値
生物多様性の保全 その1	生息地の破壊、分断化
生物多様性の保全 その2	環境汚染
生物多様性の保全 その3	移入種
生物多様性の保全 その4	乱獲、病気、遺伝的変異の減少
まとめ	
定期試験	

### テキスト

事前に購入する必要のある教科書はありません。毎回プリントやビデオで解説します。

### 参考書

講義にて適宜紹介します。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

講義にて適宜紹介します。

### その他

講義内容は予告なく変更することがあります。ご了承下さい。



授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 伊藤 裕

講義内容・テーマ

宇宙を階層的に構成する諸天体、および宇宙全体について、その姿と時間発展を概観する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	ただし、他の要素を加味する可能性もある

\* 定期試験として実施  
 定期筆記試験を実施する。平常点を加味する可能性もある。

講義スケジュール

内 容	キーワード
はじめに & 地球	
月	
太陽系	
太陽面現象	
太陽のエネルギー源	
いろいろな恒星	
星間物質と星形成	
恒星の進化	
恒星の終末	
銀河系	
いろいろな銀河とその集団	
宇宙の大規模構造 & 謎の暗黒物質	
膨張する宇宙	
宇宙の過去と未来	
定期試験	

テキスト

なし

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
宇宙のデータブック	比田井昌英ら / 東海大学出版会 /
新版・100億年を翔ける宇宙	加藤万里子 / 恒星社厚生閣 /
ハッブル望遠鏡の宇宙遺産	野本陽代 / 岩波新書918 /

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 伊東 宏

### 講義内容・テーマ

現代のわが国の健康問題を医学的、公衆衛生的、社会的な観点から見つめ、個々人がその中でどのように健康づくりに取り組んだら良いかを、身近な生活の中の諸問題について具体的に考えていく。情報化社会の中で、健康問題に関する情報もテレビ、新聞などのメディアを通じて氾濫している。医学的見地から、確かな科学的データに基づくと考えられる情報にのみポイントを絞って提供し、人生で自己実現を行う上での基本的条件とも言える「健康づくり」の方法論について考えてみたい。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

### 評価方法・基準

\* 定期試験として実施  
 評価方法はテストによる。テストに加え、オンラインでのディスカッションに積極的に参加した者には、評価を加算する。

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
第1回 健康とはなにか	
第2回 統計データからみるわが国の健康問題について	
第3回 生活習慣病1「癌」	
第4回 生活習慣病2「心血管病その1」	
第5回 生活習慣病3「心血管病その2」	
第6回 食事と健康1	
第7回 食事と健康2	
第8回 たばこと健康1	
第9回 たばこと健康2	
第10回 お酒と健康	
第11回 運動と健康・睡眠と健康	
第12回 女子学生の健康	
第13回 化学物質と健康	
第14回 物理環境と健康	
第15回 ストレスと健康	
定期試験	

### テキスト

レジュメを用いる。

### 参考書

1. 学生と健康 国立大学等保健管理施設協議会編 南江堂 (1996)1,800
2. 厚生指標・臨時増刊「国民衛生の動向」厚生統計協会(毎年8/31発行)2,000

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

<http://www.kenkounippon21.gr.jp/> 「健康日本21」のホームページ

### その他

授業開講期間	後期	単位数	2	担当回生	時間割等参照
担当教員	宮下 晋吉				

### 講義内容・テーマ

今日地球規模の環境問題が激化し、近代の大量生産・大量消費・大量廃棄型の産業・技術・社会システムじしんが問い直されている。人類は、周囲の環境を改変・破壊しつつどのようにして生産活動を拡大してきたのだろうか。近代的な産業・技術システムが、いつ、どのようにして生まれ、また技術は科学とどのように関わり合いながら発展してきたのだろうか。さらに科学を組織的に技術に応用しながら巨大な生産力を生み出してきた科学技術の現代的社会的ありよう(専門化した社会)は、いつ、どのようにしてできあがってきたのだろうか。本講は、そうした問題を科学技術史的に考察することを目的とする。なお、こうした科学技術史のアプローチは、従来の科学史、技術史の通史のように、いわば科学知識の増加や技術水準、労働生産性の向上一辺倒ではなく、環境問題等との関連も重視しながら、できるかぎり社系の学生諸君の問題意識に応えるように工夫改善を試みたものである。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

毎回講義レジュメ、講義資料(図版、文献)を配布する。ビデオ教材を用いることもある。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	80 %	2回実施する。1回目は、科学と技術の歴史の見方を中心とし(30%)、2回目はイギリスやドイツなどの産業革命や工業化のプロセスとその歴史の意味についての理解を求める(50%)。
日常点(小テスト)	20 %	主として道具から機械へなど古代から中世の技術史の歴史のプロセスについての理解を求める。

レポートについては、2-3週間ほど前から配布される。課題をすり込んだ用紙に記述し、提出日に教室で提出する。ワープロOK、その場合はA4、40字40行でプリントアウトし、それを台紙として使用する用紙の指定された箇所にホッチキス止めすること、糊貼り厳禁です。

### 講義スケジュール

内容	キーワード
いま歴史から学ぶこと イースター島の教訓	イースター島の教訓、イースター島と地球、環境史観
『緑の世界史』を読む ポジトネガ、人類の活動と環境	クライブ・ボンティング、緑の世界史の方法、自然と人間、人類史の99%、最初の大転換
ギルガメッシュ叙事詩 緑の世界史にみる古代文明の崩壊	「四大文明、メソポタミア それは一粒の麦から始まった」、森の神フンババの殺害、ノアの洪水
石器づくりの歴史的進歩 古人類学にみる人間と技術	人類進化史理解の現況、猿人、旧人から新人へ、オールドワイ渓谷の礫器から細石刃技法まで石器発達史の各段階
古代技術と科学 すきから5つの単一機械まで	農業の発明とすき、機械の起源をめぐって、5つの単一機械
『デ・レ・メタリカ』の世界 道具と機械、工場、工場制手工業	道具と機械、工場制手工業(マニユファクチュア)、ヨーロッパ中世の状況、アグリコラ、ヨアヒムシュタール鉱山、「デ・レ・メタリカ」
もののけ姫の世界 近代と非近代、人間と技術	宮崎駿、ジブリと工場制手工業、「もののけ姫」の基本的構図、たたらと日本製鉄技術史における技術革新
現代文明と近代化への反省から 吉川弘之と「環境産業革命」	現代文明への反省、「日本型近代化」への反省、吉川弘之とインバース・マニユファクチュアリング(逆工場)論
産業革命とイノベーション 紡錘・紡錘車からジェニー機、水力紡績機へ	産業革命のイノベーション、原料の綿花から製品の綿糸まで綿紡績の諸工程、紡績におけるイノベーションとその意味
イノベーションとファクトリー アークライトと機械体系、近代的工場制度の発露	イノベーションとファクトリー、アークライト、アークライトと水力紡績機などの発明、アークライト型工場、機械体系、綿業王国
『技術・科学・歴史』を読む 転回点における西欧技術	産業革命におけるイノベーションのいくつかのポイントについて
『技術・科学・歴史』を読む 技術と科学	産業革命におけるイノベーションと科学の関わり
科学と技術の社会史 カードウェル『科学の社会史』を読む	D.S.L.カードウェル、イギリスにおける科学の組織化の遅れ、応用科学、ドイツの科学の組織化、協会と技術の学制等
専門化した社会	専門化とは、専門職業化と専門分化、カードウェルの専門化した社会論、専門化のあれこれの弊害
まとめ 専門主義を越えて	

### テキスト

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
緑の世界史	C.ボンティング / 朝日新聞社 / ISBN4-02-259603-1、およびISBN4-02-259604-X
技術・科学・歴史 展開期における技術の諸原理	D.S.L.カードウェル / 河出書房 /
技術と労働	大沼正則 / 岩波書店 / ISBN4-00-003662-9
科学の社会史	D.S.L.カードウェル / 昭和堂 /
テクノロジーの行方	吉川弘之 / 岩波書店 / ISBN4-00-004428-1

必要最小限、とくに授業中に取り上げる部分(一部)は、プリントして配布する。なお、『科学の社会史』は、書店では今のところ品切れ。

## 参考書

書名	著者/出版社/ISBNコード
ギルガメッシュ叙事詩	月本昭男/岩波書店/ISBN4-00-002752-2
ヒトはいつから人間になったか	R.リーキー/草思社/ISBN4-7942-0683-6
風の帰る場所 ナウシカから千尋までの軌跡	宮崎駿/ロッキング・オン/ISBN4-86052-007-6
産業革命期の企業者像 綿業王アアクライト伝考	小松芳高/早稲田大学出版部/
岩波講座現代社会学25 環境と生態系の社会学	井上俊他編/岩波書店/ISBN4-00-010715-1

他は、適宜指示する。

## 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

とくになし。

### その他

連絡などはできるだけ授業の時教室で、質問等大歓迎です。その日の授業終了後に私のところにどんどん来てください。またコミュニケーションペーパーも活用してください。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 1以上  
 担当教員 安齋 育郎

### 講義内容・テーマ

この授業は、超能力・占い・予言・心霊現象など、科学と非科学のはざまにあるようなテーマを取り上げて、「科学的に考えるとはどういうことか？」を考えるものである。そして、世の中には「科学で扱える命題」と「科学では扱えない命題」とがあることを整理し、それぞれの命題群の本質を理解する。最後には、なぜ「科学の時代」に非科学が蔓延するのかを文明論的に検討し、われわれが「錯誤」に陥らないようにするためにはどうすればいいかについて考える。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

法、経済、経営、産業社会、文学部の夜間主・社会人学生のみを受講対象とする。  
 受講にあたっては、ADSL以上のインターネット接続ができるPC環境が必要である。  
 詳細については、オンデマンド授業受講ガイダンスで確認すること。

この授業はインターネットを通じたオンデマンド形式で実施される。学生は受講可能期間中(各講通常1週間)の好きな時間に、自宅や大学のコンピュータ教室から授業を受けることができるが、各自のスケジュールに合わせて計画的に学習を進めること。  
 なお、この授業では電子掲示板(BBS)への主体的な意見の書込みが求められる。他の学生の意見にも積極的に反応することにより、相互に見識が高められることを期待する。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	30 %	
日常点(小テスト)	30 %	
その他	40 %	授業コンテンツの視聴状況(30%)、電子掲示板(BBS)への書込み状況(10%)

成績は、授業コンテンツの視聴状況、電子掲示板(BBS)への書込み状況、小テスト、レポートによって総合的に評価する。

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
事前ガイダンス(オンデマンド授業について)	
オリエンテーション(授業要綱解説、教員紹介 他)	
人生には「科学で扱える命題」と「科学で扱えない」命題とがある	
「科学者として優れている」とは、どういう意味なのか？	
近代心霊術の幕開け - 職業的霊媒の元祖・フォックス姉妹の数奇な運命	
たかが「こっくりさん」、されど「こっくりさん」	
「ナスカの地上絵」- 古代ペルー人は空を飛んだのか？	
「スプーン曲げ」騒動で曲がった科学への信念？	
A B O式の血液型で性格判断はできるのか？	
U F O (未確認飛行物体)は宇宙人の乗り物か？	
愉快犯の仕業 - ミステリー・サークル&虹による地震予知	
錯誤の世界への2つの入り口 - 「思い込み」と「欲得」	
なぜ「科学」の時代に「非科学」に走るのか？	
最終討論とフォロー	
レポート作成	

### テキスト

### 参考書

テキストは使用しない。  
 参考文献は必要に応じて授業の中で提示する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他



授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 白井 健二

### 講義内容・テーマ

情報技術全盛の時代を迎えて、あらゆる専門の人々にとって、情報技術の基礎を学ぶことが必須であるが、それと同時に、徹底した情報化が社会に何をもたらすかについてもっと関心を払う必要がある。本講義では、情報技術の基礎を幅広く学ぶとともに、ますます発展していく情報化社会の限らない可能性について考え、あわせて情報セキュリティ、情報倫理、知的所有権など情報モラルの必要性や情報に対する責任について学習する。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

特になし。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	40 %	事前に提示した課題に対してレポートを講義終了時に提出する。レポートは、A4用紙で約3ページ、手書きは不可。
日常点(小テスト)	30 %	講義の中間時に課題を提示し、翌週の講義日にレポートを提出する。レポートは、A4用紙で2枚、手書きは不可。
その他	30 %	講義終了後、その日の講義の要点および講義のアンケートを記述して提出する。

\*試験に代わるレポートを実施し、かつ中間レポートおよび講義のまとめ等の日常点で評価する。最終レポートおよび中間レポートは、必ず提出すること。

### 講義スケジュール

内容	キーワード
総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
インターネットの仕組みについて	近年、IPネットワークが主流となり、インターネットへのアクセスが爆発的に伸びている。そこで、インターネットとはどういう仕組みになっているのかを講義する。
IPネットワークとOSI参照モデル(1)	IP通信がベースとなるものがOSI参照モデルである。そこで、IP通信を理解するためにはOSI参照モデルを理解することが必要である。
IPネットワークとOSI参照モデル(2)	ここでは、OSI参照モデルをベースにしたTCP/IPについて講義する。
ITとユビキタス社会について(1)	ITの進展に伴い、到来するユビキタス社会とはどういうものか？を講義する。
ITとユビキタス社会について(2)	同上
ITとユビキタス社会について(3)	同上
情報セキュリティについて	セキュリティは、重要な技術要素の一つである。そこで、情報セキュリティを導入するに際し、どういう考え方で導入するは良いか？を講義する。
情報セキュリティ導入に関すること	ここでは、過去に発生したセキュリティ事事例を中心に講義する。
ブロードバンド時代について	情報通信は今や、ブロードバンドの時代である。そこで、ブロードバンドが社会に与える影響について講義する。
ブロードバンド革命	わが国におけるe-Japan構想について講義する。
ITの価値について	ここでは、ITの価値について、米国の専門家を中心として意見を紹介する。
モバイルを活用したビジネス	今やモバイル、特に携帯電話は必要不可欠なツールとなった。そこで、モバイルを活用したビジネスについて講義する。
ナレッジマネジメント	頭脳流出を如何にマネージメントするか？について講義する。
まとめ。レポート提出日	

### テキスト

特に指定しない。講義時にレジメを配布する。

### 参考書

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
サルからユビキタス社会へ人類史をとってのITとは何か？	池田謙一 / NTT出版 / 4-7571-0140-6

### 授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

ITは、コンピュータ/ネットワーク用語があり、なかなか分かりづらいと思う。基本的な専門用語に対する解説資料は配布します。企業におけるITと社会との関わりについて講義します。



授業開講期間 後期                      単位数 2                      配当回生 1以上  
 担当教員 原 啓介

講義内容・テーマ

「数学」とは何か、「数学者」はどんなことをしているのか、について、易しく解説することを目標とする。具体的な例として、数の概念の発展や、面積や体積とは何か、といった素朴な疑問が、いかに高度な現代数学に発展していくか、題材として解説したい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

文系の高校生程度の数学の知識があること。(数学が得意だったり、好きだったりする必要はない。)理系の高校生程度の数学の知識があれば、この講義の中に出てくる数学自体で分からない箇所はないよう努力します。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	講義中に数回の課題を出し、レポートを提出してもらう

出席点などはなし。全十五回の講義中、時折、(予定は二、三回)レポート課題を与え、提出してもらう。

講義スケジュール

内容	キーワード
別途に指示する。	

テキスト

なし

参考書

全十五回で色々な話題を扱うので、全体の参考書はないが、講義中にそれぞれの話題について参考書を挙げる場合はある。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

なし

その他

全十五回の講義について、各回にどのような内容を講義するかは現時点では決められない。聴講者の様子を見つつ、柔軟に対応していく予定である。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
担当教員 原 啓介

#### 講義内容・テーマ

「情報」とは何か、について数学的に考察する。「情報」は現実の自然や社会とも密接に関係している一方、数学的にもあらゆる分野と関係する、素朴ではあるが非常に深い概念である。この講義では様々な数学の道具を用いて、「情報」に関係する数学について易しく講義する。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

文系の高校生程度の数学に習熟していること。例えば、微積分の初歩、ベクトルと行列、など。理系の高校生程度の数学の知識があれば、なお望ましい。しかし、講義全体として、ほとんど高度な数学は使用しないし、必要な情報はその度に説明するよう努力する。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	時折、レポートを提出してもらう。

出席点などはないが、講義中に時折、課題を与えてレポートを提出してもらい、評価の対象とする。全体で、二、三回くらいを予定している。

#### 講義スケジュール

##### テキスト

なし

##### 参考書

なし

##### 授業の方法(大学院科目のみ)

##### 参考になるWWWページ

なし

##### その他

全十五回の講義について、各回にどのような内容を講義するかは現時点では決められない。聴講者の様子を見つつ、柔軟に対応していく予定である。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 小池 行弘

講義内容・テーマ

社会事象に関する数理モデルを作る場合、社会実験等を行えないことが殆どである。当講義では計算機上で各種の変数を操作し、社会科学的な事象を模擬する。表計算ソフトを用いたいくつかの手法を習得することを目指す。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

エクセルの基本的な操作(数値や数式の入力、統計量の計算等)に習熟していることが望ましい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	60 %	基本的な内容を問う
レポート	10 %	定期試験に比べやや高度な課題
日常点(小テスト)	30 %	授業時に作成したシート等を評価する

講義スケジュール

内 容 キーワード

EXCELを用いた簡単な指数計算

人口動態または年金のシミュレーション(1)

人口動態または年金のシミュレーション(2)

人口動態または年金のシミュレーション(3)

線形計画法(連立1次方程式)

線形計画法(シンプレックス法)

線形計画法

回帰分析(1)

回帰分析(2)

回帰分析(3)

確率的推定(1)

確率的推定(2)

確率的推定(3)

定期試験およびレポート課題の概要

定期試験

テキスト

テキストは適宜配布する

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 吉田 要

### 講義内容・テーマ

車のCMを見ていて、車のホイールが、進行方向とは逆に回転しているのを見たことはないだろうか。これは、アナログからデジタルに変換する過程で起こる、情報の欠落によるのであるが、おわかりだろうか。また、人間の未来は、多くの可能性を秘めており、不確定であるが故に、可能性を過大に評価していないだろうか。我々人類が得ることのできる知識の限界や、量をはかり、提示することはできるのであるか。コンピュータを利用した技術は、日進月歩の進展を見せており、人工知能や人工生命あるいはロボットなど、情報に関わる技術は、映画「2001年宇宙の旅」や「マトリックス」のように、人類を脅かすものとなっていくのだろうか。コンピュータの能力は人間の能力に匹敵するものなのだろうか。このような答えの一端をこの授業で明らかにし、情報化の進んでいく方向を見極める目を養うことを目的とする。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

積み上げ式なので、授業を遅れたり休んだりすると理解しにくい。また、問題には積極的にチャレンジして欲しい。授業を毎回まじめに聞くことが重要。教科書に沿って授業を行う。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	70 %	授業内容全般について
日常点(小テスト)	30 %	授業の進行に従って、問題をだし、正解が出れば加点する。出席重視
* 定期試験として実施		基本的には最終テストにて行うが、問題を出し、正解が出ると加点をするので、平常点(出席点)も加味される。

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
情報の概念と種類	
情報概念出現の歴史的背景と科学的背景	
情報の表現と人類の限界 そこから先は人類未到の領域	
情報の価値と情報量	
符号化と復号化1 情報の表現について	
符号化と復号化2 電子認証 盗聴システム	
コンパクト符号 情報の表現2 どのような情報表現が望ましいか	
オートマトンと神経回路網1 生き物と機械の比較 オートマトンの能力 言語の階層性	
オートマトンと神経回路網2 マカロックとピッツの神経回路網	
コンピュータの原理 チューリングマシン	
チューリングマシンと人間の認識能力の比較 同じか？	
複雑系からの話題 人工生命 セルオートマン	
未来社会 情報化社会 情報公開とプライバシー保護	
全体まとめ	

### テキスト

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
情報学概論・Prologプログラミング	吉田 要 / 八千代出版 /

教科書を原則として利用する。  
 吉田要「情報学概論・Prologプログラミング」八千代出版 生協書籍部

### 参考書

随時紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 1以上  
 夜間を主に学ぶコース生・社会人入試入学者のみ  
 担当教員 馬場 優

講義内容・テーマ

国際連合憲章第1条は、国連の目的の1つに「国際の平和及び安全を維持すること」を挙げている。国連創設時の人々がそのために想定していたものが「国連軍」であった。しかし実際には、「多国籍軍」と「平和維持活動(PKO)」が活用されている。これと関連して、日本は世界の平和と安全にどのように「貢献」してきたのであろうか、そしてしていくのであろうか。本講義では、平和と安全に対する国連の取り組みと日本のそれへの関わりを主に軍事的視点から検討することを目指す。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	記述形式の問題を予定している。

講義スケジュール

内容	キーワード
----	-------

イントロダクション

国際連合の成立と日本の加盟問題

国際連合の主要組織(その1)

国際連合の主要組織(その2)

作られたことのない国連軍(1):朝鮮戦争のケース

PKOの誕生

PKOと自衛隊:1992年のPKO協力法

カンボジアPKO

モザンビークPKO、ルワンダPKO、東チモールPKO

中東問題と日本

2001年の同時多発テロと日本:アフガニスタン戦争とテロ対策特措法

2003年のイラクへの自衛隊派遣:イラク特措法

政府開発援助(ODA)

国連改革問題

定期試験

テキスト

教科書は使用しない。毎回、レジュメを配布する。

参考書

その都度、紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間	前期	単位数	2	配当回生	1以上
担当教員	小松 史朗				

### 講義内容・テーマ

本講では、現代企業の経営システム・経営法則の基本について、経営学・経済学をベースにして概説する。コーポレート・ガバナンス、経営戦略論、経営組織論、人事労務管理論、財務管理論などと講義内容は広範に及ぶが、講師は、レジュメや資料を充実させつつ、現代企業における事例を豊富に紹介することによって受講者の理解が進むよう努める。受講者には、講義を通して企業経営についての基礎知識を習得するばかりでなく、労働者、消費者、その他外部利害関係者としての現代企業経営に対する独自の「観点」を養うことを期待する。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講条件は特に設けない。講師は、初学者にも理解できるように講義することを心がける。ただし、講義中の私語、携帯電話の使用、飲食等、他の受講者の迷惑となる行為を取る者に対しては、厳しい態度で臨む。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	90 %	基本的には、定期試験の点数で評価する。
その他	10 %	出席状況などによっては、最終評価に若干の調整を行う。

\* 定期試験として実施 主に定期テストの結果によって評価する。  
定期テストでは、あらかじめ指定した課題に基づいて論述で解答して頂く。持ち込みは一切不可とする。

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義	
経済の仕組み	3つの経済主体(政府、企業、家計)、市場の失敗と国家及び地方自治体の役割、国家財政問題、民営化
企業経営に関する基礎知識	企業の諸形態(合名会社、合資会社、有限会社、株式会社)、株式会社の制度と組織、株式市場の仕組み、財務諸表の読み方(貸借対照表、損益計算書、有価証券報告書)
同上	同上
コーポレート・ガバナンス	企業統治の諸形態(資本関係、融資関係、取引関係による支配)
同上	日本的コーポレート・ガバナンスの生成・特質(企業集団・企業系列、株式持合、メインバンク・システム、長期的取引関係、企業特殊の投資・関係特殊の技能)
同上	アメリカ的コーポレート・ガバナンス(経営者支配から株主支配への変容過程、指名・報酬・監査委員会、短期収益主義、産業の空洞化、短期雇用慣行、WASP支配)
同上	日本的コーポレート・ガバナンスの変容と今後(グローバル化、会社法改正、委員会等設置会社、企業集中、外部取締役、アメリカ的ガバナンス化の含意)
企業の社会的責任	企業不祥事、日本のガバナンスの問題点、株主代表訴訟、PL法、SRI、コンプライアンス、アカウンタビリティ、ステイク・ホルダーズ・ガバナンス
経営組織	ライン・スタッフ制、職能別組織と事業部制組織、チャンドラー理論、SBU、マトリックス組織、プロジェクト・チーム、分社化
経営戦略	経営戦略と経営理念・経営計画、経営資源と経営戦略
同上	アンゾフの経営戦略論(製品・市場範囲の決定、成長ベクトル、競争上の利点、シナジー効果)、ポーターの競争戦略論
日本的雇用慣行・人事労務管理	日本的雇用慣行の特質・目的・前提(終身雇用、年功序列、企業別労働組合をベースとして)、企業特殊の能力の内部養成と囲い込み、協調的労使関係、年功賃金、硬直的な外部労働市場、様々な賃金体系と目的
同上	明治期以降の技術革新と労働市場(日本的雇用慣行の萌芽)、労使紛争の時代と協調的労使関係の成立(日本的な「働き方」の解明)、アメリカ的労務管理(短期労働慣行、デマークーション、対抗的労使関係)
同上	日本的雇用慣行の変容(グローバル化、成長の限界、外部労働市場の流動化、非典型雇用化、能力主義・成果主義、長期雇用慣行と企業競争力、教育訓練の労働者自己責任化の含意、フリーター問題、ハーンシュマン理論)

### テキスト

特に指定しない。講義では、毎回、テーマごとにレジュメ、資料及び参考文献リストを配付する。s

## 参考書

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
入門の入門 経営のしくみ(最新版)	青木三十一 / 日本実業出版社 / 4-534-02915-2
ベーシック経営学Q&A(新版)	総合基礎経営学編集委員会編 / ミネルヴァ書房 / 4-623-03794-0
新版 現代の経営 : その歴史的考察	橋本輝彦 / 文理閣 / 4-915659-89-5
アメリカの経済	春田素夫・鈴木直次 / 岩波書店 / 4-00-026013-8
新・日本の経営	ジェームズ・C・アベグレン著、山岡洋一訳 / 日本経済新聞社 / 4-532-31188-8

その他、講義時にテーマごとの参考文献リストを配布する。

## 授業の方法(大学院科目のみ)

## 参考になるWWWページ

<http://www5f.biglobe.ne.jp/~juka2/> (宮坂純一「日本的経営への招待」)

## その他

小松史朗(コマツ フミアキ)1970年生まれ ・立命館大学非常勤講師  
 専門分野: 生産システム論、労務管理論、日本的経営論  
 所属学会: 日本経営学会、社会政策学会、日本労働社会学会、労務理論学会

授業開講期間	前期	単位数	2	配当回生	1以上
担当教員	杉本 良雄				

講義内容・テーマ

私たちの日常生活が世界経済との繋がりを深めている今日、経済をグローバルな視点から見るのがますます重要となってきた。本講義では、(1)激動する現代世界経済の動きを理解する上で重要な概念であるグローバリゼーション、国際貿易、WTO、自由貿易協定、多国籍企業、世界人口、資源・エネルギー、地球環境問題、戦争などを体系的に理解する。(2)世界経済の動向を踏まえて、グローバル時代における日本の進むべき道を市民社会の観点から考える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	基礎的な概念の理解度
レポート	20 %	ビデオの内容の把握度、コメント力

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義	グローバリゼーション、市民社会
国際貿易	国際市場価格、価格破壊
GATTとWTO	ダンピング防止措置、セーフガード
自由貿易協定	FTA、地域協力
多国籍企業(1)	直接投資、世界的集中、戦略的提携
多国籍企業(2)	企業内国際分業、国際移転価格
世界人口	人口爆発、途上国の人口
国際労働力移動	外国人労働者、オフショア戦略
世界の食料問題	南の飢え、北の過剰、アグリビジネス
エネルギー・資源問題	石油、国際石油資本
南北問題	貧困、債務
地球環境問題	地球温暖化、森林破壊
経済の軍事化・戦争	帝国、イラク戦争、単独行動主義
アジア共同体	東アジア経済圏、アジア共同体
世界市民社会	社会的責任、NGO、人権

テキスト

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
世界経済入門	西川潤 / 岩波書店 / 4-00-430894-1

参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
現代世界経済をとらえる Ver4	関下稔ほか編 / 東洋経済新報社 /
グローバル時代をどう生きるか	遠州尋美 / 法律文化社 /

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

スケジュールに若干の変更も有りうるので、ご容赦願いたい。



授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 1回生以上  
 担当教員 井上 専

### 講義内容・テーマ

急速な経済発展によって世界の中で一定の地歩を得たわが国であるが、今日あらためて教育の場面において、子供が(そして大人が)「生きる力」が問われている。基本的、原則的なレベルで「人間が生きるとは」、しかも「より強く生きるとは」が問われているといえよう。本講義ではこの問題を現代の「心の時代」との関連で「心・魂」といった探りの方向と「国際化」との関連で、「異文化理解」という広がりの方角でと問うてゆきたい。

受講生に期待するのは、のびのびとした発表、意見の表出によって、人間とよりよき生を問うこと自体の意味を実感し、お互いに共有することである。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

西洋の思想、文化、人間観(あるいは東洋・日本と西洋との比較)に関して、学ぶ意欲を求める。

受講生は講義に関連した基礎的知識・意見の要点まとめや概説の発表が(個人あるいはグループによる)、誰にでもあたりうる。

担当者は発表当日、板書、レジュメプリント、PCやOHPによるプレゼン等々の形式で発表をすることが望まれる。(詳細は開講時に指示)

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	60 %	自ら関心を持つテーマを設定して講義内容をふまえつつそれをいかに深め、深化させているか
その他	40 %	個人あるいはクラス全体の発表への参加姿勢と発表内容の充実度をどう。出席状況もふくむ。

### 講義スケジュール

内容	キーワード
(大まかな予定である)1「よりよき生の愛求」としての教育人間学・魂・肉体の総合的人間把握-	教育人間学・体験されたりアリティ-
2-4 「心の時代」の先達に学ぶ(1) -古代ギリシアの文化と思想-	ソクラテス、「プシュケー」、プラトンとアリストテレスの比較「ロゴス」
5-7 「心の時代」の先達に学ぶ(2) -聖書の宗教・人間観とよりよき生への問い-	ギリシア神話と聖書の比較、仏教とキリスト教、「あの世」の信仰とよりよき生
8-10 近代の人間観・教育観の光と影	啓蒙主義(ロック、ルソー、カント)、理性、人格、非合理主義、個別性、実存
11-13 多元的・多文化的世界で生きる力とは？	歴史主義、解釈学、一言語・一文化的心性
14 課題と展望	

### テキスト

### 参考書

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
「人間的に見た教育学」	ボルノー / 玉川大学出版部 /
「教育思想(上)(下)」	村井 実 / 東洋館出版社 /
「日本の教育人間学」	皇紀夫・矢野智司編 / 玉川大学出版部 /

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1~8

担当教員 土屋 敬二

## 講義内容・テーマ

ヨーロッパ近、現代の問題

講義ではこの問題をヨーロッパ近、現代哲学の展開を通して考えることにします。近代の原理である主観性を確立した哲学こそが近、現代の諸問題の根源であるという批判もあるわけですが、その原理の展開をたどってみることで、我々の現在というものを確認したいと思います。

## 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

それぞれの関心をもって講義にのぞんで下さい。参考書をはじめとして哲学に関連する書物を読むように心がけて下さい。

## 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	80 %	講義をいかに理解しているか、そしてそれをいかに文章化しているかを中心に評価します。
レポート	10 %	講義のテーマに関連して2度ほどレポートを書いてもらいます。そして、それを適宜抜粋しコピーして配布し、皆さんの感想を求めます。
日常点(小テスト)	10 %	3回に1回出席を取ります。

質問ペーパーで出席を取りますので、質問の方も心がけて下さい。

## 講義スケジュール

内容	キーワード
概観 ヨーロッパ近、現代の哲学は何を問題にしてきたか？ ヘーゲル、ハーバーマスの哲学を通して	
1. デカルト: 近代的自我の確立は何をもたらしたのか？ デカルトの『方法序説』を読む (参) アーベルのデカルト批判、超越論的言語ゲームと自己の問題	「われ思う、ゆえにわれあり」(デカルト)
2. パスカル: 近代的自我は憎むべくものではないのか？ 神なき人間の惨めさについて パスカルの『パンセ』を読む	「自我は憎むべきものだ」、「この無限の空間の永遠の沈黙は私を恐怖させる」(パスカル)
3. ホブズ: 欲望存在としての人間はなぜ自然状態=戦争状態に陥るのか？ ホブズの『リヴァイヤサン』を読む	「すべての人における、力への、やむことなき意欲」、「社会状態のそとでは、つねに各人对各人の戦争が存在する」(ホブズ)
4. カント: 人間が自由であるとは何を意味するのか？ 形而上学的自己の問題 カントの『純粹理性批判』を読む (参) ヒュームにおける観念の束としての自己について	「道徳法則は自由の認識根拠である」(カント)
5. ヘーゲル: 近代がもたらした主観と客観の分裂はいかにして解決されるのか？ ヘーゲルの『法の哲学』を読む	「分裂が哲学の要求の源泉である」(ヘーゲル)
6. マルクス: マルクスは近代にいかに向かったのか？ 資本主義と共産主義の問題 マルクスの『経済学・哲学草稿』を読む	「みせかけでない真の共同社会においては、個々人は彼らの連合の中でかつ連合を通じて同時に自由を獲得する」(マルクス)
7. ニーチェ: a. キリスト教批判はなぜヨーロッパ的理性の批判たりうるのか？ ニーチェの『道徳の系譜』、『善悪の彼岸』、『力への意志』を読む (参) ショーペンハウアーの思想について	「禁欲主義的理想を除いては、人間は、人間という動物は、これまで何の意義も有しなかった」(ニーチェ)
8. 同: b. 超人思想は何だったのか？ ニーチェの『ツァラトゥストラ』を読む	「人間とは乗り越えられるべきあるものである」(ニーチェ)
9. フロイト: エス、無意識とは何か フロイトの『続精神分析入門』を読む	「エスの一部分から自我は抑圧抵抗によって分離したのであります」(フロイト)
10. ソシュール: 言語への注目はいかに人間観を変えたのか？ (参) 構造主義の問題	「言語は差異の体系である」(ソシュール)
11. サルトル: 近代的自我の影響はかくも強いのか？ 対自存在と対他存在 サルトルの『存在と無』を読む (参) ハイデガー、カミュなどの思想について	「実存が本質に先立つ」、「人間はみずからつくるものの以外の何物でもない」(サルトル)
12. ドゥルーズ・ガタリ: 資本主義とは結局何だったのか？ ドゥルーズ・ガタリの『アンチ・オイディプス』を読む	「第三の機械は、内在的な現代機械であり、この機械の働きは、貨幣・資本の充実身体の上の種々なる流れを脱コード化することにある」(ドゥルーズ・ガタリ)
13. ハーバーマス: コミュニケーション的理性はシステムによる生活世界の植民地化に抗しうるか？ ハーバーマスの『コミュニケーション的行為の理論』、『近代の哲学的ディスクルスを』を読む	「生活世界から発せられるインパルスが機能システムの自己制御に流れ込むようにならない」(ハーバーマス)

## テキスト

テキストは使用しませんが、原典コピーその他をテキスト代わりとします。

参考書

<u>書名</u>	<u>著者/出版社/ISBNコード</u>
『ヨーロッパ社会思想史』	山脇直司/東京大学出版会/
『反哲学史』	木田元/講談社/
『現代思想の冒険』	竹田青嗣/筑摩書房/
『そうだったのか現代思想』	小阪修平/講談社/

哲学にはさまざまな角度から入ることができます。皆さんの関心に応じて哲学に関連する書物を読んで下さい。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 1~8  
 担当教員 文 京洙

### 講義内容・テーマ

朝鮮半島(大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国)の解放(1945年の日本の植民地支配からの解放)から分断(韓国と北朝鮮への分断)をへて今日に至る過程を、日韓・日朝関係を含む東アジアの広い文脈の中で位置づけ、映像資料を交えながらふりかえる。授業を通して、受講者が今後の日韓、日朝関係をめぐる課題を考えていく上での基礎を培いたい。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	60 %	
レポート	40 %	

中間段階で、それまでの授業内容を反映した課題(レポート)を課す予定

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
前史1：日本支配下の東アジア	
前史2：連合国の戦後構想と信託統治問題	
朝鮮半島の解放と分断	
朝鮮戦争の経緯とその帰結	
50年代の東アジアと朝鮮半島	
65年日韓条約と東アジア	
軍事独裁と高度経済成長	
中ソ対立と北朝鮮	
光州事件と韓国の民主化	
冷戦体制の崩壊と南北朝鮮	
2000年南北首脳会談、和解と共存への模索	
在日コリアンの戦後の歩みと現在	
「韓流ブーム」と「拉致問題」、日韓・日朝関係の未来と東アジア	
まとめ	
テスト	

### テキスト

7月までに新たにテキスト(『韓国現代史』)を出版予定なので、出版社など最初の授業で指示する。

### 参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
『済州島現代史:公共圏の死滅と再生』	文京洙 / 新幹社 /

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 吉田 真

### 講義内容・テーマ

30数億年前に生命は生れた。そして約15億年前、酸素呼吸を司るミトコンドリアや光合成を司る葉緑体を持つ生物=真核生物が生れた。やがて多細胞生物が出現し、その一部は陸上に進出する。この講義では、このような生物進化の歴史を素材として、生命の起源、進化、大絶滅などに関する現代の理論を紹介する。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	80 %	
日常点 (小テスト)	20 %	

\* 試験に代わるレポートとして実施 \* 日常点評価 補助的に小テストを行うこともある。

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
はじめに。生物進化の歴史 / 問題の所在	
地球の起源: 微惑星の衝突による水の惑星の誕生	
生命の起源: 生命起源論のパラドックス	
モネラの出現: 原核生物=バクテリアの奇妙な世界	
真核生物の出現: 進化の断絶 / 細胞内共生	
多細胞生物の誕生	
性の出現: 性のパラドックス / 有性生殖の起源 / 雌雄の起源 / 雌雄の対立と強調	
老化と寿命の起源	
動物の起源: エディアカラ動物群 / カンブリアの爆発	
海の生態系の変遷: 脊椎動物の起源と魚類の進化	
陸上への進出: オゾン層の形成と植物の上陸 / 昆虫と両生類の繁栄	
大絶滅と適応放散	
霊長類と人類の進化	
ガイアの世界	
地球と人間の運命	

### テキスト

テキストは使用しない。講義の際にプリントを配布する。

### 参考書

参考書は講義の際に紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

総合英語 N  
総合英語 N

15576

授業開講期間 前期 単位数 1 配当回生 1以上  
担当教員 RICHARD MILLER

#### 講義内容・テーマ

This class is a conversation class that will allow the students to improve their conversation skills.  
Each class will consist of discussions, listening and some reading/writing.  
The grades for the class will be made up of participation/quizzes and a test.

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

The students are required to attend at least 2/3rds of the classes (as required by the university).

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

テキスト	書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
	Headway	/ Oxford University Press /

#### 参考書

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

総合英語	N	15577
総合英語	N	
総合英語	N	

授業開講期間 後期 単位数 1 配当回生 1以上  
担当教員 RICHARD MILLER

#### 講義内容・テーマ

This class is a conversation class that will allow the students to improve their conversation skills.  
Each class will consist of discussions, listening and some reading/writing.  
The grades for the class will be made up of participation/quizzes and a test.

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

The students are required to attend at least 2/3rds of the classes (as required by the university).

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

テキスト	書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
	Headway	/ Oxford University Press /

#### 参考書

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

授業開講期間 夏集中

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 打田 委千弘

講義内容・テーマ

本講義は、これから経済学的な考え方を必要とする諸君を対象に、日本経済を素材として、現実の経済の仕組みと経済学の考え方を説明する。経済活動における変化を捉えるためには、各種データを利用する必要があり、これらに関する説明、経済学の理論的説明を随所に入れながら講義を進める予定である。経済学の分析道具を多数利用することは困難であるので、マクロ経済の現実を記述する国民所得体系の仕組み、及びマクロのI-Sバランスと需要・供給曲線の利用方法を説明した上で、第2次世界大戦以後の日本経済の変化を概説する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

内容は、日本経済の状況を説明することももちろんであるが、これらを素材として経済学の考え方や基本的な分析道具の解説も含むので、将来的に経済活動の様々な状況について興味をもっている諸君の参加を望む。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	どのような点の理解・達成度を問うのかを具体的に記述 / Expectations of students 基本的な日本の経済活動に関する知識及び、経済学的な思考ができていくかどうかで判断する。

講義スケジュール

内 容	キーワード
講義の説明：日本経済を理解するのに必要なマクロ経済変数	GNP、利子率、一般物価水準、名目賃金率、為替レートなど
1955年時点と現在の日本経済が世界経済に占める地位の変化	人口、国土面積など
1955年時点から現在までの日本経済概説	経済成長率、高度成長期、オイルショックなど
高度成長期の日本経済とマクロ経済のフレームワーク	貯蓄と投資、財政収支、貿易収支など
高度成長期の日本経済の特徴	活発な投資、財政均衡、国際収支の天井など
高度成長末期の日本経済の変化	失業率、公害問題など
ニクソン・ショックと第1次オイル・ショックの影響	ドルの金兌換停止、外貨準備高など
第1次オイル・ショックの直接的影響と間接的影響	投資意欲の減退、貯蓄率の上昇など
第1次オイル・ショック後の財政赤字拡大と民間企業の対応	原油輸入量、特例国債、建設国債など
第2次オイル・ショックの発生と国際資本移動の自由化	円の国際化、国債市場の形成など
対米貿易黒字の累積と円安	貿易収支、基礎収支など
プラザ合意の背景とその影響	債権国、政策協調など
円高不況と産業の空洞化	生産コストの上昇、企業の海外展開など
円高不況の脱出とバブル経済	地価、株価、金融政策
バブルの崩壊と失われた10年	金融危機、公的資金など

テキスト

松川周二・平田純一『経済学のエッセンス』中央経済社

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他



授業開講期間 夏集中

単位数 2

配当回生 1~8

担当教員 鈴木 寿志

講義内容・テーマ

地球が誕生して46億年になるという。このような年代がどのようにして記述されるのか、基本事項を説明し、その後で具体的な地球の歴史を振り返る。特に生命の誕生とその進化史に焦点を当て、我々の祖先がどのようにして生まれ、進化してきたのかを考える。また今日の地球環境問題を取り上げ、将来の地球について考える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

地球科学関連の他の授業を履修することが望ましいが、必要条件ではない。板書やOHP主体で説明するので、適時ノートをとること。またビデオ教材も併用する。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	50 %	
日常点 (小テスト)	50 %	

レポート50%: 講義期間の最後、もしくは講義期間後に地球の歴史や将来への課題についてまとめる。  
日常点50%: 時々ビデオ教材を用いるが、その内容についてまとめる。

講義スケジュール

内容	キーワード
1. 地層の積み重なりと地球の歴史との関わりについて解説する。層序学、地層累重の法則。	
2. 放射性同位体を用いた地質年代の決定法について説明する。放射年代。	
3. 原始地球の誕生からエディアカラ生物群の誕生までを説明する。先カンブリア時代。	
4. カンブリア紀の生物進化について解説する。進化の大爆発。	
5. 生物の陸上進出と地球環境との関わりについて考える。オゾン層の形成。	
6. 中生代の生態系について説明する。恐竜の出現と絶滅。	
7. 人類の進化過程について説明する。人類進化。	
8. 今日の地球環境問題について解説し、われわれの生活との関わりを考える。 地球温暖化、オゾン層破壊、廃棄物処理。	

テキスト

教科書は用いない。

参考書

授業中にそのつど紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

<http://www.d1.dion.ne.jp/~canoctum/index.htm>

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 生田 正幸

### 講義内容・テーマ

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

情報スキル判定のためのアンケートを実施し、その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義

ガイダンス:ID・PWの配布

Windows基本:ID/PWの利用の注意点、大学マシン利用の注意点、ログイン、文字入力、基本操作、タイピング

Windows実践、コースツール、インターネット :ファイル操作  
 実習、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと検索方法

インターネット :検索エンジンの利用法、検索実習、インターネット利用の注意点、PC基礎、インターネットについて

Webメール :送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、フォルダの作成、編集

Webメール :受信容量について、添付の方法について(圧縮・解凍)添付データの保存

学術情報 :RUNNERS、NACSIS Webcat

学術情報 :データベース検索、データ検索、データ検索レポート、

Word :基礎、簡単なビジネス文書、練習問題の作成

Word :表の作成練習、表入りの文書作成

Word :図入りの文書作成、図の挿入

Word :オートシェイプ機能の応用

Word :総合練習

最終講義日試験

### テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide2005』(総合情報センター)

### 参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

### その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 生田 正幸

### 講義内容・テーマ

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

情報スキル判定のためのアンケートを実施し、その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義

ガイダンス:ID・PWの配布

Windows基本:ID/PWの利用の注意点、大学マシン利用の注意点、ログイン、文字入力、基本操作、タイピング

Windows実践、コースツール、インターネット :ファイル操作実習、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと検索方法

インターネット :検索エンジンの利用法、検索実習、インターネット利用の注意点、PC基礎、インターネットについて

Webメール :送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、フォルダの作成、編集

Webメール :受信容量について、添付の方法について(圧縮・解凍)添付データの保存

学術情報 :RUNNERS、NACSIS Webcat

学術情報 :データベース検索、データ検索、データ検索レポート、

Word :基礎、簡単なビジネス文書、練習問題の作成

Word :表の作成練習、表入りの文書作成

Word :図入りの文書作成、図の挿入

Word :オートシェイプ機能の応用

Word :総合練習

最終講義日試験

### テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide2005』(総合情報センター)

### 参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

### その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 坂田 謙司

### 講義内容・テーマ

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

情報スキル判定のためのアンケートを実施し、その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

#### \* 日常点評価

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義

ガイダンス : ID・PWの配布

Windows基本 : ID/PWの利用の注意点、大学マシン利用の注意点、ログイン、文字入力、基本操作、タイピング

Windows実践、コースツール、インターネット : ファイル操作実習、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと検索方法

インターネット : 検索エンジンの利用法、検索実習、インターネット利用の注意点、PC基礎、インターネットについて

Webメール : 送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、フォルダの作成、編集

Webメール : 受信容量について、添付の方法について(圧縮・解凍)添付データの保存

学術情報 : RUNNERS、NACSIS Webcat

学術情報 : データベース検索、データ検索、データ検索レポート

Word : 基礎、簡単なビジネス文書、練習問題の作成

Word : 表の作成練習、表入りの文書作成

Word : 図入りの文書作成、図の挿入

Word : オートシェイプ機能の応用

Word : 総合練習

最終講義日試験

### テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide2005』(総合情報センター)

### 参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 坂田 謙司

### 講義内容・テーマ

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

情報スキル判定のためのアンケートを実施し、その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義

ガイダンス:ID・PWの配布

Windows基本:ID/PWの利用の注意点、大学マシン利用の注意点、ログイン、文字入力、基本操作、タイピング

Windows実践、コースツール、インターネット :ファイル操作実習、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと検索方法

インターネット :検索エンジンの利用法、検索実習、インターネット利用の注意点、PC基礎、インターネットについて

Webメール :送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、フォルダの作成、編集

Webメール :受信容量について、添付の方法について(圧縮・解凍)添付データの保存

学術情報 :RUNNERS、NACSIS Webcat

学術情報 :データベース検索、データ検索、データ検索レポート、

Word :基礎、簡単なビジネス文書、練習問題の作成

Word :表の作成練習、表入りの文書作成

Word :図入りの文書作成、図の挿入

Word :オートシェイプ機能の応用

Word :総合練習

最終講義日試験

### テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide2005』(総合情報センター)

### 参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

### その他



- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 黄 盛彬

### 講義内容・テーマ

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

情報スキル判定のためのアンケートを実施し、その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義

ガイダンス:ID・PWの配布

Windows基本:ID/PWの利用の注意点、大学マシン利用の注意点、ログイン、文字入力、基本操作、タイピング

Windows実践、コースツール、インターネット :ファイル操作実習、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと検索方法

インターネット :検索エンジンの利用法、検索実習、インターネット利用の注意点、PC基礎、インターネットについて

Webメール :送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、フォルダの作成、編集

Webメール :受信容量について、添付の方法について(圧縮・解凍)添付データの保存

学術情報 :RUNNERS、NACSIS Webcat

学術情報 :データベース検索、データ検索、データ検索レポート、

Word :基礎、簡単なビジネス文書、練習問題の作成

Word :表の作成練習、表入りの文書作成

Word :図入りの文書作成、図の挿入

Word :オートシェイプ機能の応用

Word :総合練習

最終講義日試験

### テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide2005』(総合情報センター)

### 参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

### その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 黄 盛彬

### 講義内容・テーマ

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

情報スキル判定のためのアンケートを実施し、その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

### 講義スケジュール

#### 内 容

#### キーワード

総括的導入講義

ガイダンス:ID・PWの配布

Windows基本:ID/PWの利用の注意点、大学マシン利用の注意点、ログイン、文字入力、基本操作、タイピング

Windows実践、コースツール、インターネット :ファイル操作実習、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと検索方法

インターネット :検索エンジンの利用法、検索実習、インターネット利用の注意点、PC基礎、インターネットについて

Webメール :送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、フォルダの作成、編集

Webメール :受信容量について、添付の方法について(圧縮・解凍)添付データの保存

学術情報 :RUNNERS、NACSIS Webcat

学術情報 :データベース検索、データ検索、データ検索レポート、

Word :基礎、簡単なビジネス文書、練習問題の作成

Word :表の作成練習、表入りの文書作成

Word :図入りの文書作成、図の挿入

Word :オートシェイプ機能の応用

Word :総合練習

最終講義日試験

### テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide2005』(総合情報センター)

### 参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

### その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 長澤 克重

### 講義内容・テーマ

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法（Windowsの操作、ワープロ、表計算）と情報ネットワーク（e-mail、インターネットWWW）の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

情報スキル判定のためのアンケートを実施し、その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点（小テスト）	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

2回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

### 講義スケジュール

内容	キーワード
----	-------

総括的導入講義

ガイダンス：ID・PWの配布

Windows基本：ID/PWの利用の注意点、大学マシン利用の注意点、ログイン、文字入力、基本操作、タイピング

Windows実践、コースツール、インターネット：ファイル操作実習、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと検索方法

インターネット：検索エンジンの利用法、検索実習、インターネット利用の注意点、PC基礎、インターネットについて

Webメール：送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、フォルダの作成、編集

Webメール：受信容量について、添付の方法について（圧縮・解凍）添付データの保存

学術情報：RUNNERS、NACSIS Webcat

学術情報：データベース検索、データ検索、データ検索レポート

Word：基礎、簡単なビジネス文書、練習問題の作成

Word：表の作成練習、表入りの文書作成

Word：図入りの文書作成、図の挿入

Word：オートシェイプ機能の応用

Word：総合練習

最終講義日試験

### テキスト

『Word2002テキスト』（富士通ラーニングメディア）

『Rainbow Guide2005』（総合情報センター）

### 参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

### 授業の方法（大学院科目のみ）

### 参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらおう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 長澤 克重

### 講義内容・テーマ

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

情報スキル判定のためのアンケートを実施し、その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義

ガイダンス:ID・PWの配布

Windows基本:ID/PWの利用の注意点、大学マシン利用の注意点、ログイン、文字入力、基本操作、タイピング

Windows実践、コースツール、インターネット :ファイル操作実習、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと検索方法

インターネット :検索エンジンの利用法、検索実習、インターネット利用の注意点、PC基礎、インターネットについて

Webメール :送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、フォルダの作成、編集

Webメール :受信容量について、添付の方法について(圧縮・解凍)添付データの保存

学術情報 :RUNNERS、NACSIS Webcat

学術情報 :データベース検索、データ検索、データ検索レポート、

Word :基礎、簡単なビジネス文書、練習問題の作成

Word :表の作成練習、表入りの文書作成

Word :図入りの文書作成、図の挿入

Word :オートシェイプ機能の応用

Word :総合練習

最終講義日試験

### テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide2005』(総合情報センター)

### 参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

### その他



- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 上出 浩

### 講義内容・テーマ

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

情報スキル判定のためのアンケートを実施し、その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

### 講義スケジュール

内容	キーワード
----	-------

総括的導入講義

ガイダンス : ID・PWの配布

Windows基本 : ID/PWの利用の注意点、大学マシン利用の注意点、ログイン、文字入力、基本操作、タイピング

Windows実践、コースツール、インターネット : ファイル操作実習、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと検索方法

インターネット : 検索エンジンの利用法、検索実習、インターネット利用の注意点、PC基礎、インターネットについて

Webメール : 送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、フォルダの作成、編集

Webメール : 受信容量について、添付の方法について(圧縮・解凍)添付データの保存

学術情報 : RUNNERS、NACSIS Webcat

学術情報 : データベース検索、データ検索、データ検索レポート

Word : 基礎、簡単なビジネス文書、練習問題の作成

Word : 表の作成練習、表入りの文書作成

Word : 図入りの文書作成、図の挿入

Word : オートシェイプ機能の応用

Word : 総合練習

最終講義日試験

### テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide2005』(総合情報センター)

### 参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらおう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 上出 浩

### 講義内容・テーマ

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

情報スキル判定のためのアンケートを実施し、その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

### 講義スケジュール

内容	キーワード
----	-------

総括的導入講義

ガイダンス : ID・PWの配布

Windows基本 : ID/PWの利用の注意点、大学マシン利用の注意点、ログイン、文字入力、基本操作、タイピング

Windows実践、コースツール、インターネット : ファイル操作実習、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと検索方法

インターネット : 検索エンジンの利用法、検索実習、インターネット利用の注意点、PC基礎、インターネットについて

Webメール : 送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、フォルダの作成、編集

Webメール : 受信容量について、添付の方法について(圧縮・解凍)添付データの保存

学術情報 : RUNNERS、NACSIS Webcat

学術情報 : データベース検索、データ検索、データ検索レポート

Word : 基礎、簡単なビジネス文書、練習問題の作成

Word : 表の作成練習、表入りの文書作成

Word : 図入りの文書作成、図の挿入

Word : オートシェイプ機能の応用

Word : 総合練習

最終講義日試験

### テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide2005』(総合情報センター)

### 参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらおう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 上出 浩

### 講義内容・テーマ

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

情報スキル判定のためのアンケートを実施し、その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

総括的導入講義

ガイダンス:ID・PWの配布

Windows基本:ID/PWの利用の注意点、大学マシン利用の注意点、ログイン、文字入力、基本操作、タイピング

Windows実践、コースツール、インターネット :ファイル操作実習、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと検索方法

インターネット :検索エンジンの利用法、検索実習、インターネット利用の注意点、PC基礎、インターネットについて

Webメール :送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、フォルダの作成、編集

Webメール :受信容量について、添付の方法について(圧縮・解凍)添付データの保存

学術情報 :RUNNERS、NACSIS Webcat

学術情報 :データベース検索、データ検索、データ検索レポート、

Word :基礎、簡単なビジネス文書、練習問題の作成

Word :表の作成練習、表入りの文書作成

Word :図入りの文書作成、図の挿入

Word :オートシェイプ機能の応用

Word :総合練習

最終講義日試験

### テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide2005』(総合情報センター)

### 参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

### その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 生田 正幸

### 講義内容・テーマ

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

情報スキル判定のためのアンケートを実施し、その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学修内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義	
ガイダンス:ID・PWの配布	
Windowsの基本:ID・PWの利用の注意点、大学マシン利用の注意点、ログイン、文字入力、基本操作、タイピング	コンピュータ基本操作
Windows 実践、コースツール、インターネット :ファイル操作実習、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと検索方法	ネットワーク利用
インターネット :検索エンジンの利用法、検索実習、インターネット利用の注意点、PC基礎、インターネットについて	ネットワーク利用
Webメール :送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、フォルダの作成、編集	電子メール利用
Webメール :受信容量について、添付の方法について(圧縮・解凍)添付データの保存	電子メール利用
学術情報 :RUNNERS,NACISIS Webcat	データベース使用
学術情報 :データベース検索、データ検索、データ検索レポート	データベース使用
Word :基礎、簡単なビジネス文書、練習問題の作成	ワープロソフト利用
Word :表の作成練習、表入りの文書作成	ワープロソフト利用
Word :図入りの文書作成、図の挿入	ワープロソフト利用
Word :オートシェイプ機能の応用	ワープロソフト利用
Word :総合練習	ワープロソフト利用
最終講義日試験	

テキスト	書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
	Word2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
	Rainbow Guide	/ 総合情報センター /

### 参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。



その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらおう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 生田 正幸

### 講義内容・テーマ

[初級]この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習し、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

[中級]この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

なお、初級・中級共に、専門講義として学科(学系)の学習に重要なWebサイト及びデータベースの紹介と利用方法の解説を1回行う。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初級クラスと中級クラスの学修内容は一部異なり、中級クラスはより高度な内容となっている。クラス所属については、前期に所属したクラスの継続を基本とするが、受講生の申し出により初級クラスと中級クラス間の所属クラス変更を時期を定めて認めることもある。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

### 講義スケジュール

内容	キーワード
【初級】 第1回 総括的導入講義	
第2回 人間福祉・専門講義 産業社会:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算	学科別専門講義
第3回 人間福祉:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算 産業社会:専門講義	学科別専門講義
第4回 Excel :表の編集、印刷、練習問題	表計算ソフト利用
第5回 Excel :表を自分で作成する、グラフ作成	表計算ソフト利用
第6回 Excel :グラフ作成、練習問題(グラフ)	表計算ソフト利用
第7回 Excel :データベース、総合練習	表計算ソフト利用
第8回 Excel :筆記、実技(Excel表計算、グラフ作成)	表計算ソフト利用
第9回 PowerPoint :プレゼン基礎知識、見本プレゼン、基本操作、プレゼン構成、スライド作成	プレゼンテーション
第10回 PowerPoint :スライド作成、プレゼンテーションの加工 (編集・オートライン機能)	プレゼンテーション
第11回 PowerPoint :プレゼンテーションの加工 (表の作成、グラフの作成、ワードアート、クリップアート、オートシェイプ、図表について)	プレゼンテーション
第12回 PowerPoint :プレゼンテーション (図表の練習)、スライドの配布資料の印刷、画面切替効果、アニメーション設定、自作作成	プレゼンテーション
第13回 PowerPiont :発表の技術、発表、データの提出	プレゼンテーション
第14回 HP作成:HP作成に必要な知識、HTML実習	ホームページ作成
第15回 最終講義日試験	
【中級】 第1回 総括的導入講義	
第2回 人間福祉・専門講義 産業社会:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算	学科別専門講義
第3回 人間福祉:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算 産業社会:専門講義	学科別専門講義
第4回 Excel :表の編集、印刷、練習問題	表計算ソフト利用
第5回 Excel :表を自分で作成する、グラフ作成	表計算ソフト利用
第6回 Excel :Wordとの連携	表計算ソフト利用
第7回 Excel :Wordとの連携、データベース、総合練習	表計算ソフト利用
第8回 Excel :筆記、実技(Excel表計算、グラフ作成)	表計算ソフト利用

第9回	PowerPoint : プレゼン基礎知識、見本プレゼン、基本操作、プレゼン構成、スライド作成	プレゼンテーション
第10回	PowerPoint : スライド作成の加工 (編集・アウトライン機能)	プレゼンテーション
第11回	PowerPoint : プレゼンテーションの加工 (表の作成、グラフの作成、ワードアート、クリップアート、オートシェイプ、図表について)	プレゼンテーション
第12回	PowerPoint : プレゼンテーション (図表の練習)、スライドの配布資料の印刷、画面切替効果、アニメーション設定、自主作成	プレゼンテーション
第13回	PowerPoint : 発表の技術、発表、データの提出	プレゼンテーション
第14回	HP作成: HP作成に必要な知識、HTML実習	ホームページ作成
第15回	最終講義日試験	

テキスト

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
Word2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
Excel2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
PowerPoint2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
Rainbow Guide	/ 総合情報センター /

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。 ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 生田 正幸

### 講義内容・テーマ

[初級]この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習し、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

[中級]この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

なお、初級・中級共に、専門講義として学科(学系)の学習に重要なWebサイト及びデータベースの紹介と利用方法の解説を1回行う。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初級クラスと中級クラスの学修内容は一部異なり、中級クラスはより高度な内容となっている。クラス所属については、前期に所属したクラスの継続を基本とするが、受講生の申し出により初級クラスと中級クラス間の所属クラス変更を時期を定めて認めることもある。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

### 講義スケジュール

内容	キーワード
【初級】第1回 総括的導入講義	
第2回 人間福祉・専門講義 産業社会:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算	学科別専門講義
第3回 人間福祉:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算 産業社会:専門講義	学科別専門講義
第4回 Excel :表の編集、印刷、練習問題	表計算ソフト利用
第5回 Excel :表を自分で作成する、グラフ作成	表計算ソフト利用
第6回 Excel :グラフ作成、練習問題(グラフ)	表計算ソフト利用
第7回 Excel :データベース、総合練習	表計算ソフト利用
第8回 Excel :筆記、実技(Excel表計算、グラフ作成)	表計算ソフト利用
第9回 PowerPoint :プレゼン基礎知識、見本プレゼン、基本操作、プレゼン構成、スライド作成	プレゼンテーション
第10回 PowerPoint :スライド作成、プレゼンテーションの加工(編集・オートライン機能)	プレゼンテーション
第11回 PowerPoint :プレゼンテーションの加工(表の作成、グラフの作成、ワードアート、クリップアート、オートシェイプ、図表について)	プレゼンテーション
第12回 PowerPoint :プレゼンテーション(図表の練習)、スライドの配布資料の印刷、画面切替効果、アニメーション設定、自作作成	プレゼンテーション
第13回 PowerPiont :発表の技術、発表、データの提出	プレゼンテーション
第14回 HP作成:HP作成に必要な知識、HTML実習	ホームページ作成
第15回 最終講義日試験	
【中級】第1回 総括的導入講義	
第2回 人間福祉・専門講義 産業社会:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算	学科別専門講義
第3回 人間福祉:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算 産業社会:専門講義	学科別専門講義
第4回 Excel :表の編集、印刷、練習問題	表計算ソフト利用
第5回 Excel :表を自分で作成する、グラフ作成	表計算ソフト利用
第6回 Excel :Wordとの連携	表計算ソフト利用
第7回 Excel :Wordとの連携、データベース、総合練習	表計算ソフト利用
第8回 Excel :筆記、実技(Excel表計算、グラフ作成)	表計算ソフト利用

第9回	PowerPoint : プレゼン基礎知識、見本プレゼン、基本操作、プレゼン構成、スライド作成	プレゼンテーション
第10回	PowerPoint : スライド作成の加工 (編集・アウトライン機能)	プレゼンテーション
第11回	PowerPoint : プレゼンテーションの加工 (表の作成、グラフの作成、ワードアート、クリップアート、オートシェイプ、図表について)	プレゼンテーション
第12回	PowerPoint : プレゼンテーション (図表の練習)、スライドの配布資料の印刷、画面切替効果、アニメーション設定、自主作成	プレゼンテーション
第13回	PowerPoint : 発表の技術、発表、データの提出	プレゼンテーション
第14回	HP作成: HP作成に必要な知識、HTML実習	ホームページ作成
第15回	最終講義日試験	

## テキスト

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
Word2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
Excel2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
PowerPoint2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
Rainbow Guide	/ 総合情報センター /

## 参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

## 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

## その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。 ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 坂田 謙司

### 講義内容・テーマ

[初級]この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習し、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

[中級]この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

なお、初級・中級共に、専門講義として学科(学系)の学習に重要なWebサイト及びデータベースの紹介と利用方法の解説を1回行う。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初級クラスと中級クラスの学修内容は一部異なり、中級クラスはより高度な内容となっている。クラス所属については、前期に所属したクラスの継続を基本とするが、受講生の申し出により初級クラスと中級クラス間の所属クラス変更を時期を定めて認めることもある。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

### 講義スケジュール

内容	キーワード
【初級】第1回 総括的導入講義	
第2回 人間福祉・専門講義 産業社会:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算	学科別専門講義
第3回 人間福祉:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算 産業社会:専門講義	学科別専門講義
第4回 Excel :表の編集、印刷、練習問題	表計算ソフト利用
第5回 Excel :表を自分で作成する、グラフ作成	表計算ソフト利用
第6回 Excel :グラフ作成、練習問題(グラフ)	表計算ソフト利用
第7回 Excel :データベース、総合練習	表計算ソフト利用
第8回 Excel :筆記、実技(Excel表計算、グラフ作成)	表計算ソフト利用
第9回 PowerPoint :プレゼン基礎知識、見本プレゼン、基本操作、プレゼン構成、スライド作成	プレゼンテーション
第10回 PowerPoint :スライド作成、プレゼンテーションの加工(編集・アウトライン機能)	プレゼンテーション
第11回 PowerPoint :プレゼンテーションの加工(表の作成、グラフの作成、ワードアート、クリップアート、オートシェイプ、図表について)	プレゼンテーション
第12回 PowerPoint :プレゼンテーション(図表の練習)、スライドの配布資料の印刷、画面切替効果、アニメーション設定、自作作成	プレゼンテーション
第13回 PowerPiont :発表の技術、発表、データの提出	プレゼンテーション
第14回 HP作成:HP作成に必要な知識、HTML実習	ホームページ作成
第15回 最終講義日試験	
【中級】第1回 総括的導入講義	
第2回 人間福祉・専門講義 産業社会:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算	学科別専門講義
第3回 人間福祉:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算 産業社会:専門講義	学科別専門講義
第4回 Excel :表の編集、印刷、練習問題	表計算ソフト利用
第5回 Excel :表を自分で作成する、グラフ作成	表計算ソフト利用
第6回 Excel :Wordとの連携	表計算ソフト利用
第7回 Excel :Wordとの連携、データベース、総合練習	表計算ソフト利用
第8回 Excel :筆記、実技(Excel表計算、グラフ作成)	表計算ソフト利用

第9回	PowerPoint : プレゼン基礎知識、見本プレゼン、基本操作、プレゼン構成、スライド作成	プレゼンテーション
第10回	PowerPoint : スライド作成の加工 (編集・アウトライン機能)	プレゼンテーション
第11回	PowerPoint : プレゼンテーションの加工 (表の作成、グラフの作成、ワードアート、クリップアート、オートシェイプ、図表について)	プレゼンテーション
第12回	PowerPoint : プレゼンテーション (図表の練習)、スライドの配布資料の印刷、画面切替効果、アニメーション設定、自主作成	プレゼンテーション
第13回	PowerPoint : 発表の技術、発表、データの提出	プレゼンテーション
第14回	HP作成: HP作成に必要な知識、HTML実習	ホームページ作成
第15回	最終講義日試験	

## テキスト

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
Word2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
Excel2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
PowerPoint2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
Rainbow Guide	/ 総合情報センター /

## 参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

## 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

## その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。 ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 坂田 謙司

### 講義内容・テーマ

[初級]この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習し、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

[中級]この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

なお、初級・中級共に、専門講義として学科(学系)の学習に重要なWebサイト及びデータベースの紹介と利用方法の解説を1回行う。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初級クラスと中級クラスの学修内容は一部異なり、中級クラスはより高度な内容となっている。クラス所属については、前期に所属したクラスの継続を基本とするが、受講生の申し出により初級クラスと中級クラス間の所属クラス変更を時期を定めて認めることもある。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

### 講義スケジュール

内容	キーワード
【初級】第1回 総括的導入講義	
第2回 人間福祉・専門講義 産業社会:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算	学科別専門講義
第3回 人間福祉:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算 産業社会:専門講義	学科別専門講義
第4回 Excel :表の編集、印刷、練習問題	表計算ソフト利用
第5回 Excel :表を自分で作成する、グラフ作成	表計算ソフト利用
第6回 Excel :グラフ作成、練習問題(グラフ)	表計算ソフト利用
第7回 Excel :データベース、総合練習	表計算ソフト利用
第8回 Excel :筆記、実技(Excel表計算、グラフ作成)	表計算ソフト利用
第9回 PowerPoint :プレゼン基礎知識、見本プレゼン、基本操作、プレゼン構成、スライド作成	プレゼンテーション
第10回 PowerPoint :スライド作成、プレゼンテーションの加工(編集・オートライン機能)	プレゼンテーション
第11回 PowerPoint :プレゼンテーションの加工(表の作成、グラフの作成、ワードアート、クリップアート、オートシェイプ、図表について)	プレゼンテーション
第12回 PowerPoint :プレゼンテーション(図表の練習)、スライドの配布資料の印刷、画面切替効果、アニメーション設定、自作作成	プレゼンテーション
第13回 PowerPionnt :発表の技術、発表、データの提出	プレゼンテーション
第14回 HP作成:HP作成に必要な知識、HTML実習	ホームページ作成
第15回 最終講義日試験	
【中級】第1回 総括的導入講義	
第2回 人間福祉・専門講義 産業社会:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算	学科別専門講義
第3回 人間福祉:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算 産業社会:専門講義	学科別専門講義
第4回 Excel :表の編集、印刷、練習問題	表計算ソフト利用
第5回 Excel :表を自分で作成する、グラフ作成	表計算ソフト利用
第6回 Excel :Wordとの連携	表計算ソフト利用
第7回 Excel :Wordとの連携、データベース、総合練習	表計算ソフト利用
第8回 Excel :筆記、実技(Excel表計算、グラフ作成)	表計算ソフト利用



第9回	PowerPoint : プレゼン基礎知識、見本プレゼン、基本操作、プレゼン構成、スライド作成	プレゼンテーション
第10回	PowerPoint : スライド作成の加工 (編集・アウトライン機能)	プレゼンテーション
第11回	PowerPoint : プレゼンテーションの加工 (表の作成、グラフの作成、ワードアート、クリップアート、オートシェイプ、図表について)	プレゼンテーション
第12回	PowerPoint : プレゼンテーション (図表の練習)、スライドの配布資料の印刷、画面切替効果、アニメーション設定、自主作成	プレゼンテーション
第13回	PowerPoint : 発表の技術、発表、データの提出	プレゼンテーション
第14回	HP作成: HP作成に必要な知識、HTML実習	ホームページ作成
第15回	最終講義日試験	

**テキスト**

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
Word2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
Excel2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
PowerPoint2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
Rainbow Guide	/ 総合情報センター /

**参考書**

必要に応じて授業中に紹介する。

**授業の方法(大学院科目のみ)****参考になるWWWページ**

必要に応じて授業中に紹介する。

**その他**

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。 ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす

授業開講期間	後期	単位数	2	配当回生	時間割等参照
担当教員	黄 盛彬				

### 講義内容・テーマ

[初級]この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習し、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

[中級]この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

なお、初級・中級共に、専門講義として学科(学系)の学習に重要なWebサイト及びデータベースの紹介と利用方法の解説を1回行う。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初級クラスと中級クラスの学修内容は一部異なり、中級クラスはより高度な内容となっている。クラス所属については、前期に所属したクラスの継続を基本とするが、受講生の申し出により初級クラスと中級クラス間の所属クラス変更を時期を定めて認めることもある。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
【初級】 第1回 総括的導入講義	
第2回 人間福祉・専門講義 産業社会:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算	学科別専門講義
第3回 人間福祉:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算 産業社会:専門講義	学科別専門講義
第4回 Excel :表の編集、印刷、練習問題	表計算ソフト利用
第5回 Excel :表を自分で作成する、グラフ作成	表計算ソフト利用
第6回 Excel :グラフ作成、練習問題(グラフ)	表計算ソフト利用
第7回 Excel :データベース、総合練習	表計算ソフト利用
第8回 Excel :筆記、実技(Excel表計算、グラフ作成)	表計算ソフト利用
第9回 PowerPoint :プレゼン基礎知識、見本プレゼン、基本操作、プレゼン構成、スライド作成	プレゼンテーション
第10回 PowerPoint :スライド作成、プレゼンテーションの加工 (編集・オートライン機能)	プレゼンテーション
第11回 PowerPoint :プレゼンテーションの加工 (表の作成、グラフの作成、ワードアート、クリップアート、オートシェイプ、図表について)	プレゼンテーション
第12回 PowerPoint :プレゼンテーション (図表の練習)、スライドの配布資料の印刷、画面切替効果、アニメーション設定、自作作成	プレゼンテーション
第13回 PowerPiont :発表の技術、発表、データの提出	プレゼンテーション
第14回 HP作成:HP作成に必要な知識、HTML実習	ホームページ作成
第15回 最終講義日試験	
【中級】 第1回 総括的導入講義	
第2回 人間福祉・専門講義 産業社会:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算	学科別専門講義
第3回 人間福祉:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算 産業社会:専門講義	学科別専門講義
第4回 Excel :表の編集、印刷、練習問題	表計算ソフト利用
第5回 Excel :表を自分で作成する、グラフ作成	表計算ソフト利用
第6回 Excel :Wordとの連携	表計算ソフト利用
第7回 Excel :Wordとの連携、データベース、総合練習	表計算ソフト利用
第8回 Excel :筆記、実技(Excel表計算、グラフ作成)	表計算ソフト利用

第9回	PowerPoint : プレゼン基礎知識、見本プレゼン、基本操作、プレゼン構成、スライド作成	プレゼンテーション
第10回	PowerPoint : スライド作成 の加工 (編集・アウトライン機能)	プレゼンテーション
第11回	PowerPoint : プレゼンテーションの加工 (表の作成、グラフの作成、ワードアート、クリップアート、オートシェイプ、図表について)	プレゼンテーション
第12回	PowerPoint : プレゼンテーション (図表の練習)、スライドの配布資料の印刷、画面切替効果、アニメーション設定、自主作成	プレゼンテーション
第13回	PowerPoint : 発表の技術、発表、データの提出	プレゼンテーション
第14回	HP作成: HP作成に必要な知識、HTML実習	ホームページ作成
第15回	最終講義日試験	

## テキスト

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
Word2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
Excel2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
PowerPoint2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
Rainbow Guide	/ 総合情報センター /

## 参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

## 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

## その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。 ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす

授業開講期間	後期	単位数	2	配当回生	時間割等参照
担当教員	黄 盛彬				

### 講義内容・テーマ

[初級]この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習し、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

[中級]この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

なお、初級・中級共に、専門講義として学科(学系)の学習に重要なWebサイト及びデータベースの紹介と利用方法の解説を1回行う。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初級クラスと中級クラスの学修内容は一部異なり、中級クラスはより高度な内容となっている。クラス所属については、前期に所属したクラスの継続を基本とするが、受講生の申し出により初級クラスと中級クラス間の所属クラス変更を時期を定めて認めることもある。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
【初級】 第1回 総括的導入講義	
第2回 人間福祉・専門講義 産業社会:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算	学科別専門講義
第3回 人間福祉:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算 産業社会:専門講義	学科別専門講義
第4回 Excel :表の編集、印刷、練習問題	表計算ソフト利用
第5回 Excel :表を自分で作成する、グラフ作成	表計算ソフト利用
第6回 Excel :グラフ作成、練習問題(グラフ)	表計算ソフト利用
第7回 Excel :データベース、総合練習	表計算ソフト利用
第8回 Excel :筆記、実技(Excel表計算、グラフ作成)	表計算ソフト利用
第9回 PowerPoint :プレゼン基礎知識、見本プレゼン、基本操作、プレゼン構成、スライド作成	プレゼンテーション
第10回 PowerPoint :スライド作成、プレゼンテーションの加工 (編集・オートライン機能)	プレゼンテーション
第11回 PowerPoint :プレゼンテーションの加工 (表の作成、グラフの作成、ワードアート、クリップアート、オートシェイプ、図表について)	プレゼンテーション
第12回 PowerPoint :プレゼンテーション (図表の練習)、スライドの配布資料の印刷、画面切替効果、アニメーション設定、自作作成	プレゼンテーション
第13回 PowerPiont :発表の技術、発表、データの提出	プレゼンテーション
第14回 HP作成:HP作成に必要な知識、HTML実習	ホームページ作成
第15回 最終講義日試験	
【中級】 第1回 総括的導入講義	
第2回 人間福祉・専門講義 産業社会:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算	学科別専門講義
第3回 人間福祉:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算 産業社会:専門講義	学科別専門講義
第4回 Excel :表の編集、印刷、練習問題	表計算ソフト利用
第5回 Excel :表を自分で作成する、グラフ作成	表計算ソフト利用
第6回 Excel :Wordとの連携	表計算ソフト利用
第7回 Excel :Wordとの連携、データベース、総合練習	表計算ソフト利用
第8回 Excel :筆記、実技(Excel表計算、グラフ作成)	表計算ソフト利用

第9回	PowerPoint : プレゼン基礎知識、見本プレゼン、基本操作、プレゼン構成、スライド作成	プレゼンテーション
第10回	PowerPoint : スライド作成の加工 (編集・アウトライン機能)	プレゼンテーション
第11回	PowerPoint : プレゼンテーションの加工 (表の作成、グラフの作成、ワードアート、クリップアート、オートシェイプ、図表について)	プレゼンテーション
第12回	PowerPoint : プレゼンテーション (図表の練習)、スライドの配布資料の印刷、画面切替効果、アニメーション設定、自主作成	プレゼンテーション
第13回	PowerPoint : 発表の技術、発表、データの提出	プレゼンテーション
第14回	HP作成: HP作成に必要な知識、HTML実習	ホームページ作成
第15回	最終講義日試験	

## テキスト

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
Word2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
Excel2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
PowerPoint2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
Rainbow Guide	/ 総合情報センター /

## 参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

## 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

## その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。 ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 長澤 克重

### 講義内容・テーマ

[初級]この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習し、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

[中級]この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

なお、初級・中級共に、専門講義として学科(学系)の学習に重要なWebサイト及びデータベースの紹介と利用方法の解説を1回行う。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初級クラスと中級クラスの学修内容は一部異なり、中級クラスはより高度な内容となっている。クラス所属については、前期に所属したクラスの継続を基本とするが、受講生の申し出により初級クラスと中級クラス間の所属クラス変更を時期を定めて認めることもある。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

### 講義スケジュール

内容	キーワード
【初級】第1回 総括的導入講義	
第2回 人間福祉・専門講義 産業社会:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算	学科別専門講義
第3回 人間福祉:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算 産業社会:専門講義	学科別専門講義
第4回 Excel :表の編集、印刷、練習問題	表計算ソフト利用
第5回 Excel :表を自分で作成する、グラフ作成	表計算ソフト利用
第6回 Excel :グラフ作成、練習問題(グラフ)	表計算ソフト利用
第7回 Excel :データベース、総合練習	表計算ソフト利用
第8回 Excel :筆記、実技(Excel表計算、グラフ作成)	表計算ソフト利用
第9回 PowerPoint :プレゼン基礎知識、見本プレゼン、基本操作、プレゼン構成、スライド作成	プレゼンテーション
第10回 PowerPoint :スライド作成、プレゼンテーションの加工(編集・オートライン機能)	プレゼンテーション
第11回 PowerPoint :プレゼンテーションの加工(表の作成、グラフの作成、ワードアート、クリップアート、オートシェイプ、図表について)	プレゼンテーション
第12回 PowerPoint :プレゼンテーション(図表の練習)、スライドの配布資料の印刷、画面切替効果、アニメーション設定、自作作成	プレゼンテーション
第13回 PowerPiont :発表の技術、発表、データの提出	プレゼンテーション
第14回 HP作成:HP作成に必要な知識、HTML実習	ホームページ作成
第15回 最終講義日試験	
【中級】第1回 総括的導入講義	
第2回 人間福祉・専門講義 産業社会:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算	学科別専門講義
第3回 人間福祉:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算 産業社会:専門講義	学科別専門講義
第4回 Excel :表の編集、印刷、練習問題	表計算ソフト利用
第5回 Excel :表を自分で作成する、グラフ作成	表計算ソフト利用
第6回 Excel :Wordとの連携	表計算ソフト利用
第7回 Excel :Wordとの連携、データベース、総合練習	表計算ソフト利用
第8回 Excel :筆記、実技(Excel表計算、グラフ作成)	表計算ソフト利用

第9回	PowerPoint : プレゼン基礎知識、見本プレゼン、基本操作、プレゼン構成、スライド作成	プレゼンテーション
第10回	PowerPoint : スライド作成の加工 (編集・アウトライン機能)	プレゼンテーション
第11回	PowerPoint : プレゼンテーションの加工 (表の作成、グラフの作成、ワードアート、クリップアート、オートシェイプ、図表について)	プレゼンテーション
第12回	PowerPoint : プレゼンテーション (図表の練習)、スライドの配布資料の印刷、画面切替効果、アニメーション設定、自主作成	プレゼンテーション
第13回	PowerPoint : 発表の技術、発表、データの提出	プレゼンテーション
第14回	HP作成: HP作成に必要な知識、HTML実習	ホームページ作成
第15回	最終講義日試験	

テキスト

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
Word2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
Excel2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
PowerPoint2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
Rainbow Guide	/ 総合情報センター /

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。 ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 長澤 克重

### 講義内容・テーマ

[初級]この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習し、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

[中級]この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

なお、初級・中級共に、専門講義として学科(学系)の学習に重要なWebサイト及びデータベースの紹介と利用方法の解説を1回行う。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初級クラスと中級クラスの学修内容は一部異なり、中級クラスはより高度な内容となっている。クラス所属については、前期に所属したクラスの継続を基本とするが、受講生の申し出により初級クラスと中級クラス間の所属クラス変更を時期を定めて認めることもある。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

### 講義スケジュール

内容	キーワード
[初級] 第1回 総括的導入講義	
第2回 人間福祉:専門講義 産業社会:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算	学科別専門講義
第3回 人間福祉:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算 産業社会:専門講義	学科別専門講義
第4回 Excel :表の編集、印刷、練習問題	表計算ソフト利用
第5回 Excel :表を自分で作成する、グラフ作成	表計算ソフト利用
第6回 Excel :グラフ作成、練習問題(グラフ)	表計算ソフト利用
第7回 Excel :データベース、総合練習	表計算ソフト利用
第8回 Excel :筆記、実技(Excel表計算、グラフ作成)	表計算ソフト利用
第9回 PowerPoint :プレゼン基礎知識、見本プレゼン、基本操作、プレゼン構成、スライド作成	プレゼンテーション
第10回 PowerPoint :スライド作成、プレゼンテーションの加工(編集・アウトライン機能)	プレゼンテーション
第11回 PowerPoint :プレゼンテーションの加工(表の作成、グラフの作成、ワードアート、クリップアート、オートシェイプ、図表について)	プレゼンテーション
第12回 PowerPoint :プレゼンテーション(図表の練習)、スライドの配布資料の印刷、画面切替効果、アニメーション設定、自作作成	プレゼンテーション
第13回 PowerPiont :発表の技術、発表、データの提出	プレゼンテーション
第14回 HP作成:HP作成に必要な知識、HTML実習	ホームページ作成
第15回 最終講義日試験	
[中級] 第1回 総括的導入講義	
第2回 人間福祉:専門講義 産業社会:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算	学科別専門講義
第3回 人間福祉:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算 産業社会:専門講義	学科別専門講義
第4回 Excel :表の編集、印刷、練習問題	表計算ソフト利用
第5回 Excel :表を自分で作成する、グラフ作成	表計算ソフト利用
第6回 Excel :Wordとの連携	表計算ソフト利用
第7回 Excel :Wordとの連携、データベース、総合練習	表計算ソフト利用
第8回 Excel :筆記、実技(Excel表計算、グラフ作成)	表計算ソフト利用



第9回	PowerPoint : プレゼン基礎知識、見本プレゼン、基本操作、プレゼン構成、スライド作成	プレゼンテーション
第10回	PowerPoint : スライド作成の加工 (編集・アウトライン機能)	プレゼンテーション
第11回	PowerPoint : プレゼンテーションの加工 (表の作成、グラフの作成、ワードアート、クリップアート、オートシェイプ、図表について)	プレゼンテーション
第12回	PowerPoint : プレゼンテーション (図表の練習)、スライドの配布資料の印刷、画面切替効果、アニメーション設定、自主作成	プレゼンテーション
第13回	PowerPoint : 発表の技術、発表、データの提出	プレゼンテーション
第14回	HP作成: HP作成に必要な知識、HTML実習	ホームページ作成
第15回	最終講義日試験	

## テキスト

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
Word2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
Excel2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
PowerPoint2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
Rainbow Guide	/ 総合情報センター /

## 参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

## 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

## その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。 授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす

授業開講期間	後期	単位数	2	配当回生	時間割等参照
担当教員	上出 浩				

### 講義内容・テーマ

[初級]この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習し、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

[中級]この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

なお、初級・中級共に、専門講義として学科(学系)の学習に重要なWebサイト及びデータベースの紹介と利用方法の解説を1回行う。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初級クラスと中級クラスの学修内容は一部異なり、中級クラスはより高度な内容となっている。クラス所属については、前期に所属したクラスの継続を基本とするが、受講生の申し出により初級クラスと中級クラス間の所属クラス変更を時期を定めて認めることもある。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
【初級】 第1回 総括的導入講義	
第2回 人間福祉・専門講義 産業社会:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算	学科別専門講義
第3回 人間福祉:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算 産業社会:専門講義	学科別専門講義
第4回 Excel :表の編集、印刷、練習問題	表計算ソフト利用
第5回 Excel :表を自分で作成する、グラフ作成	表計算ソフト利用
第6回 Excel :グラフ作成、練習問題(グラフ)	表計算ソフト利用
第7回 Excel :データベース、総合練習	表計算ソフト利用
第8回 Excel :筆記、実技(Excel表計算、グラフ作成)	表計算ソフト利用
第9回 PowerPoint :プレゼン基礎知識、見本プレゼン、基本操作、プレゼン構成、スライド作成	プレゼンテーション
第10回 PowerPoint :スライド作成、プレゼンテーションの加工 (編集・オートライン機能)	プレゼンテーション
第11回 PowerPoint :プレゼンテーションの加工 (表の作成、グラフの作成、ワードアート、クリップアート、オートシェイプ、図表について)	プレゼンテーション
第12回 PowerPoint :プレゼンテーション (図表の練習)、スライドの配布資料の印刷、画面切替効果、アニメーション設定、自作作成	プレゼンテーション
第13回 PowerPiont :発表の技術、発表、データの提出	プレゼンテーション
第14回 HP作成:HP作成に必要な知識、HTML実習	ホームページ作成
第15回 最終講義日試験	
【中級】 第1回 総括的導入講義	
第2回 人間福祉・専門講義 産業社会:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算	学科別専門講義
第3回 人間福祉:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算 産業社会:専門講義	学科別専門講義
第4回 Excel :表の編集、印刷、練習問題	表計算ソフト利用
第5回 Excel :表を自分で作成する、グラフ作成	表計算ソフト利用
第6回 Excel :Wordとの連携	表計算ソフト利用
第7回 Excel :Wordとの連携、データベース、総合練習	表計算ソフト利用
第8回 Excel :筆記、実技(Excel表計算、グラフ作成)	表計算ソフト利用

第9回	PowerPoint : プレゼン基礎知識、見本プレゼン、基本操作、プレゼン構成、スライド作成	プレゼンテーション
第10回	PowerPoint : スライド作成の加工 (編集・アウトライン機能)	プレゼンテーション
第11回	PowerPoint : プレゼンテーションの加工 (表の作成、グラフの作成、ワードアート、クリップアート、オートシェイプ、図表について)	プレゼンテーション
第12回	PowerPoint : プレゼンテーション (図表の練習)、スライドの配布資料の印刷、画面切替効果、アニメーション設定、自主作成	プレゼンテーション
第13回	PowerPoint : 発表の技術、発表、データの提出	プレゼンテーション
第14回	HP作成: HP作成に必要な知識、HTML実習	ホームページ作成
第15回	最終講義日試験	

テキスト

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
Word2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
Excel2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
PowerPoint2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
Rainbow Guide	/ 総合情報センター /

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。 ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす

授業開講期間	後期	単位数	2	配当回生	時間割等参照
担当教員	上出 浩				

### 講義内容・テーマ

[初級]この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習し、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

[中級]この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

なお、初級・中級共に、専門講義として学科(学系)の学習に重要なWebサイト及びデータベースの紹介と利用方法の解説を1回行う。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初級クラスと中級クラスの学修内容は一部異なり、中級クラスはより高度な内容となっている。クラス所属については、前期に所属したクラスの継続を基本とするが、受講生の申し出により初級クラスと中級クラス間の所属クラス変更を時期を定めて認めることもある。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
【初級】 第1回 総括的導入講義	
第2回 人間福祉・専門講義 産業社会:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算	学科別専門講義
第3回 人間福祉:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算 産業社会:専門講義	学科別専門講義
第4回 Excel :表の編集、印刷、練習問題	表計算ソフト利用
第5回 Excel :表を自分で作成する、グラフ作成	表計算ソフト利用
第6回 Excel :グラフ作成、練習問題(グラフ)	表計算ソフト利用
第7回 Excel :データベース、総合練習	表計算ソフト利用
第8回 Excel :筆記、実技(Excel表計算、グラフ作成)	表計算ソフト利用
第9回 PowerPoint :プレゼン基礎知識、見本プレゼン、基本操作、プレゼン構成、スライド作成	プレゼンテーション
第10回 PowerPoint :スライド作成、プレゼンテーションの加工 (編集・オートライン機能)	プレゼンテーション
第11回 PowerPoint :プレゼンテーションの加工 (表の作成、グラフの作成、ワードアート、クリップアート、オートシェイプ、図表について)	プレゼンテーション
第12回 PowerPoint :プレゼンテーション (図表の練習)、スライドの配布資料の印刷、画面切替効果、アニメーション設定、自作作成	プレゼンテーション
第13回 PowerPiont :発表の技術、発表、データの提出	プレゼンテーション
第14回 HP作成:HP作成に必要な知識、HTML実習	ホームページ作成
第15回 最終講義日試験	
【中級】 第1回 総括的導入講義	
第2回 人間福祉・専門講義 産業社会:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算	学科別専門講義
第3回 人間福祉:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算 産業社会:専門講義	学科別専門講義
第4回 Excel :表の編集、印刷、練習問題	表計算ソフト利用
第5回 Excel :表を自分で作成する、グラフ作成	表計算ソフト利用
第6回 Excel :Wordとの連携	表計算ソフト利用
第7回 Excel :Wordとの連携、データベース、総合練習	表計算ソフト利用
第8回 Excel :筆記、実技(Excel表計算、グラフ作成)	表計算ソフト利用

第9回	PowerPoint : プレゼン基礎知識、見本プレゼン、基本操作、プレゼン構成、スライド作成	プレゼンテーション
第10回	PowerPoint : スライド作成の加工 (編集・アウトライン機能)	プレゼンテーション
第11回	PowerPoint : プレゼンテーションの加工 (表の作成、グラフの作成、ワードアート、クリップアート、オートシェイプ、図表について)	プレゼンテーション
第12回	PowerPoint : プレゼンテーション (図表の練習)、スライドの配布資料の印刷、画面切替効果、アニメーション設定、自主作成	プレゼンテーション
第13回	PowerPoint : 発表の技術、発表、データの提出	プレゼンテーション
第14回	HP作成: HP作成に必要な知識、HTML実習	ホームページ作成
第15回	最終講義日試験	

テキスト

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
Word2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
Excel2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
PowerPoint2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
Rainbow Guide	/ 総合情報センター /

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。 授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす

授業開講期間	後期	単位数	2	配当回生	時間割等参照
担当教員	上出 浩				

### 講義内容・テーマ

[初級]この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習し、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

[中級]この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

なお、初級・中級共に、専門講義として学科(学系)の学習に重要なWebサイト及びデータベースの紹介と利用方法の解説を1回行う。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初級クラスと中級クラスの学修内容は一部異なり、中級クラスはより高度な内容となっている。クラス所属については、前期に所属したクラスの継続を基本とするが、受講生の申し出により初級クラスと中級クラス間の所属クラス変更を時期を定めて認めることもある。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
【初級】 第1回 総括的導入講義	
第2回 人間福祉・専門講義 産業社会:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算	学科別専門講義
第3回 人間福祉:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算 産業社会:専門講義	学科別専門講義
第4回 Excel :表の編集、印刷、練習問題	表計算ソフト利用
第5回 Excel :表を自分で作成する、グラフ作成	表計算ソフト利用
第6回 Excel :グラフ作成、練習問題(グラフ)	表計算ソフト利用
第7回 Excel :データベース、総合練習	表計算ソフト利用
第8回 Excel :筆記、実技(Excel表計算、グラフ作成)	表計算ソフト利用
第9回 PowerPoint :プレゼン基礎知識、見本プレゼン、基本操作、プレゼン構成、スライド作成	プレゼンテーション
第10回 PowerPoint :スライド作成、プレゼンテーションの加工 (編集・オートライン機能)	プレゼンテーション
第11回 PowerPoint :プレゼンテーションの加工 (表の作成、グラフの作成、ワードアート、クリップアート、オートシェイプ、図表について)	プレゼンテーション
第12回 PowerPoint :プレゼンテーション (図表の練習)、スライドの配布資料の印刷、画面切替効果、アニメーション設定、自作作成	プレゼンテーション
第13回 PowerPiont :発表の技術、発表、データの提出	プレゼンテーション
第14回 HP作成:HP作成に必要な知識、HTML実習	ホームページ作成
第15回 最終講義日試験	
【中級】 第1回 総括的導入講義	
第2回 人間福祉・専門講義 産業社会:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算	学科別専門講義
第3回 人間福祉:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算 産業社会:専門講義	学科別専門講義
第4回 Excel :表の編集、印刷、練習問題	表計算ソフト利用
第5回 Excel :表を自分で作成する、グラフ作成	表計算ソフト利用
第6回 Excel :Wordとの連携	表計算ソフト利用
第7回 Excel :Wordとの連携、データベース、総合練習	表計算ソフト利用
第8回 Excel :筆記、実技(Excel表計算、グラフ作成)	表計算ソフト利用

第9回	PowerPoint : プレゼン基礎知識、見本プレゼン、基本操作、プレゼン構成、スライド作成	プレゼンテーション
第10回	PowerPoint : スライド作成の加工 (編集・アウトライン機能)	プレゼンテーション
第11回	PowerPoint : プレゼンテーションの加工 (表の作成、グラフの作成、ワードアート、クリップアート、オートシェイプ、図表について)	プレゼンテーション
第12回	PowerPoint : プレゼンテーション (図表の練習)、スライドの配布資料の印刷、画面切替効果、アニメーション設定、自主作成	プレゼンテーション
第13回	PowerPoint : 発表の技術、発表、データの提出	プレゼンテーション
第14回	HP作成: HP作成に必要な知識、HTML実習	ホームページ作成
第15回	最終講義日試験	

テキスト

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
Word2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
Excel2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
PowerPoint2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
Rainbow Guide	/ 総合情報センター /

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。 授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 生田 正幸

### 講義内容・テーマ

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

情報スキル判定のためのアンケートを実施し、その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学修内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義	
ガイダンス:ID・PWの配布	
Windowsの基本:ID・PWの利用の注意点、大学マシン利用の注意点、ログイン、文字入力、基本操作、タイピング	コンピュータ基本操作
Windows 実践、コースツール、インターネット :ファイル操作実習、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと検索方法	ネットワーク利用
インターネット :検索エンジンの利用法、検索実習、インターネット利用の注意点、PC基礎、インターネットについて	ネットワーク利用
Webメール :送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、フォルダの作成、編集	電子メール利用
Webメール :受信容量について、添付の方法について(圧縮・解凍)添付データの保存	電子メール利用
学術情報 :RUNNERS,NACISIS Webcatメール :受信容量について、添付の方法について(圧縮・解凍)添付データの保存	データベース利用
学術情報 :データベース検索、データ検索、データ検索レポート	データベース利用
Word :基礎、簡単なビジネス文書、練習問題の作成	ワープロソフト利用
Word :表の作成練習、表入りの文書作成	ワープロソフト利用
Word :図入りの文書作成、図の挿入	ワープロソフト利用
Word :オートシェイプ機能の応用	ワープロソフト利用
Word :総合練習	ワープロソフト利用
最終講義日試験	

テキスト	書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
	Word2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
	Rainbow Guide	/ 総合情報センター /

### 参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ



必要に応じて授業中に紹介する。

その他

・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。・宿題を数回、提出してもらう予定。・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 坂田 謙司

### 講義内容・テーマ

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

情報スキル判定のためのアンケートを実施し、その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学修内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義	
ガイダンス:ID・PWの配布	
Windowsの基本:ID・PWの利用の注意点、大学マシン利用の注意点、ログイン、文字入力、基本操作、タイピング	コンピュータ基本操作
Windows 実践、コースツール、インターネット :ファイル操作実習、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと検索方法	ネットワーク利用
インターネット :検索エンジンの利用法、検索実習、インターネット利用の注意点、PC基礎、インターネットについて	ネットワーク利用
Webメール :送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、フォルダの作成、編集	電子メール利用
Webメール :受信容量について、添付の方法について(圧縮・解凍)添付データの保存	電子メール利用
学術情報 :RUNNERS,NACISIS Webcat	データベース利用
学術情報 :データベース検索、データ検索、データ検索レポート	データベース利用
Word :基礎、簡単なビジネス文書、練習問題の作成	ワープロソフト利用
Word :表の作成練習、表入りの文書作成	ワープロソフト利用
Word :図入りの文書作成、図の挿入	ワープロソフト利用
Word :オートシェイプ機能の応用	ワープロソフト利用
Word :総合練習	ワープロソフト利用
最終講義日試験	

テキスト	書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
	Word2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
	Rainbow Guide	/ 総合情報センター /

### 参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらおう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 坂田 謙司

### 講義内容・テーマ

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

情報スキル判定のためのアンケートを実施し、その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学修内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義	
ガイダンス:ID・PWの配布	
Windowsの基本:ID・PWの利用の注意点、大学マシン利用の注意点、ログイン、文字入力、基本操作、タイピング	コンピュータ基本操作
Windows 実践、コースツール、インターネット :ファイル操作実習、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと検索方法	ネットワーク利用
インターネット :検索エンジンの利用法、検索実習、インターネット利用の注意点、PC基礎、インターネットについて	ネットワーク利用
Webメール :送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、フォルダの作成、編集	電子メール利用
Webメール :受信容量について、添付の方法について(圧縮・解凍)添付データの保存	電子メール利用
学術情報 :RUNNERS,NACISIS Webcat	データベース利用
学術情報 :データベース検索、データ検索、データ検索レポート	データベース利用
Word :基礎、簡単なビジネス文書、練習問題の作成	ワープロソフト利用
Word :表の作成練習、表入りの文書作成	ワープロソフト利用
Word :図入りの文書作成、図の挿入	ワープロソフト利用
Word :オートシェイプ機能の応用	ワープロソフト利用
Word :総合練習	ワープロソフト利用
最終講義日試験	

テキスト	書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
	Word2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
	Rainbow Guide	/ 総合情報センター /

### 参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。・宿題を数回、提出してもらう予定。・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間	前期	単位数	2	配当回生	時間割等参照
担当教員	黄 盛彬				

講義内容・テーマ

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

情報スキル判定のためのアンケートを実施し、その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学修内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義	
ガイダンス:ID・PWの配布	
Windowsの基本:ID・PWの利用の注意点、大学マシン利用の注意点、ログイン、文字入力、基本操作、タイピング	コンピュータ基本操作
Windows 実践、コースツール、インターネット :ファイル操作実習、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと検索方法	ネットワーク利用
インターネット :検索エンジンの利用法、検索実習、インターネット利用の注意点、PC基礎、インターネットについて	ネットワーク利用
Webメール :送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、フォルダの作成、編集	電子メール利用
Webメール :受信容量について、添付の方法について(圧縮・解凍)添付データの保存	電子メール利用
学術情報 :RUNNERS,NACISIS Webcat	データベース利用
学術情報 :データベース検索、データ検索、データ検索レポート	データベース利用
Word :基礎、簡単なビジネス文書、練習問題の作成	ワープロソフト利用
Word :表の作成練習、表入りの文書作成	ワープロソフト利用
Word :図入りの文書作成、図の挿入	ワープロソフト利用
Word :オートシェイプ機能の応用	ワープロソフト利用
Word :総合練習	ワープロソフト利用
最終講義日試験	

テキスト	書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
	Word2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
	Rainbow Guide	/ 総合情報センター /

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。・宿題を数回、提出してもらう予定。・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間	前期	単位数	2	配当回生	時間割等参照
担当教員	黄 盛彬				

講義内容・テーマ

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

情報スキル判定のためのアンケートを実施し、その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学修内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義	
ガイダンス:ID・PWの配布	
Windowsの基本:ID・PWの利用の注意点、大学マシン利用の注意点、ログイン、文字入力、基本操作、タイピング	コンピュータ基本操作
Windows 実践、コースツール、インターネット :ファイル操作実習、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと検索方法	ネットワーク利用
インターネット :検索エンジンの利用法、検索実習、インターネット利用の注意点、PC基礎、インターネットについて	ネットワーク利用
Webメール :送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、フォルダの作成、編集	電子メール利用
Webメール :受信容量について、添付の方法について(圧縮・解凍)添付データの保存	電子メール利用
学術情報 :RUNNERS,NACISIS Webcat	データベース利用
学術情報 :データベース検索、データ検索、データ検索レポート	データベース利用
Word :基礎、簡単なビジネス文書、練習問題の作成	ワープロソフト利用
Word :表の作成練習、表入りの文書作成	ワープロソフト利用
Word :図入りの文書作成、図の挿入	ワープロソフト利用
Word :オートシェイプ機能の応用	ワープロソフト利用
Word :総合練習	ワープロソフト利用
最終講義日試験	

テキスト	書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
	Word2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
	Rainbow Guide	/ 総合情報センター /

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。



その他

・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。・宿題を数回、提出してもらう予定。・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間	前期	単位数	2	配当回生	時間割等参照
担当教員	長澤 克重				

**講義内容・テーマ**

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

**受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目**

情報スキル判定のためのアンケートを実施し、その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学修内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。

**評価方法・基準**

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

**講義スケジュール**

内 容	キーワード
総括的導入講義	
ガイダンス:ID・PWの配布	
Windowsの基本:ID・PWの利用の注意点、大学マシン利用の注意点、ログイン、文字入力、基本操作、タイピング	コンピュータ基本操作
Windows 実践、コースツール、インターネット :ファイル操作実習、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと検索方法	ネットワーク利用
インターネット :検索エンジンの利用法、検索実習、インターネット利用の注意点、PC基礎、インターネットについて	ネットワーク利用
Webメール :送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、フォルダの作成、編集	電子メール利用
Webメール :受信容量について、添付の方法について(圧縮・解凍)添付データの保存	電子メール利用
学術情報 :RUNNERS,NACISIS Webcatメール :受信容量について、添付の方法について(圧縮・解凍)添付データの保存	データベース利用
学術情報 :データベース検索、データ検索、データ検索レポート	データベース利用
Word :基礎、簡単なビジネス文書、練習問題の作成	ワープロソフト利用
Word :表の作成練習、表入りの文書作成	ワープロソフト利用
Word :図入りの文書作成、図の挿入	ワープロソフト利用
Word :オートシェイプ機能の応用	ワープロソフト利用
Word :総合練習	ワープロソフト利用
最終講義日試験	

テキスト	書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
	Word2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
	Rainbow Guide	/ 総合情報センター /

**参考書**

必要に応じて授業中に紹介する。

**授業の方法(大学院科目のみ)****参考になるWWWページ**

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。・宿題を数回、提出してもらう予定。・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 長澤 克重

### 講義内容・テーマ

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

情報スキル判定のためのアンケートを実施し、その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学修内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義	
ガイダンス:ID・PWの配布	
Windowsの基本:ID・PWの利用の注意	コンピュータ基本操作
Windows 実践、コースツール、インターネット、:ファイル操作実習、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと検索方法	ネットワーク利用
インターネット :検索エンジンの利用法、検索実習、インターネット利用の注意点、PC基礎、インターネットについて	ネットワーク利用
Webメール :送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、フォルダの作成、編集	電子メール利用
Webメール :受信容量について、添付の方法について(圧縮・解凍)添付データの保存	電子メール利用
学術情報 :RUNNERS,NACSIS Webcat	データベース使用
学術情報 :データベース検索、データ検索、データ検索レポート	データベース使用
Word :基礎、簡単なビジネス文書、練習問題の作成	ワープロソフト利用
Word :表の作成練習、表入りの文書作成	ワープロソフト利用
Word :図入りの文書作成、図の挿入	ワープロソフト利用
Word :オートシェイプ機能の応用	ワープロソフト利用
Word :総合練習	ワープロソフト利用
最終講義日試験	

### テキスト

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
Word2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
Rainbow Guide	/ 総合情報センター /

### 参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。・宿題を数回、提出してもらう予定。・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間	前期	単位数	2	配当回生	時間割等参照
担当教員	上出 浩				

### 講義内容・テーマ

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

情報スキル判定のためのアンケートを実施し、その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学修内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100 %	

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義	
ガイダンス:ID・PWの配布	
Windowsの基本:ID・PWの利用の注意点、大学マシン利用の注意点、ログイン、文字入力、基本操作、タイピング	コンピュータ基本操作
Windows 実践、コースツール、インターネット :ファイル操作実習、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと検索方法	ネットワーク利用
インターネット :検索エンジンの利用法、検索実習、インターネット利用の注意点、PC基礎、インターネットについて	ネットワーク利用
Webメール :送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、フォルダの作成、編集	電子メール利用
Webメール :受信容量について、添付の方法について(圧縮・解凍)添付データの保存	電子メール利用
学術情報 :RUNNERS,NACISIS Webcatメール :受信容量について、添付の方法について(圧縮・解凍)添付データの保存	データベース利用
学術情報 :データベース検索、データ検索、データ検索レポート	データベース利用
Word :基礎、簡単なビジネス文書、練習問題の作成	ワープロソフト利用
Word :表の作成練習、表入りの文書作成	ワープロソフト利用
Word :図入りの文書作成、図の挿入	ワープロソフト利用
Word :オートシェイプ機能の応用	ワープロソフト利用
Word :総合練習	ワープロソフト利用
最終講義日試験	

テキスト	書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
	Word2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
	Rainbow Guide	/ 総合情報センター /

### 参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。・宿題を数回、提出してもらう予定。・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間	前期	単位数	2	配当回生	時間割等参照
担当教員	上出 浩				

### 講義内容・テーマ

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

情報スキル判定のためのアンケートを実施し、その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学修内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義	
ガイダンス:ID・PWの配布	
Windowsの基本:ID・PWの利用の注意点、大学マシン利用の注意点、ログイン、文字入力、基本操作、タイピング	コンピュータ基本操作
Windows 実践、コースツール、インターネット :ファイル操作実習、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと検索方法	ネットワーク利用
インターネット :検索エンジンの利用法、検索実習、インターネット利用の注意点、PC基礎、インターネットについて	ネットワーク利用
Webメール :送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、フォルダの作成、編集	電子メール利用
Webメール :受信容量について、添付の方法について(圧縮・解凍)添付データの保存	電子メール利用
学術情報 :RUNNERS,NACISIS Webcatメール :受信容量について、添付の方法について(圧縮・解凍)添付データの保存	データベース利用
学術情報 :データベース検索、データ検索、データ検索レポート	データベース利用
Word :基礎、簡単なビジネス文書、練習問題の作成	ワープロソフト利用
Word :表の作成練習、表入りの文書作成	ワープロソフト利用
Word :図入りの文書作成、図の挿入	ワープロソフト利用
Word :オートシェイプ機能の応用	ワープロソフト利用
Word :総合練習	ワープロソフト利用
最終講義日試験	

テキスト	書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
	Word2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
	Rainbow Guide	/ 総合情報センター /

### 参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ



必要に応じて授業中に紹介する。

その他

・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。・宿題を数回、提出してもらう予定。・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 上出 浩

### 講義内容・テーマ

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

情報スキル判定のためのアンケートを実施し、その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学修内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
総括的導入講義	
ガイダンス:ID・PWの配布	
Windowsの基本:ID・PWの利用の注意点、大学マシン利用の注意点、ログイン、文字入力、基本操作、タイピング	コンピュータ基本操作
Windows 実践、コースツール、インターネット :ファイル操作実習、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと検索方法	ネットワーク利用
インターネット :検索エンジンの利用法、検索実習、インターネット利用の注意点、PC基礎、インターネットについて	ネットワーク利用
Webメール :送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、フォルダの作成、編集	電子メール利用
Webメール :受信容量について、添付の方法について(圧縮・解凍)添付データの保存	電子メール利用
学術情報 :RUNNERS,NACISIS Webcat	データベース利用
学術情報 :データベース検索、データ検索、データ検索レポート	データベース利用
Word :基礎、簡単なビジネス文書、練習問題の作成	ワープロソフト利用
Word :表の作成練習、表入りの文書作成	ワープロソフト利用
Word :図入りの文書作成、図の挿入	ワープロソフト利用
Word :オートシェイプ機能の応用	ワープロソフト利用
Word :総合練習	ワープロソフト利用
最終講義日試験	

テキスト	書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
	Word2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
	Rainbow Guide	/ 総合情報センター /

### 参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。・宿題を数回、提出してもらう予定。・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 生田 正幸

### 講義内容・テーマ

[初級]この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習し、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

[中級]この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

なお、初級・中級共に、専門講義として学科(学系)の学習に重要なWebサイト及びデータベースの紹介と利用方法の解説を1回行う。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初級クラスと中級クラスの学修内容は一部異なり、中級クラスはより高度な内容となっている。クラス所属については、前期に所属したクラスの継続を基本とするが、受講生の申し出により初級クラスと中級クラス間の所属クラス変更を時期を定めて認めることもある。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

### 講義スケジュール

内容	キーワード
【初級】第1回 総括的導入講義	
第2回 人間福祉・専門講義 産業社会:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算	学科別専門講義
第3回 人間福祉:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算 産業社会:専門講義	学科別専門講義
第4回 Excel :表の編集、印刷、練習問題	表計算ソフト利用
第5回 Excel :表を自分で作成する、グラフ作成	表計算ソフト利用
第6回 Excel :グラフ作成、練習問題(グラフ)	表計算ソフト利用
第7回 Excel :データベース、総合練習	表計算ソフト利用
第8回 Excel :筆記、実技(Excel表計算、グラフ作成)	表計算ソフト利用
第9回 PowerPoint :プレゼン基礎知識、見本プレゼン、基本操作、プレゼン構成、スライド作成	プレゼンテーション
第10回 PowerPoint :スライド作成、プレゼンテーションの加工 (編集・アウトライン機能)	プレゼンテーション
第11回 PowerPoint :プレゼンテーションの加工 (表の作成、グラフの作成、ワードアート、クリップアート、オートシェイプ、図表について)	プレゼンテーション
第12回 PowerPoint :プレゼンテーション (図表の練習)、スライドの配布資料の印刷、画面切替効果、アニメーション設定、自作作成	プレゼンテーション
第13回 PowerPiont :発表の技術、発表、データの提出	プレゼンテーション
第14回 HP作成:HP作成に必要な知識、HTML実習	ホームページ作成
第15回 最終講義日試験	
【中級】第1回 総括的導入講義	
第2回 人間福祉・専門講義 産業社会:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算	学科別専門講義
第3回 人間福祉:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算 産業社会:専門講義	学科別専門講義
第4回 Excel :表の編集、印刷、練習問題	表計算ソフト利用
第5回 Excel :表を自分で作成する、グラフ作成	表計算ソフト利用
第6回 Excel :Wordとの連携	表計算ソフト利用
第7回 Excel :Wordとの連携、データベース、総合練習	表計算ソフト利用
第8回 Excel :筆記、実技(Excel表計算、グラフ作成)	表計算ソフト利用

第9回	PowerPoint : プレゼン基礎知識、見本プレゼン、基本操作、プレゼン構成、スライド作成	プレゼンテーション
第10回	PowerPoint : スライド作成の加工 (編集・アウトライン機能)	プレゼンテーション
第11回	PowerPoint : プレゼンテーションの加工 (表の作成、グラフの作成、ワードアート、クリップアート、オートシェイプ、図表について)	プレゼンテーション
第12回	PowerPoint : プレゼンテーション (図表の練習)、スライドの配布資料の印刷、画面切替効果、アニメーション設定、自主作成	プレゼンテーション
第13回	PowerPoint : 発表の技術、発表、データの提出	プレゼンテーション
第14回	HP作成: HP作成に必要な知識、HTML実習	ホームページ作成
第15回	最終講義日試験	

## テキスト

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
Word2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
Excel2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
PowerPoint2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
Rainbow Guide	/ 総合情報センター /

## 参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

## 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

## その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。 授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 生田 正幸

### 講義内容・テーマ

[初級]この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習し、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

[中級]この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

なお、初級・中級共に、専門講義として学科(学系)の学習に重要なWebサイト及びデータベースの紹介と利用方法の解説を1回行う。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初級クラスと中級クラスの学修内容は一部異なり、中級クラスはより高度な内容となっている。クラス所属については、前期に所属したクラスの継続を基本とするが、受講生の申し出により初級クラスと中級クラス間の所属クラス変更を時期を定めて認めることもある。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

### 講義スケジュール

内容	キーワード
【初級】 第1回 総括的導入講義	
第2回 人間福祉・専門講義 産業社会:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算	学科別専門講義
第3回 人間福祉:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算 産業社会:専門講義	学科別専門講義
第4回 Excel :表の編集、印刷、練習問題	表計算ソフト利用
第5回 Excel :表を自分で作成する、グラフ作成	表計算ソフト利用
第6回 Excel :グラフ作成、練習問題(グラフ)	表計算ソフト利用
第7回 Excel :データベース、総合練習	表計算ソフト利用
第8回 Excel :筆記、実技(Excel表計算、グラフ作成)	表計算ソフト利用
第9回 PowerPoint :プレゼン基礎知識、見本プレゼン、基本操作、プレゼン構成、スライド作成	プレゼンテーション
第10回 PowerPoint :スライド作成、プレゼンテーションの加工 (編集・オートライン機能)	プレゼンテーション
第11回 PowerPoint :プレゼンテーションの加工 (表の作成、グラフの作成、ワードアート、クリップアート、オートシェイプ、図表について)	プレゼンテーション
第12回 PowerPoint :プレゼンテーション (図表の練習)、スライドの配布資料の印刷、画面切替効果、アニメーション設定、自作作成	プレゼンテーション
第13回 PowerPionnt :発表の技術、発表、データの提出	プレゼンテーション
第14回 HP作成:HP作成に必要な知識、HTML実習	ホームページ作成
第15回 最終講義日試験	
【中級】 第1回 総括的導入講義	
第2回 人間福祉・専門講義 産業社会:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算	学科別専門講義
第3回 人間福祉:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算 産業社会:専門講義	学科別専門講義
第4回 Excel :表の編集、印刷、練習問題	表計算ソフト利用
第5回 Excel :表を自分で作成する、グラフ作成	表計算ソフト利用
第6回 Excel :Wordとの連携	表計算ソフト利用
第7回 Excel :Wordとの連携、データベース、総合練習	表計算ソフト利用
第8回 Excel :筆記、実技(Excel表計算、グラフ作成)	表計算ソフト利用

第9回	PowerPoint : プレゼン基礎知識、見本プレゼン、基本操作、プレゼン構成、スライド作成	プレゼンテーション
第10回	PowerPoint : スライド作成の加工 (編集・アウトライン機能)	プレゼンテーション
第11回	PowerPoint : プレゼンテーションの加工 (表の作成、グラフの作成、ワードアート、クリップアート、オートシェイプ、図表について)	プレゼンテーション
第12回	PowerPoint : プレゼンテーション (図表の練習)、スライドの配布資料の印刷、画面切替効果、アニメーション設定、自主作成	プレゼンテーション
第13回	PowerPoint : 発表の技術、発表、データの提出	プレゼンテーション
第14回	HP作成: HP作成に必要な知識、HTML実習	ホームページ作成
第15回	最終講義日試験	

## テキスト

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
Word2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
Excel2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
PowerPoint2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
Rainbow Guide	/ 総合情報センター /

## 参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

## 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

## その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。 授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 坂田 謙司

### 講義内容・テーマ

[初級]この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習し、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

[中級]この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

なお、初級・中級共に、専門講義として学科(学系)の学習に重要なWebサイト及びデータベースの紹介と利用方法の解説を1回行う。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初級クラスと中級クラスの学修内容は一部異なり、中級クラスはより高度な内容となっている。クラス所属については、前期に所属したクラスの継続を基本とするが、受講生の申し出により初級クラスと中級クラス間の所属クラス変更を時期を定めて認めることもある。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

### 講義スケジュール

内容	キーワード
【初級】第1回 総括的導入講義	
第2回 人間福祉・専門講義 産業社会:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算	学科別専門講義
第3回 人間福祉:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算 産業社会:専門講義	学科別専門講義
第4回 Excel :表の編集、印刷、練習問題	表計算ソフト利用
第5回 Excel :表を自分で作成する、グラフ作成	表計算ソフト利用
第6回 Excel :グラフ作成、練習問題(グラフ)	表計算ソフト利用
第7回 Excel :データベース、総合練習	表計算ソフト利用
第8回 Excel :筆記、実技(Excel表計算、グラフ作成)	表計算ソフト利用
第9回 PowerPoint :プレゼン基礎知識、見本プレゼン、基本操作、プレゼン構成、スライド作成	プレゼンテーション
第10回 PowerPoint :スライド作成、プレゼンテーションの加工 (編集・アウトライン機能)	プレゼンテーション
第11回 PowerPoint :プレゼンテーションの加工 (表の作成、グラフの作成、ワードアート、クリップアート、オートシェイプ、図表について)	プレゼンテーション
第12回 PowerPoint :プレゼンテーション (図表の練習)、スライドの配布資料の印刷、画面切替効果、アニメーション設定、自作作成	プレゼンテーション
第13回 PowerPionnt :発表の技術、発表、データの提出	プレゼンテーション
第14回 HP作成:HP作成に必要な知識、HTML実習	ホームページ作成
第15回 最終講義日試験	
【中級】第1回 総括的導入講義	
第2回 人間福祉・専門講義 産業社会:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算	学科別専門講義
第3回 人間福祉:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算 産業社会:専門講義	学科別専門講義
第4回 Excel :表の編集、印刷、練習問題	表計算ソフト利用
第5回 Excel :表を自分で作成する、グラフ作成	表計算ソフト利用
第6回 Excel :Wordとの連携	表計算ソフト利用
第7回 Excel :Wordとの連携、データベース、総合練習	表計算ソフト利用
第8回 Excel :筆記、実技(Excel表計算、グラフ作成)	表計算ソフト利用



第9回	PowerPoint :プレゼン基礎知識、見本プレゼン、基本操作、プレゼン構成、スライド作成	プレゼンテーション
第10回	PowerPoint :スライド作成 プレゼンテーションの加工 (編集・アウトライン機能)	プレゼンテーション
第11回	PowerPoint :プレゼンテーションの加工 (表の作成、グラフの作成、ワードアート、クリップアート、オートシェイプ、図表について)	プレゼンテーション
第12回	PowerPoint :プレゼンテーション (図表の練習)、スライドの配布資料の印刷、画面切替効果、アニメーション設定、自主作成	プレゼンテーション
第13回	PowerPoint :発表の技術、発表、データの提出	プレゼンテーション
第14回	HP作成:HP作成に必要な知識、HTML実習	ホームページ作成
第15回	最終講義日試験	

テキスト

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
Word2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
Excel2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
PowerPoint2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
Rainbow Guide	/ 総合情報センター /

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 坂田 謙司

### 講義内容・テーマ

[初級]この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習し、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

[中級]この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

なお、初級・中級共に、専門講義として学科(学系)の学習に重要なWebサイト及びデータベースの紹介と利用方法の解説を1回行う。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初級クラスと中級クラスの学修内容は一部異なり、中級クラスはより高度な内容となっている。クラス所属については、前期に所属したクラスの継続を基本とするが、受講生の申し出により初級クラスと中級クラス間の所属クラス変更を時期を定めて認めることもある。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

### 講義スケジュール

内容	キーワード
【初級】第1回 総括的導入講義	
第2回 人間福祉・専門講義 産業社会:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算	学科別専門講義
第3回 人間福祉:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算 産業社会:専門講義	学科別専門講義
第4回 Excel :表の編集、印刷、練習問題	表計算ソフト利用
第5回 Excel :表を自分で作成する、グラフ作成	表計算ソフト利用
第6回 Excel :グラフ作成、練習問題(グラフ)	表計算ソフト利用
第7回 Excel :データベース、総合練習	表計算ソフト利用
第8回 Excel :筆記、実技(Excel表計算、グラフ作成)	表計算ソフト利用
第9回 PowerPoint :プレゼン基礎知識、見本プレゼン、基本操作、プレゼン構成、スライド作成	プレゼンテーション
第10回 PowerPoint :スライド作成、プレゼンテーションの加工 (編集・オートライン機能)	プレゼンテーション
第11回 PowerPoint :プレゼンテーションの加工 (表の作成、グラフの作成、ワードアート、クリップアート、オートシェイプ、図表について)	プレゼンテーション
第12回 PowerPoint :プレゼンテーション (図表の練習)、スライドの配布資料の印刷、画面切替効果、アニメーション設定、自作作成	プレゼンテーション
第13回 PowerPiont :発表の技術、発表、データの提出	プレゼンテーション
第14回 HP作成:HP作成に必要な知識、HTML実習	ホームページ作成
第15回 最終講義日試験	
【中級】第1回 総括的導入講義	
第2回 人間福祉・専門講義 産業社会:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算	学科別専門講義
第3回 人間福祉:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算 産業社会:専門講義	学科別専門講義
第4回 Excel :表の編集、印刷、練習問題	表計算ソフト利用
第5回 Excel :表を自分で作成する、グラフ作成	表計算ソフト利用
第6回 Excel :Wordとの連携	表計算ソフト利用
第7回 Excel :Wordとの連携、データベース、総合練習	表計算ソフト利用
第8回 Excel :筆記、実技(Excel表計算、グラフ作成)	表計算ソフト利用

第9回	PowerPoint : プレゼン基礎知識、見本プレゼン、基本操作、プレゼン構成、スライド作成	プレゼンテーション
第10回	PowerPoint : スライド作成の加工 (編集・アウトライン機能)	プレゼンテーション
第11回	PowerPoint : プレゼンテーションの加工 (表の作成、グラフの作成、ワードアート、クリップアート、オートシェイプ、図表について)	プレゼンテーション
第12回	PowerPoint : プレゼンテーション (図表の練習)、スライドの配布資料の印刷、画面切替効果、アニメーション設定、自主作成	プレゼンテーション
第13回	PowerPoint : 発表の技術、発表、データの提出	プレゼンテーション
第14回	HP作成: HP作成に必要な知識、HTML実習	ホームページ作成
第15回	最終講義日試験	

## テキスト

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
Word2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
Excel2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
PowerPoint2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
Rainbow Guide	/ 総合情報センター /

## 参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

## 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

## その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。 授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間	後期	単位数	2	配当回生	時間割等参照
担当教員	黄 盛彬				

### 講義内容・テーマ

[初級]この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習し、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

[中級]この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

なお、初級・中級共に、専門講義として学科(学系)の学習に重要なWebサイト及びデータベースの紹介と利用方法の解説を1回行う。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初級クラスと中級クラスの学修内容は一部異なり、中級クラスはより高度な内容となっている。クラス所属については、前期に所属したクラスの継続を基本とするが、受講生の申し出により初級クラスと中級クラス間の所属クラス変更を時期を定めて認めることもある。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
【初級】 第1回 総括的導入講義	
第2回 人間福祉・専門講義 産業社会:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算	学科別専門講義
第3回 人間福祉:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算 産業社会:専門講義	学科別専門講義
第4回 Excel :表の編集、印刷、練習問題	表計算ソフト利用
第5回 Excel :表を自分で作成する、グラフ作成	表計算ソフト利用
第6回 Excel :グラフ作成、練習問題(グラフ)	表計算ソフト利用
第7回 Excel :データベース、総合練習	表計算ソフト利用
第8回 Excel :筆記、実技(Excel表計算、グラフ作成)	表計算ソフト利用
第9回 PowerPoint :プレゼン基礎知識、見本プレゼン、基本操作、プレゼン構成、スライド作成	プレゼンテーション
第10回 PowerPoint :スライド作成、プレゼンテーションの加工 (編集・オートライン機能)	プレゼンテーション
第11回 PowerPoint :プレゼンテーションの加工 (表の作成、グラフの作成、ワードアート、クリップアート、オートシェイプ、図表について)	プレゼンテーション
第12回 PowerPoint :プレゼンテーション (図表の練習)、スライドの配布資料の印刷、画面切替効果、アニメーション設定、自作作成	プレゼンテーション
第13回 PowerPiont :発表の技術、発表、データの提出	プレゼンテーション
第14回 HP作成:HP作成に必要な知識、HTML実習	ホームページ作成
第15回 最終講義日試験	
【中級】 第1回 総括的導入講義	
第2回 人間福祉・専門講義 産業社会:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算	学科別専門講義
第3回 人間福祉:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算 産業社会:専門講義	学科別専門講義
第4回 Excel :表の編集、印刷、練習問題	表計算ソフト利用
第5回 Excel :表を自分で作成する、グラフ作成	表計算ソフト利用
第6回 Excel :Wordとの連携	表計算ソフト利用
第7回 Excel :Wordとの連携、データベース、総合練習	表計算ソフト利用
第8回 Excel :筆記、実技(Excel表計算、グラフ作成)	表計算ソフト利用

第9回	PowerPoint : プレゼン基礎知識、見本プレゼン、基本操作、プレゼン構成、スライド作成	プレゼンテーション
第10回	PowerPoint : スライド作成の加工 (編集・アウトライン機能)	プレゼンテーション
第11回	PowerPoint : プレゼンテーションの加工 (表の作成、グラフの作成、ワードアート、クリップアート、オートシェイプ、図表について)	プレゼンテーション
第12回	PowerPoint : プレゼンテーション (図表の練習)、スライドの配布資料の印刷、画面切替効果、アニメーション設定、自主作成	プレゼンテーション
第13回	PowerPoint : 発表の技術、発表、データの提出	プレゼンテーション
第14回	HP作成: HP作成に必要な知識、HTML実習	ホームページ作成
第15回	最終講義日試験	

## テキスト

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
Word2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
Excel2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
PowerPoint2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
Rainbow Guide	/ 総合情報センター /

## 参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

## 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

## その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。 授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす

授業開講期間	後期	単位数	2	配当回生	時間割等参照
担当教員	黄 盛彬				

### 講義内容・テーマ

[初級]この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習し、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

[中級]この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

なお、初級・中級共に、専門講義として学科(学系)の学習に重要なWebサイト及びデータベースの紹介と利用方法の解説を1回行う。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初級クラスと中級クラスの学修内容は一部異なり、中級クラスはより高度な内容となっている。クラス所属については、前期に所属したクラスの継続を基本とするが、受講生の申し出により初級クラスと中級クラス間の所属クラス変更を時期を定めて認めることもある。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
【初級】 第1回 総括的導入講義	
第2回 人間福祉・専門講義 産業社会:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算	学科別専門講義
第3回 人間福祉:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算 産業社会:専門講義	学科別専門講義
第4回 Excel :表の編集、印刷、練習問題	表計算ソフト利用
第5回 Excel :表を自分で作成する、グラフ作成	表計算ソフト利用
第6回 Excel :グラフ作成、練習問題(グラフ)	表計算ソフト利用
第7回 Excel :データベース、総合練習	表計算ソフト利用
第8回 Excel :筆記、実技(Excel表計算、グラフ作成)	表計算ソフト利用
第9回 PowerPoint :プレゼン基礎知識、見本プレゼン、基本操作、プレゼン構成、スライド作成	プレゼンテーション
第10回 PowerPoint :スライド作成、プレゼンテーションの加工 (編集・オートライン機能)	プレゼンテーション
第11回 PowerPoint :プレゼンテーションの加工 (表の作成、グラフの作成、ワードアート、クリップアート、オートシェイプ、図表について)	プレゼンテーション
第12回 PowerPoint :プレゼンテーション (図表の練習)、スライドの配布資料の印刷、画面切替効果、アニメーション設定、自作作成	プレゼンテーション
第13回 PowerPiont :発表の技術、発表、データの提出	プレゼンテーション
第14回 HP作成:HP作成に必要な知識、HTML実習	ホームページ作成
第15回 最終講義日試験	
【中級】 第1回 総括的導入講義	
第2回 人間福祉・専門講義 産業社会:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算	学科別専門講義
第3回 人間福祉:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算 産業社会:専門講義	学科別専門講義
第4回 Excel :表の編集、印刷、練習問題	表計算ソフト利用
第5回 Excel :表を自分で作成する、グラフ作成	表計算ソフト利用
第6回 Excel :Wordとの連携	表計算ソフト利用
第7回 Excel :Wordとの連携、データベース、総合練習	表計算ソフト利用
第8回 Excel :筆記、実技(Excel表計算、グラフ作成)	表計算ソフト利用

第9回	PowerPoint : プレゼン基礎知識、見本プレゼン、基本操作、プレゼン構成、スライド作成	プレゼンテーション
第10回	PowerPoint : スライド作成の加工 (編集・アウトライン機能)	プレゼンテーション
第11回	PowerPoint : プレゼンテーションの加工 (表の作成、グラフの作成、ワードアート、クリップアート、オートシェイプ、図表について)	プレゼンテーション
第12回	PowerPoint : プレゼンテーション (図表の練習)、スライドの配布資料の印刷、画面切替効果、アニメーション設定、自主作成	プレゼンテーション
第13回	PowerPoint : 発表の技術、発表、データの提出	プレゼンテーション
第14回	HP作成: HP作成に必要な知識、HTML実習	ホームページ作成
第15回	最終講義日試験	

テキスト

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
Word2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
Excel2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
PowerPoint2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
Rainbow Guide	/ 総合情報センター /

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。 ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 長澤 克重

### 講義内容・テーマ

[初級]この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習し、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

[中級]この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

なお、初級・中級共に、専門講義として学科(学系)の学習に重要なWebサイト及びデータベースの紹介と利用方法の解説を1回行う。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初級クラスと中級クラスの学修内容は一部異なり、中級クラスはより高度な内容となっている。クラス所属については、前期に所属したクラスの継続を基本とするが、受講生の申し出により初級クラスと中級クラス間の所属クラス変更を時期を定めて認めることもある。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

### 講義スケジュール

内容	キーワード
【初級】第1回 総括的導入講義	
第2回 人間福祉・専門講義 産業社会:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算	学科別専門講義
第3回 人間福祉:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算 産業社会:専門講義	学科別専門講義
第4回 Excel :表の編集、印刷、練習問題	表計算ソフト利用
第5回 Excel :表を自分で作成する、グラフ作成	表計算ソフト利用
第6回 Excel :グラフ作成、練習問題(グラフ)	表計算ソフト利用
第7回 Excel :データベース、総合練習	表計算ソフト利用
第8回 Excel :筆記、実技(Excel表計算、グラフ作成)	表計算ソフト利用
第9回 PowerPoint :プレゼン基礎知識、見本プレゼン、基本操作、プレゼン構成、スライド作成	プレゼンテーション
第10回 PowerPoint :スライド作成、プレゼンテーションの加工 (編集・オートライン機能)	プレゼンテーション
第11回 PowerPoint :プレゼンテーションの加工 (表の作成、グラフの作成、ワードアート、クリップアート、オートシェイプ、図表について)	プレゼンテーション
第12回 PowerPoint :プレゼンテーション (図表の練習)、スライドの配布資料の印刷、画面切替効果、アニメーション設定、自作作成	プレゼンテーション
第13回 PowerPiont :発表の技術、発表、データの提出	プレゼンテーション
第14回 HP作成:HP作成に必要な知識、HTML実習	ホームページ作成
第15回 最終講義日試験	
【中級】第1回 総括的導入講義	
第2回 人間福祉・専門講義 産業社会:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算	学科別専門講義
第3回 人間福祉:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算 産業社会:専門講義	学科別専門講義
第4回 Excel :表の編集、印刷、練習問題	表計算ソフト利用
第5回 Excel :表を自分で作成する、グラフ作成	表計算ソフト利用
第6回 Excel :Wordとの連携	表計算ソフト利用
第7回 Excel :Wordとの連携、データベース、総合練習	表計算ソフト利用
第8回 Excel :筆記、実技(Excel表計算、グラフ作成)	表計算ソフト利用



第9回	PowerPoint : プレゼン基礎知識、見本プレゼン、基本操作、プレゼン構成、スライド作成	プレゼンテーション
第10回	PowerPoint : スライド作成の加工 (編集・アウトライン機能)	プレゼンテーション
第11回	PowerPoint : プレゼンテーションの加工 (表の作成、グラフの作成、ワードアート、クリップアート、オートシェイプ、図表について)	プレゼンテーション
第12回	PowerPoint : プレゼンテーション (図表の練習)、スライドの配布資料の印刷、画面切替効果、アニメーション設定、自主作成	プレゼンテーション
第13回	PowerPoint : 発表の技術、発表、データの提出	プレゼンテーション
第14回	HP作成: HP作成に必要な知識、HTML実習	ホームページ作成
第15回	最終講義日試験	

## テキスト

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
Word2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
Excel2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
PowerPoint2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
Rainbow Guide	/ 総合情報センター /

## 参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

## 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

## その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。 授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 長澤 克重

### 講義内容・テーマ

[初級]この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習し、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

[中級]この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

なお、初級・中級共に、専門講義として学科(学系)の学習に重要なWebサイト及びデータベースの紹介と利用方法の解説を1回行う。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初級クラスと中級クラスの学修内容は一部異なり、中級クラスはより高度な内容となっている。クラス所属については、前期に所属したクラスの継続を基本とするが、受講生の申し出により初級クラスと中級クラス間の所属クラス変更を時期を定めて認めることもある。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

### 講義スケジュール

内容	キーワード
【初級】 第1回 総括的導入講義	
第2回 人間福祉・専門講義 産業社会:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算	学科別専門講義
第3回 人間福祉:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算 産業社会:専門講義	学科別専門講義
第4回 Excel :表の編集、印刷、練習問題	表計算ソフト利用
第5回 Excel :表を自分で作成する、グラフ作成	表計算ソフト利用
第6回 Excel :グラフ作成、練習問題(グラフ)	表計算ソフト利用
第7回 Excel :データベース、総合練習	表計算ソフト利用
第8回 Excel :筆記、実技(Excel表計算、グラフ作成)	表計算ソフト利用
第9回 PowerPoint :プレゼン基礎知識、見本プレゼン、基本操作、プレゼン構成、スライド作成	プレゼンテーション
第10回 PowerPoint :スライド作成、プレゼンテーションの加工(編集・アウトライン機能)	プレゼンテーション
第11回 PowerPoint :プレゼンテーションの加工(表の作成、グラフの作成、ワードアート、クリップアート、オートシェイプ、図表について)	プレゼンテーション
第12回 PowerPoint :プレゼンテーション(図表の練習)、スライドの配布資料の印刷、画面切替効果、アニメーション設定、自作作成	プレゼンテーション
第13回 PowerPiont :発表の技術、発表、データの提出	プレゼンテーション
第14回 HP作成:HP作成に必要な知識、HTML実習	ホームページ作成
第15回 最終講義日試験	
【中級】 第1回 総括的導入講義	
第2回 人間福祉・専門講義 産業社会:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算	学科別専門講義
第3回 人間福祉:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算 産業社会:専門講義	学科別専門講義
第4回 Excel :表の編集、印刷、練習問題	表計算ソフト利用
第5回 Excel :表を自分で作成する、グラフ作成	表計算ソフト利用
第6回 Excel :Wordとの連携	表計算ソフト利用
第7回 Excel :Wordとの連携、データベース、総合練習	表計算ソフト利用
第8回 Excel :筆記、実技(Excel表計算、グラフ作成)	表計算ソフト利用

第9回	PowerPoint : プレゼン基礎知識、見本プレゼン、基本操作、プレゼン構成、スライド作成	プレゼンテーション
第10回	PowerPoint : スライド作成の加工 (編集・アウトライン機能)	プレゼンテーション
第11回	PowerPoint : プレゼンテーションの加工 (表の作成、グラフの作成、ワードアート、クリップアート、オートシェイプ、図表について)	プレゼンテーション
第12回	PowerPoint : プレゼンテーション (図表の練習)、スライドの配布資料の印刷、画面切替効果、アニメーション設定、自主作成	プレゼンテーション
第13回	PowerPoint : 発表の技術、発表、データの提出	プレゼンテーション
第14回	HP作成: HP作成に必要な知識、HTML実習	ホームページ作成
第15回	最終講義日試験	

## テキスト

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
Word2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
Excel2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
PowerPoint2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
Rainbow Guide	/ 総合情報センター /

## 参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

## 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

## その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。 ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす

授業開講期間	後期	単位数	2	配当回生	時間割等参照
担当教員	上出 浩				

### 講義内容・テーマ

[初級]この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習し、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

[中級]この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

なお、初級・中級共に、専門講義として学科(学系)の学習に重要なWebサイト及びデータベースの紹介と利用方法の解説を1回行う。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初級クラスと中級クラスの学修内容は一部異なり、中級クラスはより高度な内容となっている。クラス所属については、前期に所属したクラスの継続を基本とするが、受講生の申し出により初級クラスと中級クラス間の所属クラス変更を時期を定めて認めることもある。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

### 講義スケジュール

内容	キーワード
【初級】第1回 総括的導入講義	
第2回 人間福祉・専門講義 産業社会:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算	学科別専門講義
第3回 人間福祉:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算 産業社会:専門講義	学科別専門講義
第4回 Excel :表の編集、印刷、練習問題	表計算ソフト利用
第5回 Excel :表を自分で作成する、グラフ作成	表計算ソフト利用
第6回 Excel :グラフ作成、練習問題(グラフ)	表計算ソフト利用
第7回 Excel :データベース、総合練習	表計算ソフト利用
第8回 Excel :筆記、実技(Excel表計算、グラフ作成)	表計算ソフト利用
第9回 PowerPoint :プレゼン基礎知識、見本プレゼン、基本操作、プレゼン構成、スライド作成	プレゼンテーション
第10回 PowerPoint :スライド作成、プレゼンテーションの加工(編集・オートライン機能)	プレゼンテーション
第11回 PowerPoint :プレゼンテーションの加工(表の作成、グラフの作成、ワードアート、クリップアート、オートシェイプ、図表について)	プレゼンテーション
第12回 PowerPoint :プレゼンテーション(図表の練習)、スライドの配布資料の印刷、画面切替効果、アニメーション設定、自作作成	プレゼンテーション
第13回 PowerPiont :発表の技術、発表、データの提出	プレゼンテーション
第14回 HP作成:HP作成に必要な知識、HTML実習	ホームページ作成
第15回 最終講義日試験	
【中級】第1回 総括的導入講義	
第2回 人間福祉・専門講義 産業社会:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算	学科別専門講義
第3回 人間福祉:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算 産業社会:専門講義	学科別専門講義
第4回 Excel :表の編集、印刷、練習問題	表計算ソフト利用
第5回 Excel :表を自分で作成する、グラフ作成	表計算ソフト利用
第6回 Excel :Wordとの連携	表計算ソフト利用
第7回 Excel :Wordとの連携、データベース、総合練習	表計算ソフト利用
第8回 Excel :筆記、実技(Excel表計算、グラフ作成)	表計算ソフト利用

第9回	PowerPoint : プレゼン基礎知識、見本プレゼン、基本操作、プレゼン構成、スライド作成	プレゼンテーション
第10回	PowerPoint : スライド作成の加工 (編集・アウトライン機能)	プレゼンテーション
第11回	PowerPoint : プレゼンテーションの加工 (表の作成、グラフの作成、ワードアート、クリップアート、オートシェイプ、図表について)	プレゼンテーション
第12回	PowerPoint : プレゼンテーション (図表の練習)、スライドの配布資料の印刷、画面切替効果、アニメーション設定、自主作成	プレゼンテーション
第13回	PowerPoint : 発表の技術、発表、データの提出	プレゼンテーション
第14回	HP作成: HP作成に必要な知識、HTML実習	ホームページ作成
第15回	最終講義日試験	

テキスト

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
Word2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
Excel2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
PowerPoint2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
Rainbow Guide	/ 総合情報センター /

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。 授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間	後期	単位数	2	配当回生	時間割等参照
担当教員	上出 浩				

### 講義内容・テーマ

[初級]この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習し、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

[中級]この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

なお、初級・中級共に、専門講義として学科(学系)の学習に重要なWebサイト及びデータベースの紹介と利用方法の解説を1回行う。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初級クラスと中級クラスの学修内容は一部異なり、中級クラスはより高度な内容となっている。クラス所属については、前期に所属したクラスの継続を基本とするが、受講生の申し出により初級クラスと中級クラス間の所属クラス変更を時期を定めて認めることもある。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

### 講義スケジュール

内容	キーワード
【初級】第1回 総括的導入講義	
第2回 人間福祉・専門講義 産業社会:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算	学科別専門講義
第3回 人間福祉:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算 産業社会:専門講義	学科別専門講義
第4回 Excel :表の編集、印刷、練習問題	表計算ソフト利用
第5回 Excel :表を自分で作成する、グラフ作成	表計算ソフト利用
第6回 Excel :グラフ作成、練習問題(グラフ)	表計算ソフト利用
第7回 Excel :データベース、総合練習	表計算ソフト利用
第8回 Excel :筆記、実技(Excel表計算、グラフ作成)	表計算ソフト利用
第9回 PowerPoint :プレゼン基礎知識、見本プレゼン、基本操作、プレゼン構成、スライド作成	プレゼンテーション
第10回 PowerPoint :スライド作成、プレゼンテーションの加工 (編集・オートライン機能)	プレゼンテーション
第11回 PowerPoint :プレゼンテーションの加工 (表の作成、グラフの作成、ワードアート、クリップアート、オートシェイプ、図表について)	プレゼンテーション
第12回 PowerPoint :プレゼンテーション (図表の練習)、スライドの配布資料の印刷、画面切替効果、アニメーション設定、自作作成	プレゼンテーション
第13回 PowerPiont :発表の技術、発表、データの提出	プレゼンテーション
第14回 HP作成:HP作成に必要な知識、HTML実習	ホームページ作成
第15回 最終講義日試験	
【中級】第1回 総括的導入講義	
第2回 人間福祉・専門講義 産業社会:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算	学科別専門講義
第3回 人間福祉:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算 産業社会	学科別専門講義
第4回 Excel :表の編集、印刷、練習問題	表計算ソフト利用
第5回 Excel :表を自分で作成する、グラフ作成	表計算ソフト利用
第6回 Excel :Wordとの連携	表計算ソフト利用
第7回 Excel :Wordとの連携、データベース、総合練習	表計算ソフト利用
第8回 Excel :筆記、実技(Excel表計算、グラフ作成)	表計算ソフト利用

第9回	PowerPoint : プレゼン基礎知識、見本プレゼン、基本操作、プレゼン構成、スライド作成	プレゼンテーション
第10回	PowerPoint : スライド作成の加工 (編集・アウトライン機能)	プレゼンテーション
第11回	PowerPoint : プレゼンテーションの加工 (表の作成、グラフの作成、ワードアート、クリップアート、オートシェイプ、図表について)	プレゼンテーション
第12回	PowerPoint : プレゼンテーション (図表の練習)、スライドの配布資料の印刷、画面切替効果、アニメーション設定、自主作成	プレゼンテーション
第13回	PowerPoint : 発表の技術、発表、データの提出	プレゼンテーション
第14回	HP作成: HP作成に必要な知識、HTML実習	ホームページ作成
第15回	最終講義日試験	

テキスト

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
Word2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
Excel2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
PowerPoint2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
Rainbow Guide	/ 総合情報センター /

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。 ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす

授業開講期間	後期	単位数	2	配当回生	時間割等参照
担当教員	上出 浩				

### 講義内容・テーマ

[初級]この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習し、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

[中級]この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

なお、初級・中級共に、専門講義として学科(学系)の学習に重要なWebサイト及びデータベースの紹介と利用方法の解説を1回行う。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初級クラスと中級クラスの学修内容は一部異なり、中級クラスはより高度な内容となっている。クラス所属については、前期に所属したクラスの継続を基本とするが、受講生の申し出により初級クラスと中級クラス間の所属クラス変更を時期を定めて認めることもある。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

### 講義スケジュール

内容	キーワード
【初級】第1回 総括的導入講義	
第2回 人間福祉・専門講義 産業社会:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算	学科別専門講義
第3回 人間福祉:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算 産業社会:専門講義	学科別専門講義
第4回 Excel :表の編集、印刷、練習問題	表計算ソフト利用
第5回 Excel :表を自分で作成する、グラフ作成	表計算ソフト利用
第6回 Excel :グラフ作成、練習問題(グラフ)	表計算ソフト利用
第7回 Excel :データベース、総合練習	表計算ソフト利用
第8回 Excel :筆記、実技(Excel表計算、グラフ作成)	表計算ソフト利用
第9回 PowerPoint :プレゼン基礎知識、見本プレゼン、基本操作、プレゼン構成、スライド作成	プレゼンテーション
第10回 PowerPoint :スライド作成、プレゼンテーションの加工(編集・オートライン機能)	プレゼンテーション
第11回 PowerPoint :プレゼンテーションの加工(表の作成、グラフの作成、ワードアート、クリップアート、オートシェイプ、図表について)	プレゼンテーション
第12回 PowerPoint :プレゼンテーション(図表の練習)、スライドの配布資料の印刷、画面切替効果、アニメーション設定、自作作成	プレゼンテーション
第13回 PowerPiont :発表の技術、発表、データの提出	プレゼンテーション
第14回 HP作成:HP作成に必要な知識、HTML実習	ホームページ作成
第15回 最終講義日試験	
【中級】第1回 総括的導入講義	
第2回 人間福祉・専門講義 産業社会:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算	学科別専門講義
第3回 人間福祉:Excel 基本操作、データ入力・編集、計算 産業社会:専門講義	学科別専門講義
第4回 Excel :表の編集、印刷、練習問題	表計算ソフト利用
第5回 Excel :表を自分で作成する、グラフ作成	表計算ソフト利用
第6回 Excel :Wordとの連携	表計算ソフト利用
第7回 Excel :Wordとの連携、データベース、総合練習	表計算ソフト利用
第8回 Excel :筆記、実技(Excel表計算、グラフ作成)	表計算ソフト利用



第9回	PowerPoint : プレゼン基礎知識、見本プレゼン、基本操作、プレゼン構成、スライド作成	プレゼンテーション
第10回	PowerPoint : スライド作成 プレゼンテーションの加工 (編集・アウトライン機能)	プレゼンテーション
第11回	PowerPoint : プレゼンテーションの加工 (表の作成、グラフの作成、ワードアート、クリップアート、オートシェイプ、図表について)	プレゼンテーション
第12回	PowerPoint : プレゼンテーション (図表の練習)、スライドの配布資料の印刷、画面切替効果、アニメーション設定、自主作成	プレゼンテーション
第13回	PowerPoint : 発表の技術、発表、データの提出	プレゼンテーション
第14回	HP作成: HP作成に必要な知識、HTML実習	ホームページ作成
第15回	最終講義日試験	

テキスト

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
Word2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
Excel2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
PowerPoint2002テキスト	/ 富士通ラーニングメディア /
Rainbow Guide	/ 総合情報センター /

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。 ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 今村 悟

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内 容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11講～第15講] まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 川口 晋一

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内 容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11講～第15講] まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 今村 悟

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11講～第15講] まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 上 英俊

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11講～第15講] まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 今村 悟

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内 容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11講～第15講] まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 長谷川 豪志

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11講～第15講] まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

[第11講～第15講] まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 鴫田 佳津子

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11講～第15講] まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。



授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 今村 悟

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内 容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11講～第15講] まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 長谷川 豪志

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11講～第15講] まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 鴫田 佳津子

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11講～第15講] まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 藤田 太郎

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

##### 事前登録科目

「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11講～第15講] まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 藤田 茂

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内 容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11講～第15講] まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 草深 直臣

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11講～第15講] まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 藤田 茂

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11講～第15講] まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 藤田 太郎

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11講～第15講] まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。



授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 草深 直臣

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11講～第15講] まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 藤田 茂

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11講～第15講] まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 稲岡 純史

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11講～第15講] まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 藤田 茂

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11講～第15講] まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 稲岡 純史

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11講～第15講] まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 牧田 佳子

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11講～第15講] まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 平野 嘉彦

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11講～第15講] まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 中西 康人

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11講～第15講] まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。



授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 稲岡 純史

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11講～第15講] まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 中西 康人

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11講～第15講] まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 平野 嘉彦

#### 講義内容・テーマ

スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11講～第15講] まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 今村 悟

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲームや試合などを通して、チームや個人々の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11講～第15講] まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 川口 晋一

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲームや試合などを通して、チームや個人々の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11講～第15講] まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 今村 悟

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲームや試合などを通して、チームや個人々の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11講～第15講] まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 上 英俊

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11講～第15講] まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 今村 悟

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲームや試合などを通して、チームや個人々の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11講～第15講] まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。



授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 長谷川 豪志

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲームや試合などを通して、チームや個人々の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11講～第15講] まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 鶴田 佳津子

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲームや試合などを通して、チームや個人々の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11講～第15講] まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 藤田 太郎

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11講～第15講] まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 藤田 茂

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲームや試合などを通して、チームや個人々の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11講～第15講] まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 草深 直臣

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11講～第15講] まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 藤田 茂

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11講～第15講] まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 藤田 太郎

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲームや試合などを通して、チームや個人々の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11講～第15講] まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 草深 直臣

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲームや試合などを通して、チームや個人々の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11講～第15講] まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。



授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 藤田 茂

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲームや試合などを通して、チームや個人々の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11講～第15講] まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 稲岡 純史

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲームや試合などを通して、チームや個人々の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11講～第15講] まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 藤田 茂

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲームや試合などを通して、チームや個人々の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11講～第15講] まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 稲岡 純史

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11講～第15講] まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 牧田 佳子

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲームや試合などを通して、チームや個人々の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11講～第15講] まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 中西 康人

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11講～第15講] まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 平野 嘉彦

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11講～第15講] まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 稲岡 純史

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲームや試合などを通して、チームや個人々の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11講～第15講] まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。



授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 中西 康人

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲームや試合などを通して、チームや個人々の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11講～第15講] まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 平野 嘉彦

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲームや試合などを通して、チームや個人々の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11講～第15講] まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 今村 悟

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲームや試合などを通して、チームや個人々の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11講～第15講] まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 長谷川 豪志

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲームや試合などを通して、チームや個人々の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11講～第15講] まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照  
 担当教員 鞆田 佳津子

#### 講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
[第1講] ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2講～第4講] 導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5講～第10講] 展開:ゲームや試合などを通して、チームや個人々の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11講～第15講] まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

#### テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

#### 参考書

授業中必要に応じて紹介する

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

イタリアの言語と文化・入門 LA  
 ヴィジョン形成特殊講義(イタリア言語と文化・入 LA  
 特殊講義(イタリアの言語と文化・入門) GA

13205

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 1~4  
 担当教員 ANNA RUGGERI

### 講義内容・テーマ

イタリアの文化を理解するためには、キリスト教を知る必要がある。なぜなら、国の宗教として国民の考え方、習慣と伝統の中に生きており、そして町の建築や美術の作品の中にも多く見られるからである。この授業の目的はキリスト教の根源からこの宗教の発展と変化、そしてそのイタリア文化との関連を分析・紹介することである。その中で、特にイタリアの歴史におけるローマカトリック教会の役割は非常に重要であったので、それについて考察しながら、イタリアの文学や美術におけるその影響を紹介したい。同時に、イタリアの宗教家の中でアッシジのサン・フランチェスコやサン・ベネデットのようないタリアの宗教者とそれらの思想について論じたい。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

イタリアの文化と比較文化学に対して興味を持つ学生が望ましい。しかし、この授業は「イタリアの言語と文化・基礎」「イタリアの言語とコミュニケーション・基礎」を受講している学生のための入門講義である。従って、受講者は上記の科目を受講していることが好ましい。この授業は将来イタリアの文化を研究する者に役立つような情報、知識を与えることを目的としている。観光情報的なものを期待している人にはやや難しいかもしれないので、注意して下さい。

政策科学部 配当回生: 1回生のみ

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	70 %	最後の授業においてレポートの発表も行う
日常点(小テスト)	15 %	場合によって、様々な感想文を書くことになる
その他	15 %	できるだけ出席することが望ましい

\*試験に代わるレポートとして実施

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
イタリアの文化におけるキリスト教の影響とその重要性について説明を行う。	
特に歴史、文学、美術という分野におけるキリスト教の発展を分析してから、	
具体的にダンテの『神曲』、ミケランジェロやラファエッロの作品を様々な教材によって紹介する。	
さらに、アッシジのサン・フランチェスコやサン・ベネデットのようないタリアの宗教者と彼らの思想について論じる。	
さらに現代のイタリア人の宗教観についても考察しながら、学生の意見と感想も求める。	

### テキスト

授業内において配布するプリント等。

### 参考書

教室でそのつど参考書を指示する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

第1回授業の前に、総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

イタリアの言語と文化・基礎 LA  
 ヴィジョン形成特殊講義(イタリア言語と文化・基 LA  
 特殊講義(イタリアの言語と文化・基礎) GA

13809

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 1~4  
 担当教員 遠藤 礼子

### 講義内容・テーマ

イタリア語の基礎を学ぶクラスです。簡単なイタリア語を聞き読み話し書けるようになることを目標とします。授業はグループでのゲームや口頭演習を通して、語彙・語形・文型を身に付けていきます。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

イタリア語を全く・ほとんど学習したことのない人向けのクラスです。文学部の学生で初修外国語のイタリア語(基礎、展開、表現、応用)を受講している学生は、この授業を受講しないようにして下さい。過去に、「イタリア語・基礎」や「イタリアの言語と文化・基礎」を受講したけれども、すっかり忘れてしまったから、もう一度一からやりなおしたい、という人は、やる気があるなら受講可です。

じっと座って、ただ話を聞いていただけの人、板書をノートに写しただけの人は参加しないでください。忘れることや間違えることを恐れず、積極的に参加できる人の参加を希望します。やれば出来ることしかしないので、やる前から「出来な~い」「分からな~い」等と言うことは禁止します。もし実際やってみてわからないことがあれば、質問してください。

出来るだけ出席することが求められます。さらに、授業を復習することが評価されるので、注意してください。

政策科学部 配当回生: 1回生のみ

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	

### 講義スケジュール

#### テキスト

書名	著者/出版社/ISBNコード
イタリア語ひとさら	遠藤礼子, 三宅剛 / 白水社 / 4-560-01757-3

#### 参考書

書名	著者/出版社/ISBNコード
ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典	/ 小学館 / 40-9506-121-9
伊和中辞典	/ 小学館 / 40-9515-402-0
和伊中辞典	/ 小学館 / 40-9515-451-9
電子辞書 XD-H7400, XD-L7450	/ カシオ /

辞書は、持ち歩くには、ポケットプログレッシブ、しっかり調べるには『伊和中辞典』。お金のない人は、ポケットプログレッシブだけ買って、あとは図書館で調べという手もある。和伊中は、作文をがしがしやりたい人には必須だが、普通の人には、必要ときに図書館で利用すれば充分だろう。

電子辞書はカシオとセイコーのものが、いずれも小学館の伊和中と和伊中が入っているが、セイコーのものには動詞変化表が入っていないので勧められない。

このクラスだけをとれば、辞書はなくても参加できるが、ポケットプログレッシブくらいは買っておきたいところ。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

<http://reiko-e-web.hp.infoseek.co.jp/>

#### その他

イタリア文化講読 L  
 ヴィジョン形成特殊講義(イタリア文化講読 LA  
 特殊講義(イタリア文化講読 ) GA

13811

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 2~4  
 担当教員 遠藤 礼子、石田 美紀

### 講義内容・テーマ

前期(石田)と後期(遠藤)で担当者と内容が異なるが、通年のクラスである。

[前期]

前期は、映画に関するイタリア語文献を講読する。文法の確認とテキストの読解に加え、イタリア映画史の基礎知識、およびシナリオ等で使われる表現を学ぶことを目標とする。

[後期]

後期は、白地に赤のブチの犬、ピンバの漫画を使って、訳や作文、発表、芝居などを行う。イタリア語の基本的な構文を、体で覚えることを目標とする。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

[全般]

「イタリア語・基礎」や「イタリアの言語と文化・基礎」と同等の知識のある人向けのクラスです。イタリア語の文法を全く知らない人は参加しないでください。

具体的には「イタリア語・基礎」等の単位のあるなしにかかわらず、下記程度のイタリア語の意味が、辞書を引かなくても分かる人は参加資格があります。

Dove vai? - Vado a scuola.

Ho mangiato una pizza ieri.

Posso prendere questo? - Sì.

Che cosa facevi adesso? - Guardavo la tv.

[前期]

イタリア映画をはじめとするイタリア文化に興味をもつ学生が望ましい。講義中には多数映画作品のクリップを上映するが、積極的に映画を観ること、イタリア語へ関心をもつことが求められる。

[後期]

積極的に活動に参加することを求めます。やる前から「出来な～い」「分からな～い」等と言うことは禁止です。

政策科学部 配当回生: 2回生のみ

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	

前期の点と後期の点を足して2で割って、通年の評価とします。

[前期]

平常点で評価する。適宜小レポートの提出を求める。また期末にレポート課題をだす。

評価の配分は小レポート30%、期末レポート課題70パーセントである。

[後期]

平常点で評価する。

### 講義スケジュール

内 容

キーワード

具体的なスケジュールは講義初日に指示する

### テキスト

### 参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
Pimpa tante piccole storie	Altan / Franco Panini Cosimo / 88-8290-612-4
ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典	/ 小学館 / 40-9506-121-9
伊和中辞典	/ 小学館 / 40-9515-402-0
和伊中辞典	/ 小学館 / 40-9515-451-9
電子辞書 XD-H7400, XD-L7450	/ カシオ /

Pimpaは後期の参考文献。

辞書は、持ち歩くには、ポケットプログレッシブ、しっかり調べるには『伊和中辞典』。お金のない人は、ポケットプログレッシブだけ買っ



て、あとは図書館で調べるという手もある。和伊中は、作文をがしがしやりたい人には必須だが、普通の人は、必要なときに図書館で利用すれば充分だろう。

電子辞書はカシオとセイコーのものが、いずれも小学館の伊和中と和伊中が入っているが、セイコーのものには動詞変化表が入っていないので勧められない。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

後期

<http://www.pimpa.it/>

<http://reiko-e-web.hp.infoseek.co.jp/>

#### その他

イタリアの言語とコミュニケーション・基礎 LA  
ヴィジョン形成特殊講義(イタリア言語とコミュ・基礎 LA  
特殊講義(イタリアの言語とコミュニケーション・基礎) GA

13836

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 1~4  
担当教員 Marcella CROCE、SERGIO PELA

#### 講義内容・テーマ

The purpose of this course, mainly based on conversation, is to supply the linguistic instruments to discover some aspects of Italian culture and way of life. During the course various subjects will be discussed with the support of newspaper articles, extracts from Italian authors and material supplied by teacher depending on the students' proficiency in Italian and for the purpose of developing it

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

政策科学部 配当回生: 1回生のみ

文学部の学生で初修外国語のイタリア語(基礎、展開、表現、応用)を受講している学生は、この授業を受講しないようにして下さい。正しいイタリア語の発音と多数の新しい言葉を覚えるために、イタリア人講師の会話を聞く、そしてそれを真似することが重要であるので、出来るだけ出席することが求められる。さらに、授業を復習することが評価されるので、注意して下さい。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	35 %	
日常点(小テスト)	65 %	

Attendance and participation will be considered very important.

#### 講義スケジュール

#### テキスト

Photocopies will be supplied by teacher.

#### 参考書

Italian-Japanese and Japanese-Italian dictionary is required.

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

第1回授業の前に、総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

イタリアの言語と文化・基礎 LB  
 ヴィジョン形成特殊講義(イタリア言語と文化・基 LB  
 特殊講義(イタリアの言語と文化・基礎) GB

13840

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 1~4  
 担当教員 ANTONIO MAJERU

講義内容・テーマ

授業で習うイタリア語文法基礎を日常会話に応用しながら、イタリア文化と日本文化の相違に関して、議論する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

政策科学部 配当回生: 1回生のみ

文学部の学生で初修外国語のイタリア語(基礎、展開、表現、応用)を受講している学生は、この授業を受講しないようにして下さい。出来るだけ出席することが求められる。さらに、授業を復習することが評価されるので、注意してください。

評価方法・基準

出席率、授業への参加度、期末テストの結果による評価

講義スケジュール

内 容	キーワード
発音・主語代名詞	
動詞essereとavereの現在形	
動詞andareとvenire	
前置詞の用法	
冠詞	
規則動詞の現在形	
不規則動詞の現在形	
形容詞の合わせ方	
動詞piacereの用法	
従属動詞potere, dovere, volere	
間接代名詞	
指示形容詞・指示代名詞	
助動詞avereを使った過去形	
過去分詞の作り方	
不規則過去分詞	
助動詞essereを使った過去形	
半過去	
動詞essereとfareの半過去	
所有代名詞・所有形容詞	
命令形	
非人称動詞	
不定代名詞・直接代名詞	
接続詞の用法	
進行形	
規則動詞と不規則動詞の未来系	
副詞・冠詞前置詞	
条件法	
仮説文	

テキスト

授業中にプリントを配布する。

参考書

教室で指示する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

尚、文学部の初修外国語(イタリア語・基礎、展開、表現、応用)を受講している学生は、この授業を受講しないようにしてください。

イタリアの言語とコミュニケーション応用 LA  
 ヴィジョン形成特殊講義(イタリア言語とコミュ応用 LA  
 特殊講義(イタリアの言語とコミュニケーション・応用 ) GA

13953

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 2~4  
 担当教員 Marcella CROCE、SERGIO PELA

#### 講義内容・テーマ

The purpose of this course, mainly based on conversation, is to improve and develop the students' ability in understanding, speaking and reading the Italian language and thus to acquire some knowledge of Italian culture and way of life. Current events, topics related to general culture, the Italian world and the youth in general will be discussed according to the students' knowledge of the Italian language and for the purpose of improving it.

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業はイタリア語の既修者向けであるので、全くの初心者を受講は認められない。  
 自分の語学能力に自信のないものは、事前に教に相談すること。イタリアの言語と文化に興味があり、積極的に会話に取り組む学生が望ましい。  
 学生の積極的な参加および出席が求められる。さらに、授業の準備が必要なので、注意して下さい。

政策科学部 配当回生: 2回生のみ

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	35 %	
日常点 (小テスト)	65 %	

\* 定期試験として実施

\* 日常点評価

Attendance and participation will be considered very important.

#### 講義スケジュール

#### テキスト

Photocopies will be supplied by teacher.

#### 参考書

Italian-Japanese and Japanese-Italian dictionary is required.

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

イタリアの言語とコミュニケーション応用 LB  
 ヴィジョン形成特殊講義(イタリア言語とコミュ応用 LB  
 特殊講義(イタリアの言語とコミュニケーション・応用 ) GB

13955

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 2~4  
 担当教員 Marcella CROCE、SERGIO PELA

#### 講義内容・テーマ

The purpose of this course, mainly based on conversation, is to improve and develop the students' ability in understanding, speaking and reading the Italian language and thus to acquire some knowledge of Italian culture and way of life. Current events, topics related to general culture, the Italian world and the youth in general will be discussed according to the students' knowledge of the Italian language and for the purpose of improving it.

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業はイタリア語の既修者向けであるので、全くの初心者の受講は認められない。  
 自分の語学能力に自信のないものは、事前に教に相談すること。イタリアの言語と文化に興味があり、積極的に会話に取り組む学生が望ましい。  
 学生の積極的な参加および出席が求められる。さらに、授業の準備が必要なので、注意して下さい。  
 政策科学部 配当回生: 2回生のみ

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	35 %	
日常点(小テスト)	65 %	
* 定期試験として実施		
* 日常点評価		
Attendance and participation will be considered very important.		

#### 講義スケジュール

#### テキスト

Photocopies will be supplied by teacher.

#### 参考書

Italian-Japanese and Japanese-Italian dictionary is required.

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

イタリアの言語とコミュニケーション・基礎 LB  
 ヴィジョン形成特殊講義(イタリア言語とコミュ・基礎 LB  
 特殊講義(イタリアの言語とコミュニケーション・基礎) GB

14006

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 1~4  
 担当教員 ANTONIO MAJERU

### 講義内容・テーマ

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

政策科学部 配当回生: 1回生のみ

文学部の学生で初修外国語のイタリア語(基礎、展開、表現、応用)を受講している学生は、この授業を受講しないようにして下さい。  
 正しいイタリア語の発音と多数の新しい言葉を覚えるために、イタリア人講師の会話を聞く、そしてそれを真似することが重要であるので、  
 出来るだけ出席することが求められる。さらに、授業を復習することが評価されるので、注意して下さい。

### 評価方法・基準

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
自己紹介・挨拶	
紹介する・自分に関して話す・ご馳走する	
情報を聞く・感謝する	
許可を求める	
好みに関して話す	
提案する・注文する	
意見を聞く・リクエストする	
道を尋ねる・案内する	
お願いする・疑いを表現する	
買い物をする	
物を比較する	
旅行を語る	
招待する	
招待を受け入れる	
説得する	
時間を言う	
アドバイスする	
自分の習慣に関して話す	
意見や希望などを表現する	
ホテルを予約する	
旅行を計画する	
物の値段を訪ねる	
約束をする・待ち合わせを決める	
義務を表現する	
電車の切符を買う	
スケジュールを教える	
自分の一日を語る	
口答試験	

### テキスト

イタリア語の日常会話の基礎を学ぶ。

### 参考書

教室で指示する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

尚、文学部の初修外国語(イタリア語・基礎、展開、表現、応用)を受講している学生は、この授業を受講しないようにしてください。



イタリア文化講読 L  
 ヴィジョン形成特殊講義(イタリア文化講読 LA  
 特殊講義(イタリア文化講読 ) GA

14178

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 3~4  
 担当教員 遠藤 礼子

#### 講義内容・テーマ

歌,新聞記事,フォトマンゾ,漫画,アニメ,映画,小説,雑誌等,イタリア人が読む本物の生のイタリア語をいろいろ体験します.どんなタイプのイタリア語も読めるようになることが基本的な目標ですが,歌のときは,歌えるようになること,アニメや映画等のときは,演じること,小説等のときは,朗読できるようになることも目標とします.

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業はイタリア語の既修者向けであるので,全くの初心者受講は認められない.  
 自分の語学能力に自信のないものは,事前に教員に相談すること.  
 イタリアの文学とその文献に関して興味を持つ学生が望ましい.  
 学生の積極的な参加および出席が求められる。さらに,授業の準備が必要なので,注意して下さい

政策科学部 配当回生:3回生のみ

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点(小テスト)	100%	

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
4~5回ごとにジャンルを変えて行くので,通年で6ジャンルくらいを制覇する予定です.随時,参加者の希望も取り入れていきます.	

#### テキスト

#### 参考書

書名	著者/出版社/ISBNコード
ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典	/小学館/40-9506-121-9
伊和中辞典	/小学館/40-9515-402-0
和伊中辞典	/小学館/40-9515-451-9
電子辞書 XD-H7400, XD-L7450	/カシオ/

辞書は,持ち歩くには,ポケットプログレッシブ,しっかり調べるには『伊和中辞典』.お金のない人は,ポケットプログレッシブだけ買って,あとは図書館で調べるという手もある.和伊中は,作文をがしがしやりたい人には必須だが,普通の人は,必要なときに図書館で利用すれば充分だろう.

電子辞書はカシオとセイコーのものがあ,いずれも小学館の伊和中と和伊中が入っているが,セイコーのものには動詞変化表が入っていないので勧められない.

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

<http://reiko-e-web.hp.infoseek.co.jp/>

#### その他

イタリアの言語とコミュニケーション応用 LA  
 ヴィジョン形成特殊講義(イタリア言語とコミュ応用 LA  
 特殊講義(イタリアの言語とコミュニケーション・応用 ) GA

14179

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 3~4  
 担当教員 Marcella CROCE、SERGIO PELA

#### 講義内容・テーマ

The purpose of this course, mainly based on reading passages supplied by teacher, conversation and practice through little compositions and exercises to be done during each lesson and at home, is to develop the students' ability in understanding, speaking and writing the Italian language and thus to increase their knowledge of Italian culture and way of life. Various subjects as books, music, films, youth, the contemporary world and aspect of Italy will be examined and discussed according to the students' knowledge of the Italian language and for the purpose of improving it.

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業はイタリア語の既修者向けであるので、全くの初心者の受講は認められない。自分の語学能力に自信のないものは、事前に教に相談すること。イタリアの言語と文化に興味があり、積極的に会話に取り組む学生が望ましい。学生の積極的な参加および出席が求められる。さらに、授業の準備が必要なので、注意して下さい。

政策科学部 配当回生: 3回生のみ

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	35 %	
日常点 (小テスト)	65 %	

\* 定期試験として実施

\* 日常点評価

Attendance and participation will be considered very important.

#### 講義スケジュール

#### テキスト

Photocopies will be supplied by teacher.

#### 参考書

Italian-Japanese and Japanese-Italian dictionary is required.

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

イタリアの言語と文化・入門 LB  
 ヴィジョン形成特殊講義(イタリア言語と文化・入 LB  
 特殊講義(イタリアの言語と文化・入門) GB

15178

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 1~4  
 担当教員 ANNA RUGGERI

### 講義内容・テーマ

イタリアの文化を理解するためには、キリスト教を知る必要がある。なぜなら、国の宗教として国民の考え方、習慣と伝統の中に生きており、そして町の建築や美術の作品の中にも多く見られるからである。この授業の目的はキリスト教の根源からこの宗教の発展と変化、そしてそのイタリア文化との関連を分析・紹介することである。その中で、特にイタリアの歴史におけるローマカトリック教会の役割は非常に重要であったので、それについて考察しながら、イタリアの文学や美術におけるその影響を紹介したい。同時に、イタリアの宗教家の中でアッシジのサン・フランチェスコやサン・ベネデットのようないタリアの宗教者とそれらの思想について論じたい。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

イタリアの文化と比較文化学に対して興味を持つ学生が望ましい。しかし、この授業は「イタリアの言語と文化・基礎」「イタリアの言語とコミュニケーション・基礎」を受講している学生のための入門講義である。従って、受講者は上記の科目を受講していることが好ましい。この授業は将来イタリアの文化を研究する者に役立つような情報、知識を与えることを目的としている。観光情報的なものを期待している人にはやや難しいかもしれないので、注意して下さい。

政策科学部 配当回生: 1回生のみ

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	70 %	最後の授業においてレポートの発表も行う
日常点(小テスト)	15 %	場合によって、様々な感想文を書くことになる
その他	15 %	できるだけ出席することが望ましい

\*試験に代わるレポートとして実施

### 講義スケジュール

#### 内 容

#### キーワード

イタリアの文化におけるキリスト教の影響とその重要性について説明を行う。

特に歴史、文学、美術という分野におけるキリスト教の発展を分析してから、

具体的にダンテの『神曲』、ミケランジェロやラファエッロの作品を様々な教材によって紹介する。

さらに、アッシジのサン・フランチェスコやサン・ベネデットのようないタリアの宗教者と彼らの思想について論じる。

さらに現代のイタリア人の宗教観についても考察しながら、学生の意見と感想も求める。

### テキスト

授業内において配布するプリント等。

### 参考書

教室でそのつど参考書を指示する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

第1回授業の前に、総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

人文科学総合講座特殊講義 LA

10458

特殊講義(総合) GA

特殊講義(基礎) TB

特殊講義(基礎)1 C

ビジョン形成特殊講義 GA

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 1~8  
 担当教員 本郷 真紹、秋田 典昭、北村 敏泰

## 講義内容・テーマ

9・11テロ以降の世界、またカルト事件が相次ぐ国内を見ても、今日の世界、社会情勢を分析する際、宗教は最も重要な視点となる。社会構造の複雑化、激変に伴って「心の時代」が叫ばれ、宗教的癒しやスピリチュアリティの理解が求められる現代、巨大教団の管長から社会活動に寺院を開放する最先端の実践者まで、多彩な講師陣の講義で、異文明の相互理解、時代の迷宮へと分け入る手引としての宗教の現代的側面を幅広く学ぶ。

前期は伝統宗教を中心とした講師陣で展開する。前期・後期と両方受講することが望ましい。

なお、この講師陣でリレー講義を実施するのは、2005年度限りであるので注意すること。

## 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

激動期の現代、幅広く宗教への理解を持つことは、特定の信仰、その有無に関係なく極めて重要だ。国際交流の時代、例えば生命倫理問題など理科系でも、世界や自国の文化基盤としての宗教の知識は不可欠だ。

## 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	50 %	
日常点(小テスト)	50 %	出席を取る

## 講義スケジュール

内容	キーワード
大谷 光真(浄土真宗本願寺派・西本願寺門主)「現代社会と宗教」。門信徒は約一千万人。社会的影響力も強い最大の伝統仏教教団を導く。	現代社会と宗教
高橋 卓志(神宮寺住職)「地域社会における寺院の役割 いのちのケア」。寺を市民運動の拠点とした先駆的取り組みから。	地域社会における寺院の役割 いのちのケア
坂口 博翁(真言宗大覚寺派宗務総長)「空海・弘法大師、嵯峨天皇と現代」。平安の昔に世界情勢に目を向けた国際人空海の現代性を探る。	空海・弘法大師、嵯峨天皇と現代
対本 宗訓(元臨済宗仏通寺派管長)「禅僧が医師をめざす理由」。現代科学の到達地平と宗教が明らかにする真理との符合点とは	禅僧が医師をめざす理由
河野 太通(前臨済宗妙心寺派祥福寺僧堂師家・元花園大学長)「日本仏教と戦争 懺悔と今後」。「アジアの友を支援する会」で国際ボランティア活動も。	日本仏教と戦争 懺悔と今後
水谷 幸正(浄土宗宗務総長・元佛教大学長)「21世紀 共生の時代」。テロと戦争の時代に、人と人とのつながり、宗教の役割を探る。	21世紀 共生の時代
安田 暎胤(薬師寺管主)「心の復興 現代世相における宗教の意味」。宗教間の対話、世界平和運動も進める。	心の復興 現代世相における宗教の意味
秋田 光彦(大蓮寺住職、應典院主幹)「アート・オブ・ライフ 劇場寺院による地域創造」。寺を本来の地域交流、社会活動の場に。	アート・オブ・ライフ 劇場寺院による地域創造
小林 隆彰(延暦寺学問所長、元延暦寺執行)「宗教者の務めとしての対話、相互理解」。「比叡山世界宗教サミット」の運営責任者として。	宗教者の務めとしての対話、相互理解
森本 公誠(華嚴宗管長、東大寺別当)「イスラムから仏教を見る」。各宗教には、人の平安を求める倫理観で共通する部分がある。	イスラムから仏教を見る
森 清範(清水寺貫主)「現代を生きる 清水の心」。全世界を見通すスーパースターとしての観世音菩薩の救いとは。	現代を生きる 清水の心
早水 日秀(日蓮宗池上本門寺執事)「現代人の宗教心覚醒のために」。混迷する現代社会を変革する力を、一人一人が内在的に持つ。	現代人の宗教心覚醒のために
梶田 真章(法然院住職)「サンガ 縁を紡ぐ」。有数の「イベント寺院」は現代に宗教の真の役割を問う。	サンガ 縁を紡ぐ
有馬 頼底(臨済宗相國寺派管長)「伝統文化に生きる禅の思想」。北山文化を代表する金閣寺から古都の景観保全問題まで。	伝統文化に生きる禅の思想

まとめの講義を実施

---

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

人文科学総合講座特殊講義 LI  
 特殊講義(総合) GB  
 特殊講義(基礎) TA  
 特殊講義(基礎)2 C  
 ヴィジョン形成特殊講義 GB

10552

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 1~8  
 担当教員 本郷 真紹, 秋田 典昭, 吉島 一彦

### 講義内容・テーマ

9・11テロ以降の世界、またカルト事件が相次ぐ国内を見ても、今日の世界、社会情勢を分析する際、宗教は最も重要な視点となる。社会構造の複雑化、激変に伴って「心の時代」が叫ばれ、宗教的癒しやスピリチュアリティの理解が求められる現代、巨大教団の管長から社会活動に寺院を開放する最先端の実践者まで、多彩な講師陣の講義で、異文明の相互理解、時代の迷宮へと分け入る手引としての宗教の現代的側面を幅広く学ぶ。

後期は、伝統宗教以外の講師陣も交え、展開する。前期・後期と両方受講することが望ましい。

なお、この講師陣でリレー講義を実施するのは、2005年度限りであるので注意すること。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

激動期の現代、幅広く宗教への理解を持つことは、特定の信仰、その有無に関係なく極めて重要だ。国際交流の時代、例えば生命倫理問題など理科系でも、世界や自国の文化基盤としての宗教の知識は不可欠だ。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	50 %	
日常点(小テスト)	50 %	出席を取る

### 講義スケジュール

内容	キーワード
野村 純一(カトリック名古屋教区司教)「キリスト教と社会活動」。イラク戦争でも見せたローマカトリックの世界戦略と地域活動。	キリスト教と社会活動
福島 慶道(臨済宗東福寺派管長)「グローバリズム時代の救い 宗教」。神は悟りの宗教、それが国家の慈悲や愛にもつながる。	グローバリズム時代の救い 宗教
園田 稔(秩父神社宮司・京都大学名誉教授)「現代の生命観と宗教」。地球はガイア、つまり多くの生物、生命体の調和で成り立つ。	現代の生命観と宗教
村上 密(アッセンブリー京都教会牧師)「カルトからの救出 マインドコントロールの被害と克服」。オウム信者の脱会ケア活動から。	カルトからの救出 マインドコントロールの被害と克服
島山 友利(WCRP - 世界宗教者平和会議日本委員会 - 事務次長)「世界平和に果たす宗教者の役割」。世界諸宗教が国や教義の違いを超え平和のため協力する。	世界平和に果たす宗教者の役割
高口 恭行(一心寺長老)「都市寺院の現代的役割」。建築家、都市デザイン家として芸術活動や町づくりにも取り組む。	都市寺院の現代的役割
多川 俊映(法相宗管長、興福寺貫首)「現代と仏教 組織と情報を排除できるか」。すべてが空とする仏教哲学は単なる抽象的観念論ではない。	現代と仏教 組織と情報を排除できるか
菅原 信海(早大名誉教授、京都妙法院門跡門主)「日本の神仏信仰の現代的意義」。長く日本人の精神文化の基礎にあった神仏習合の本質は。	日本の神仏信仰の現代的意義
田中 利典(金峯山修験本宗宗務総長、金峯山寺執行長)「多様性の精神 世界遺産の霊場から」。修験道の幅広い信仰の精神が恒久平和への道を示す。	多様性の精神 世界遺産の霊場から
櫻原 禅澄(真言宗善通寺派総長、執行長)「現代の遍路行 救い」。20万人が訪れる四国遍路。苦難の巡礼による霊的体験、癒しの原点は。	現代の遍路行 救い
安永 祖堂(天龍寺国際禅堂師家)「霊性交渉による宗教対話」。雲水とカトリック修道士が共に瞑想修行して相互理解を求める。	霊性交渉による宗教対話
松島 如戒(生前契約 - リすシステム - 代表)「生と死の意思表示」。エンディングケアとしての自己決定の契約は究極のライフスタイル。	生と死の意思表示
大野 玄妙(聖徳宗管長、法隆寺住職)「対立から和の心へ」。聖徳太子の「和を以て貴しとなす」との思想の現代的展開はいかに。	対立から和の心へ

安原 晃(真宗大谷派・東本願寺参務)「現代に生きる教え」。ラディカルな教団改革を経て社会改革を目指す同朋会運動の意義とは。

現代に生きる教え

-----  
まとめの講義を実施  
-----

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 原見 忠彦

講義内容・テーマ

テ - マは「身近な物理の世界を探る」、日常「美しい、すばらしい、どうしてだろう」と感じる自然現象に出あうことは多い。また新聞やテレビのニュースにおいてレベルの高い難解な科学技術用語が、あたかも常識かのように頻りに引用される。それらの現象や用語の中から物理学に関する話題を選び講義を進める。話題を絞り平易に説明を加えて自然現象を理解し、日常生活がより興味を持って楽しくなるものになりたい。現象的な理解を深めるために、講義の内容に沿った実験を適宜行う予定である。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

高校において物理を学習しなかった学生を念頭において講義する。各回ごとにテ - マを設定するが複数回にわたる理解が必要となることがある。数式による理解は強制しない。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
日常点 (小テスト)	100 %	最終講義試験および各講義中に適宜演習等を行い、その評価を加算する。

演習や試験の内容は基本的な物理現象の説明ができるか、重要な科学用語の知識が持てたか、加えて科学的な想像力を問う。

講義スケジュール

内 容	キーワード
物理学の目指すもの、講義の概要	
晴天の日の空は青く夕日はなぜ赤い	光の散乱
虹の色、屋気楼	光の屈折
平面に映る立体画像、光学的錯覚	視覚
太陽、水銀灯、オ - ロラの光、ディスプレイの仕組み	発光の原理
光って何だろう	光の粒子性、波動性
光の速さはどのようにして測定する	物理量の測定と単位
重力加速度の測定	力、測定値と誤差
原子を見る	原子の構造
光を感じない半導体	半導体の構造
新エネルギー - と呼ばれる燃料電池	発電と電気の蓄積
低温はどのようにして作られる	温度と熱
宙に浮かぶ物体リニア - モ - タ - カ -	極低温の世界、磁場
最終講義試験	
予備日	

テキスト

各講義ごとに資料を配布しテキストは用いない。

参考書

講義の中で各回ごとに5～10点の参考書、WWWページなどを紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他



授業開講期間 前期

単位数 2

担当回生 1~2

担当教員 福岡 政行

## 講義内容・テーマ

- 「日本の位置－2005年－」－現代日本政治の構造分析－  
 序章 政治<学>へのプレリュード－現場主義(on the spot)こそ原点－  
 仮説・検証・現場・検証  
 科学として と 学問としての政治学  
 政治は言葉でなく行動・結果(小泉政治の検証)  
 政治の型－田中角栄 土井たか子 細川護熙 小泉純一郎－  
 第一章 政党政治の限界と無党派層－政党も政治家も使い捨て！－  
 小選挙区比例代表制  
 自民・民主の二大政党時代  
 公明・共産・社民がどうなる  
 政権交代可能なシステムとなるか  
 無党派層は主役になれるか  
 第二章 日本の政官関係  
 霞ヶ関主権 財務省・外務省は何か  
 菅厚生大臣とHIV事件  
 族議員・陳情政治・利益誘導  
 官の自信喪失と反撃  
 政治の復権は可能か  
 第三章 リーダー不在の現状  
 小泉首相・中二階・若手  
 率い型とまとめ型  
 スペシャリストかジェネラリストか  
 ポスト小泉と野党のリーダー  
 リーダーの条件－ 耳 心 決断力－  
 第四章 アメリカと日本の距離  
 吉田茂のスタンス  
 日米安保と沖縄  
 自衛隊と憲法改正  
 イラク戦争－ブッシュ・小泉同盟－  
 日米が全てか  
 第五章 日中関係 そしてアジアの一員  
 戦前の日中の歴史  
 田中角栄と中国  
 中国の現状－政冷経熱－  
 日中は未来志向  
 アジアの一員としての日本  
 第六章 日本の財政危機－借金大国日本－  
 730兆超円の借金と赤字財政  
 国税収入に匹敵する公務員給与  
 年金一元化は可能か  
 国家予算はどうなっているのか  
 財政再建への処方箋  
 第七章 国際社会における日本の責務  
 イラク自衛隊  
 インド洋大津波－国際NGO－  
 国際貢献とは何か  
 日本版国際緊急援助隊  
 第八章 日本国憲法をどうするか  
 日本の安全保障は  
 日米安保と在日米軍  
 第9条をどうするか  
 憲法改正へのロードマップ  
 第九章 市町村合併と三位一体の改革  
 平成の大合併  
 アメとムチーアメはいつまで？－  
 三位一体の改革とは  
 地方から国を変える人々  
 第十章 虐待・いじめ・ヴァーチャル－子どもたちの今－  
 母性本能は？－虐待－  
 佐世保同級生殺人事件

ヴァーチャルの中でーメールは何をー  
人中が薬 そして 命の重さ  
第十一章 ボランティアとは  
新潟地震とインド洋大津波  
カンボジアの子どもたち  
神戸から10年  
<見たものの責任>  
終章 沈む日本の浮上等  
コミュニティの復活  
行政改革ー税金の重さー  
スローな時代へー共生社会ー

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

<u>評価方法</u>	<u>割合</u>	<u>詳細</u>
日常点 (小テスト)	100 %	

講義スケジュール

<u>内容</u>	<u>キーワード</u>
上記参照。ゲストスピーカーを招く予定もあり。	

---

テキスト

随時紹介する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 1~2  
担当教員 杉本 英昭

講義内容・テーマ

我々は日常生活において様々な科学技術の恩恵を受けている。それらの科学技術を応用した製品やシステムはソフトウェアによって制御されているものが多い。  
しかしながらソフトウェアの不具合によって、社会に様々な悪影響を与える事例が多く報告されている。  
本講義では不具合(欠陥)の無いソフトウェアを開発するために実践されている方法論を、企業の組織管理など人的資源の管理も取り上げ、現実起こった事例とともに説明を行う。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

ソフトウェアに関する知識や経験の有無は問わない。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	30 %	
日常点 (小テスト)	70 %	最終講義日試験

講義スケジュール

内容	キーワード
ソフトウェアの基礎	
ソフトウェア開発の流れ(その1)	
ソフトウェア開発の流れ(その2)	
ソフトウェア開発方法論(方法論発展の歴史)	
UML:統一モデリング言語(モデリングの例)	
ソフトウェア開発方法論(最近の話題)	
ソフトウェア開発事例(その1)	
ソフトウェア開発事例(その2)	
組込みソフトウェア(その1)	
組込みソフトウェア(その2)	
プロダクトライン工学(ソフトウェア管理)	
プロダクトライン工学(技術管理)	
プロダクトライン工学(組織管理)	
最終講義日試験	

テキスト

講義中に適宜プリントを配布する。

参考書

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
要求工学	大西 淳、郷 健太郎 / 共立出版 / 4320027825
ソフトウェア工学：プロセス・開発方法論・UML	鈴木正人 / サイエンス社 / 478191022X
ソフトウェアプロダクトライン ユビキタスネットワーク時代のソフトウェアビジネス戦略と実践	Paul Clements 他 / 日刊工業新聞社 / 4526051802
人月の神話 狼人間を撃つ銀の弾はない	Jr.,フレデリック・P. ブルックス / ピアソンエデュケーション / 4894716658

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

講義中に紹介する。

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 1以上  
担当教員 竹下 貞雄

講義内容・テーマ

昨年の10月23日のM7.0の新潟中越地震や12月26日のM9.0のスマトラ沖地震など、地球上のユーラシア・プレートとそれを取り囲む各種プレートとのせめぎ合いによる地震で土砂崩壊や津波による災害が発生し、スマトラ沖地震では15万人以上の尊い人命が失われた。地震は、各プレートの接触面での挙動によって生ずる。プレートとは土の一種である。この講義では、このような土の特性のついて解説したい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

日頃、台風や地震あるいは豪雨等による災害、あるいは救助活動に少しでも関心をもって、この講義を聞くことが望ましい。履修しておくことが望まれる科目というものは、特に無い。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	誤字がなく、正確に論述できる能力を問う。

講義スケジュール

内容	キーワード
第1編 入門編 1 土の種類	弱い土
2 土の構造	土粒子と間隙
3 土の性質	親水性
4 土の強さ	土のせん断
5 土の調査法	土の強度指数
第2編 応用編 6 ビサの斜塔	土の圧密性
7 砂の液状化	地下水の圧力
8 杭のネガティブフリクション	杭の沈下
9 斜面崩壊(その1)	斜面の不安定性
10 斜面崩壊(その2)	断層
11 基礎構造物	支持力
12 トンネル	工法
13 軟弱地盤	強化対策
14 土の締め固め	最適含水量
15 阪神大震災による構造物の被害	災害

テキスト

プリントを配布する。

参考書

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
新しい地球観	上田誠也 / 岩波新書 1971年 /
活断層	松田時彦 / 岩波新書 1995年 /
土石流	池谷浩 / 岩波新書 1999年 /

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 3以上  
 担当教員 山本 雅和

### 講義内容・テーマ

日本考古学についての基本的な理解を得ることを目的とする。近年では「考古学」という言葉は定着し、新聞・テレビなどで発掘調査の成果が報道される機会も多い。しかしながら、考古学が如何なる学問であるのか、あるいは如何なる課題を明らかにしようとしているのかについて周知されているとは言い難い状況にある。講義では、前半で考古学の研究方法の特質について解説し、後半で近年注目を集めている各時代の研究成果を取り上げ、その概要と課題を紹介する。

### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

少なくとも、考古学に関心を持っていること。考古学に関わる報道・情報にも日常的に注目してほしい。

### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	持ち込みは不可。

原則的に期末筆記試験のみで評価するが、講義内容に関する小レポートを実施し、評価に加味する場合がある。

### 講義スケジュール

内 容	キーワード
全体の概要	
「考古学」とは？	
考古学研究の特質 1	
考古学研究の特質 2	
考古学研究の特質 3	
考古学と文化財科学	
文化財保護法と埋蔵文化財	
旧石器時代の研究	
縄文時代の研究	
弥生時代の研究 1	
弥生時代の研究 2	
古墳時代の研究 1	
古墳時代の研究 2	
歴史時代の研究	
まとめ	

### テキスト

テキストは使用しない。プリントを配布し、これに沿って講義する。

### 参考書

書 名	著者 / 出版社 / ISBNコード
岩波講座 日本考古学 1 研究の方法	/ 岩波書店 / 4-00-010261-3
岩波講座 日本考古学 7 現代と考古学	/ 岩波書店 / 4-00-010267-2

この他の参考図書・参考文献は、講義の進行に合わせて、適宜、紹介する。

### 授業の方法(大学院科目のみ)

### 参考になるWWWページ

### その他

日本列島を中心とする地域の考古学研究を対象とするので、諸外国(例えばエジプトやギリシア)の考古学研究は取り上げない。講義の進行に合わせて、内容を変更する場合がある。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 児玉 徳美

講義内容・テーマ

人は言葉を用いて、何を考え、何を主張しているのだろうか。ことばにはどのような意味や価値観が埋め込まれているのだろうか。世界・場面・対人関係にかかわる知識や文脈情報は言語活動にどのような影響を与えているのだろうか。人は通例言語を駆使できるので、それぞれ言語観を有している。しかし言語観を形成している言語認識には多くの錯誤と謎がある。価値観を含む意味を中心に、言語と人の生理的能力・思考過程・社会・文化の関係をいっしょに考えていきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
定期試験	100 %	

講義スケジュール

内容	キーワード
言語学とは何か	ことばをめぐる諸問題
意味分析の対象とその方法	意味と文脈情報、局所的と全体的
意味分析の対象とその方法	
意味と形成	価値とその表し方
意味と形成	
文構造と談話構造	生理的能力と文脈、談話と言説
文構造と談話構造	
推移	推論過程と人間のふるまい
推移	
言語と社会との関係	批判的談話分析
言語と社会との関係	
言説(の秩序)	言語観(ロゴス観とは日本人の言語観)言語政策
言説(の秩序)	
言説(の秩序)	
まとめ	

テキスト

書名	著者 / 出版社 / ISBNコード
意味分析の新展開-ことばのひろがりに応える-	児玉徳美 / 開拓者 /

参考書

随時、授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

特殊講義(茶道文化史) GA

20152

特殊講義(基礎) (茶道文化史) GA

ヴィジョン形成特殊講義(茶道文化史) GA

授業開講期間 夏集中

単位数 2

配当回生 1~8

担当教員 千 玄室、筒井 統一

講義内容・テーマ

茶道は現在、日本を代表する伝統文化として世界中に知られるようになった。しかし、一般的には未だ、礼儀作法のための稽古事という感覚でとらえる人が多い。それは茶の湯の本質と全く違った見方と言える。茶道に礼儀作法の要素が全くないとは言わないが、その本質は日本を代表する総合的な文化体系であると言える。その総合性とは、哲学的な要素などを含む点にある。

茶が日本に伝来して以来1000年以上も経過しているが、伝来した当初から文化性を備えていたわけではない。本講では、照葉樹文化を代表する嗜好飲料である茶を通して、その文化性の特色を探るとともに、わが国の飲料として伝来した茶が、日本独自の文化性を備えた茶道へと変遷していく過程を明らかにしていきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この科目は事前登録科目です。

授業期間・講義内容詳細については、6月頃に学部掲示板にて連絡します。

この科目の開講期間の最終決定が6月頃となるため、「茶道文化史」の受講希望者は他の夏期集中講義の受講を認めないものとします。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	50 %	
日常点 (小テスト)	50 %	

\*筆記試験:最終講義日に実施します。

\*日常点:加味する講義と実技への参加態度および試験により評価します。

講義スケジュール

内 容	キーワード
詳細は6月頃に学部掲示板にて連絡します。	

テキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

特殊講義(国際平和交流セミナー) GA

20167

ビジョン形成特殊講義(国際平和交流セミナー) GA

特殊講義(自由選択) (国際平和交流セミ GA

特殊講義(基礎) (国際平和交流セミナー) GA

特殊講義(基礎)1(国際平和交流セミナー) GA

授業開講期間 夏集中

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 藤岡 惇

講義内容・テーマ

ワシントンにあるアメリカン大学と本学が共同して企画・実施するものである(今回で9回目)。アメリカン大学を窓口に全米の大学および米国の水爆実験の舞台となったマーシャル諸島大学からの学生とともに実施する。2004年度ではアメリカン側の参加者は26名にもなった。

本プログラムでは、新世紀の平和創造の道を探求するために、京都での事前学習を踏まえ、広島・長崎での調査と討論の企画を主体的に学生が運営するものとする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

募集人数:12名

受講登録制限外科目とします。

4月に募集要項を掲示し、募集説明会を開催します。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	50 %	事後に提出するレポート
日常点(小テスト)	50 %	事前事後講義への参加状況、現地実習における状況

講義スケジュール内 容キーワード

別途募集説明会等で説明します。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他



特殊講義(国際平和交流セミナー) GB  
 ヴィジョン形成特殊講義(国際平和交流セミナー) GB  
 特殊講義(自由選択) (国際平和交流セミ GB  
 特殊講義(基礎) (国際平和交流セミ) GB  
 特殊講義(基礎)1(国際平和交流セミナー) GB

20172

授業開講期間 夏集中 単位数 2 担当回生 1以上  
 担当教員 徐勝

#### 講義内容・テーマ

国際交流セミナーは、教員の指導のもとでの旅行と実地体験をとおして、平和な世界づくりに貢献する「地球市民」を育てようとする正課の教学プログラムです。戦後50周年を記念して1995年度より開始し、今年で7回目になります。毎年、夏休みの期間を利用して担当教員と様々な地域を旅し、国際的な実地体験をとおして、国際理解と協力、世界平和の構築の道を探ってきました。今年、第二次世界大戦が終わって60年になる年です。日本と韓国が国交を結んで40年目の年にもあたります。それで、「日韓友好の年」として日韓両政府や民間団体が様々な行事を準備しています。また、「冬ソナ」ブームの影響もあり、日本で韓国のイメージは急速に変わっています。しかし、韓国をとりまく状況には依然として厳しいものがあり、朝鮮戦争の記憶はまた、社会の隅々に残っています。だから、昨年の11月、プッシュ大統領の当選の直後に、盧武鉉大統領はロサンゼルスで、「どんなことがあっても、朝鮮半島で戦争をするわけには行かない。対話で問題解決するしかない」と講演したのです。世界最初の、唯一の被爆国日本では、とてつもない大惨事の記憶が薄れようとする近頃ですが、韓国では多くの不幸な事件を経験してきたからこそ、平和への強い願いを持つようになったといえるでしょう。今回のセミナーでは、韓国の人たちが平和についてどのように考え、平和を守ろうとしているのかを、38度線、板門店、米軍の射撃場のあった梅香里、元日本軍「慰安婦」がお住まいの「ナムムの家」への訪問、韓国の学生、平和NGOの人たちなどとの対話を通じて理解していただきたいと思います。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

募集人数:20名  
 受講登録制限外科目とします。  
 4月に募集要項を掲示し、募集説明会を開催します。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	50%	事後に提出するレポート
日常点(小テスト)	50%	事前事後講義への参加状況、現地実習における状況

この科目の登録は一般の受講登録とは別に行い、受講登録制限外の扱いになります。単位取得には旅行に参加するだけでなく、事前・事後に行われるセミナーへの参加、事後レポートの作成が必要です。所定の学修成果に対して2単位が与えられます。

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
別途募集説明会等で説明します。	

#### テキスト

#### 参考書

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

特殊講義(国際平和交流セミナー) GC  
 ヴィジョン形成特殊講義(国際平和交流セミナー) GC  
 特殊講義(自由選択) (国際平和交流セミ GC  
 特殊講義(基礎) (国際平和交流セミ) GC  
 特殊講義(基礎)1(国際平和交流セミナー) GC

20177

授業開講期間 夏集中                      単位数 2                      配当回生 1以上  
 担当教員 金丸 裕一

#### 講義内容・テーマ

このプログラムは、1997年に実施されて以来8年ぶり4回目であるが、学園国際化の進展に伴い急増した中華人民共和国内における姉妹校などとの交流を促進することを目的とする。現地では、上海、南京、香港を中心に周る。上海の復旦大学国際文化古流学院において現地学生と交流、同大学教員には平和問題における講義を行ってもらう。セミナーは、現地大学学生との交流、現地講義と平和記念館・博物館等を見学し、日本では知られていない歴史を現地の人・物を通して探求する。現地の諸機関(7機関を予定)の受け入れ責任者は1995年以降少なくとも1回は本学を訪問しており、平和ミュージアムの趣旨や設立を高く評価している。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

募集人数:25名  
 受講登録制限外科目とします。  
 4月に募集要項を掲示し、募集説明会を開催します。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	50 %	事後に提出するレポート
日常点(小テスト)	50 %	事前事後講義への参加状況、現地実習における状況

#### 講義スケジュール

内 容    キーワード  
 別途募集説明会等で説明します。

#### テキスト

#### 参考書

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

#### その他

国内インターンシップ GC  
海外インターンシップ GC

13500

授業開講期間 後期集中                      単位数 4                      配当回生 2以上  
担当教員 徳川 信治

#### 講義内容・テーマ

本科目は、大学コンソーシアム京都が募集・実施するインターンシップであり、受講を希望する学生は各自で申し込み手続きを大学コンソーシアム京都に行く。なお、大学コンソーシアム京都にてインターンシップを受講許可を受けた者のうち、本科目への単位認定を希望する場合は、別途本科目への受講登録手続きが必要。詳細は4月に実施するインターンシップガイダンスで発表予定。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

インターンシップの内容を一段と深めるために、「インターンシップ入門」(2回生後期配当科目)を受講するのが望ましい。また「全学インターンシッププログラム」で学習した内容を一段と深めるために、「キャリア形成論」(3回生前期配当科目)の受講を勧めます。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
その他	100 %	大学コンソーシアム京都インターンシップへの受講状況、研修先の評価等をふまえ、総合的に成績評価を行う。

大学コンソーシアム京都インターンシップへの受講状況、研修先の評価等をふまえ、総合的に成績評価を行う。

#### 講義スケジュール

内 容	キーワード
事前講義(大学コンソーシアム京都にて実施)	詳細はガイダンス時に発表
インターンシップ研修	詳細はガイダンス時に発表
事後講義(大学コンソーシアム京都にて実施)	詳細はガイダンス時に発表

#### テキスト

必要に応じて適宜指示する。

#### 参考書

必要に応じて適宜指示する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

必要に応じて適宜指示する。

#### その他

国内インターンシップ GC  
 海外インターンシップ GC  
 特殊講義(基礎) (インターンシップ) GC  
 特殊講義(基礎)1(インターンシップ) GC

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 2以上  
 担当教員 徳川 信治

#### 講義内容・テーマ

本科目は、大学コンソーシアム京都が募集・実施するインターンシップであり、受講を希望する学生は各自で申し込み手続きを大学コンソーシアム京都に行く。なお、大学コンソーシアム京都にてインターンシップを受講許可を受けた者のうち、本科目への単位認定を希望する場合は、別途本科目への受講登録手続きが必要。詳細は4月に実施するインターンシップガイダンスで発表予定。

#### 受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

インターンシップの内容を一段と深めるために、「インターンシップ入門」(2回生後期配当科目)を受講するのが望ましい。また「全学インターンシッププログラム」で学習した内容を一段と深めるために、「キャリア形成論」(3回生前期配当科目)の受講を勧めます。

#### 評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
その他	100 %	大学コンソーシアム京都インターンシップへの受講状況、研修先の評価等をふまえ、総合的に成績評価を行う。

大学コンソーシアム京都インターンシップへの受講状況、研修先の評価等をふまえ、総合的に成績評価を行う。

#### 講義スケジュール

内容	キーワード
事前講義(大学コンソーシアム京都にて実施)	詳細はガイダンス時に発表
インターンシップ研修	詳細はガイダンス時に発表
事後講義(大学コンソーシアム京都にて実施)	詳細はガイダンス時に発表

#### テキスト

必要に応じて適宜指示する。

#### 参考書

必要に応じて適宜指示する。

#### 授業の方法(大学院科目のみ)

#### 参考になるWWWページ

必要に応じて適宜指示する。

#### その他